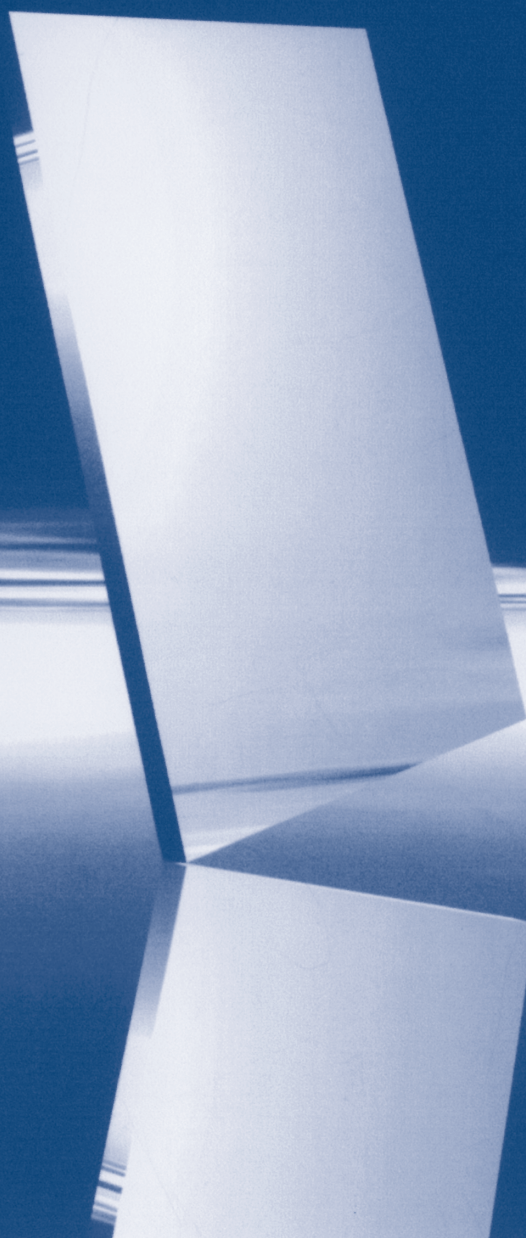


福 島 学 院 大 学
福 島 学 院 大 学 短 期 大 学 部
平 成 28 年 度 自 己 点 検 ・ 評 価 報 告 書



目次

刊行にあたって	1
第1章 学科等における「教育運営計画」に関する自己点検・評価及び改善方策	2
第2章 学生による授業評価アンケート結果	
平成28年度「学生による授業評価」アンケート結果について	42
学科別集計：専任教員結果グラフ	45
学科別集計：非常勤教員結果グラフ	47
アンケート設問項目一覧	49
第3章 専任教員にかかる平成28年度教育研究活動及び学生による授業評価アンケート結果に関する自己点検	51
第4章 授業参観結果報告	
平成28年度監事(監査役)による授業参観結果	100
平成28年度学長・学科長による授業参観結果	104

刊行にあたって

福島学院大学では平成7年より年度ごとに自己点検・評価活動を進めており、平成22年から結果を公表している。

平成28年度の「福島学院大学自己点検・評価報告書」は、大きく四つの点についてまとめた。一つは、学科長による「教育運営計画」の自己点検ならびに改善方策の報告である。これは一年間の教育運営の指針となる極めて重要な計画であり、年度初めに策定し表明した「教育運営計画」に基づき、28年度の実施に関して各学科長が振り返り、次年度の改善計画を掲げた内容となっている。

二つ目は、「学生による授業評価アンケート結果」の報告である。アンケートの集計結果は、専任教員と非常勤教員とを、学科別に分けてグラフ表示している。

三つ目は、専任教員の「平成28年度教育研究活動及び授業評価アンケート結果に関する自己点検」である。各教員が行ったものを報告している。次年度の授業改善につながる指針として各教員から示されている。

四つ目は、「授業参観結果」の報告である。毎年度実施している監事・監査役による授業参観結果及び学長・学科長による授業参観結果をまとめている。

今年度も自己点検・評価活動にあたっては教職員の多大なご尽力を賜り、実施することができた。改めて心より感謝申し上げます。

平成29年7月

学 長 小 松 由 美

第1章 学科等における「教育運営計画」に関する 点検・評価及び改善方策

大学院心理学研究科

研究科長 内藤 哲雄

計画事項	達成状況及び改善方策	評価 (5段階)
評価の概要	臨床心理学専攻では、国家資格の法案成立にともない「公認心理師養成カリキュラムの現状と対策」、こども心理専攻では、「アクティブラーニングの実践についての研究」のように内容に独自性がみられるものもあるが、いずれの専攻も記載事項について実施し、概ね高い成果を上げている。	5
計画記載以外で実施した事項 1. 大学院生と学部生の交流会	臨床心理学専攻で、「大学院生と学部生の交流会」が試みられたことによる影響と考えられるものとして、学部からの現役合格者が3名であった。	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>専攻の運営にかかる事業</p> <p>1. 臨床実習の機会と個別指導の充実</p>	<p>高い臨床実践力・研究能力の育成のために本専攻では様々な事業を展開している。とくに臨床実習を多く経験させ、それに伴う個別指導(スーパーヴィジョン)を受けさせた。平成28年度は大学院生の実習は延べ385時間にのぼった(前年度は320時間)。着実に学生の実習機会を増加させることができていると判断する。今後も継続していきたい。</p>	5
<p>2. 臨床心理ワークショップの実施</p>	<p>本事業は、在學生と修了生と地域の心理臨床家の交流促進を意図して計画された研修会(専門家向け公開講座)である。平成28年度は、事例検討会およびワークショップにおいて、交流会の時間を設定した。事後アンケート結果は概ね良好であり、交流会の設定によって、在學生や修了生にとって臨床心理士資格試験の情報や第一線で働く心理臨床家のイメージをより具体化する機会とすることができたと考える。</p>	5
<p>3. 大学院一般公開講座の実施</p>	<p>第1回 平成28年7月17日 第2回 平成28年11月20日 上記2回開催した。内容については概ね好評であったが、その一方広報に苦勞した。次年度は早期の準備と後援名義を増やすこと等で対応していく。</p>	4
<p>4. 修士論文研究計画発表会および修士論文発表会の実施</p>	<p>以下の日程で開催した。 修士論文研究計画発表会 平成28年9月25日 修士論文発表会 平成29年3月8日 ☆在學生の研究成果を発表する機会として設定しているが、研究を進める上でのメルクマールとしての機能や、下級生の研究の示唆ともなっており、研究能力養成において十分に目的は達成されているものとする。</p>	4
<p>5. 専攻FDの実施</p>	<p>本年度は1回実施した。 平成28年9月29日 「公認心理師養成カリキュラムの現状と対策」 杉山教授より公認心理師養成課程についての現時点での情報共有した。とくに授業担当者の目途をつけることや実習先の拡大が急務であることが確認され、カリキュラムが未決定ながらも、できる準備を進めていく必要性を共有した。本FDの実施により、日々の授業においても公認心理師を意識した内容を取り入れ、各自担当科目について次年度シラバスにも反映させていくための材料となった。</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
6. 専攻評議員会の開催	<p>運営計画の通り、2回開催した。</p> <p>第1回 平成28年10月1日 第2回 平成29年3月18日</p> <p>☆養成校や地域の医療機関で勤務している評議員から、公認心理師法の施行を受け、地域にとって有能な心理職者を育成すべく、養成機関が積極的に情報共有していくことが提案され、共有する場となった。その他、学識経験者、修了生それぞれの立場からの貴重な意見を聴取することができた。</p>	4
7. 入学志願者説明会の開催	<p>運営計画の通り、2回実施した。</p> <p>第1回 平成28年8月20日 第2回 平成28年11月5日</p> <p>☆今年度も、社会人経験者が多く参加する会となった。実習に関することや、研究に関すること等社会人が本専攻で学ぶときの留意点等を丁寧に説明することができ、優秀な人材の選抜につなげることができた。</p>	5
計画記載以外で実施した事項 修士論文中間発表会の実施	<p>これまで、本専攻における修士論文に関する発表会はM1前期末および修士論文完成後の2回であった。しかし、M1前期末以降、研究計画が変更となる院生が多いことや、その後の進捗が滞る院生も多い実状があったことから、M2前期末にも研究の進捗状況について発表する機会を設けることとした。平成28年度は9月25日に修士論文研究計画発表会と同時開催した。発表会自体は全院生にとって刺激となったことが推測されるが、今年度は年度計画に入れていなかったことから、一部の都合がつけられない院生もいた。このことを受け、次年度学事日程に組み込み早期にガイダンスを行うこととした。</p>	4
大学院生と学部生の交流会	<p>学部生の大学院に対するイメージを具体化させ、学内進学希望者を増加させる目的で、学部生と院生の交流会を設ける試みを行った。学部生からは大学院生のイメージや大学院で行うことの情報が具体的になったとのコメントが多かったことから、目的は概ね達成できたものと考えられる。これを受け、平成29年度には事業化し、予算の計上を行った。</p>	5
その他(特記したい事項) 平成28年度臨床心理士資格試験について	<p>平成28年度に実施された公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会主催の臨床心理士資格審査(試験)は、9名受験し、5名の合格者を出した。中でも新卒者の合格率は高かったが、既卒者の合格率が低迷したことが課題である。これを受け、勉強法の情報提供や交流会の設定等、意欲向上および効果的な学習方法の獲得を支援していきたい。</p>	

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1. 宮代キャンパスにおける 大学院こども心理専攻学修 メインキャンパスの運営</p>	<p>駐車場が完備され、勤務先からの利便性に富む宮代キャンパスを学修メインキャンパスとして、授業を開講した。院生懇話会による意見聴取でも宮代キャンパスでの開講は非常に高く評価された。</p> <p>⇒ こども心理専攻の所属教員4名が宮代キャンパスに研究室を持っており、オフィスアワーの有効活用で学修支援を継続して提供していく。</p>	5
<p>2. 多様なメディアを高度に 利用して行う授業の実施</p>	<p>テレビ会議システムを使って駅前キャンパスと宮代キャンパスで同時双方向の授業を運営した。宮代キャンパスで受講できることで、履修科目の幅が広がり、臨床心理学専攻との合同授業であるため、刺激的で学修意欲が向上したとの感想が院生懇話会で聞かれた。</p> <p>⇒ 次年度の時間割設計でも取り入れ、宮代キャンパスを学修メインキャンパスとして運営する効果的な方法として継続活用する。</p>	5
<p>3. 夏期集中講義の実施</p>	<p>8月19日～21日 家族心理学 9月2日～4日 精神医学特論</p> <p>夏期休業中に集中講義を福島駅前キャンパスで行った。臨床心理学専攻との合同開講科目であるため、非常に刺激になったとの院生懇話会における意見であった。</p> <p>⇒ 次年度も同様に開講する。</p>	5
<p>4. 後期集中講義実施</p>	<p>10月30日、11月6、13、27日 心理カウンセリング演習 12月10～11日、1月22日 現代保育者事情特論</p> <p>後期集中講義を実施するに当たり、院生の勤務に考慮し、心理カウンセリング演習を日曜日に開講するとともに、現代保育者事情特論を土日開講で行った。天候による交通の遅延などもなく、スムーズな集中講義となった。次年度も同様の開講とする。</p> <p>⇒ 次年度も同様に開講する。</p>	5
<p>5. 大学院公開講座</p>	<p>今年度より、臨床心理学専攻と合同で「大学院公開講座」を実施した。</p> <p>第1回 7月17日 第2回 11月20日</p> <p>内容については概ね好評であったが、その一方広報に苦労した。</p> <p>⇒ 次年度は、早期の準備と外部団体(学校心理士会や臨床心理士会、臨床発達心理士会など)の資格更新研修会と共催での開催や、後援名義を増やすことで参加者増をはかっていく。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
6. 修士論文指導会の開催	<p>修士論文指導会を5月から11月(夏期休業中の8月は実施せず)の6回、エントリー制で宮代キャンパスにて実施した。今年は、学会での発表形式を採用し、修士論文制作学年在生をを対象とした。</p> <p>⇒ 次年度は、専攻在生全員を対象とし、指導教員と連携をとりながら学生の活発な発表を導く予定。</p>	3
7. 修士論文発表会の実施	<p>修士論文審査合格者の研究を発表する機会として修士論文発表会を開催した。</p> <p>開催日：3月8日 開催場所：宮代キャンパス 34番教室</p> <p>昨年同様、短期大学部所属教員や事務系職員も含め、学内の教職員に発表会開催の通知をし、参加を呼びかけた。</p> <p>⇒ 次年度の発表会も同様に広く公開する。</p>	5
8. 専攻内FDの実施	<p>こども心理専攻は、専攻会議のあと、アクティブラーニングや修士論文指導の工夫に関する情報交換を通して、活発なディスカッションが行われた。アクティブラーニングには消極的な大学院の授業形態を変えて行こうとの考えからである。加えて、平成28年度は、ICT活用の双方向授業も実施したので、その事前準備についてや実施後の教育効果について情報共有を行ってきた。</p> <p>⇒ 次年度は、大学院の研究教育で、学修効果の高いアクティブラーニング手法について検討と研究を重ねる。</p>	4
<p>計画記載以外で実施した事項</p> <p>修士論文作成スタートアップ研修会</p>	<p>4月5日に修士論文作成スタートアップ研修会を新入生オリエンテーションにあわせて実施した。今現在修士論文に取り組んでいる院生のミニ講演で、どのような準備が必要で、どのようなステップで指導を受けてきたかを聞き、修士論文作成のスタートアップとした。</p> <p>⇒ 修士論文作成への意識付けとして次年度も継続してゆく。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格に向けての取り組み</p>	<p>【実施報告】 ①社会福祉士養成、精神保健福祉士養成、保育士養成に関する確認申請の事務手続きの(監督官庁への)対応 ②国家試験受験対策講座(基礎、直前対策講座)開講 ③精神保健福祉士専門科目国試対策セミナー開講 ④社会福祉士・精神保健福祉士全国统一模擬試験の実施 ⑤社養協・精養協国試対策直前Web講座パブリックビューイング及び有資格者によるポイント講座の開講 ⑥授業科目「特別研究(ソーシャルワーク研究)」</p> <p>【達成状況】 平成28年度の資格取得者数は、社会福祉士(受験資格)18名、精神保健福祉士(受験資格)9名、保育士10名、認定心理士(認定資格)12名であった。 社会福祉士6名(本学合格率33.3% / 全国合格率25.8%)、精神保健福祉士3名(本学合格率30.0% / 全国合格率62.2%)であり、社会福祉士は、全国合格率を上回る成果であった。しかし、精神保健福祉士は、全国合格率を上回る成果を出すことができなかった。</p> <p>【改善方策】 平成29年度は、両国家資格とも合格率50%を目指し、各種講座を実施する。加えて、過去に出題された問題を解く力を養うためのトレーニングや近年の改正法令、制度等の指導を教員と学生との空き時間等を活用し勉強会を企画・実施する。</p>	<p>4</p>
<p>2. 実習教育の見直しと更なる充実</p>	<p>【実施報告】 ①「地域ボランティア活動」「地域振興活動」学内指導 ②「資格取得志望面接」対象2年生 ③「ソーシャルワーク技術チェック面接」対象4年生 ④ゲストスピーカー招聘 ⑤実習指導者との意見交換会 ⑥実習反省会「相談援助実習・精神保健福祉援助実習、保育実習」</p> <p>【達成状況】 ①「地域ボランティア活動」「地域振興活動」履修生は、事前学習として、ボランティアの基本的理念・倫理についての講義・ディスカッションの機会をクラスセミナーで行った。 ②社会福祉士、精神保健福祉士を希望する学生を対象に実習担当教員による資格取得志望の面接を実施した。 ③事例をもとに学生相互のロールプレイと観察により実習事前指導の一環として実施し、実習先でもスムーズに導入できた。</p>	<p>5</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>④クラスセミナーの授業を活用し、保健・福祉現場で活躍する専門職者を招聘し、仕事の内容や体験談、体験しておくべきこと等を講話いただいた。</p> <p>⑤実習指導者との意見交換により、実習指導がより円滑に進められ、無事実習を終えることができた。</p> <p>⑥実習事後指導の一環として実習反省会を実施し、実習生は総まとめと発表ができた。次年度以降、実習を希望する学生にとっても実習を具体的にイメージできるものとなった。反省会終了後、履修生と後輩学生との交流会(情報交換)を行った。</p> <p>【改善方策】 1年次から希望の職場や職種を目指し、早期に国家試験受験対策や大学院進学の勉強に着手できるようクラスセミナーにおけるゲストスピーカーの招聘、学外活動の事前事後指導の充実を行う。</p>	
<p>3. 学生生活の支援</p>	<p>【実施報告】</p> <p>①個別面談 前期・後期</p> <p>②連続欠席者等の把握 前期・後期</p> <p>③オフィス アワーの周知</p> <p>④学科授業改善委員会</p> <p>⑤ 学生相談</p> <p>【達成状況】</p> <p>①前期後期に各学年クラスアドバイザーとサブアドバイザーによる個別面談を実施し、早めの対応を心がけた。</p> <p>②連続欠席者等の把握と個別指導及び情報共有を図り、後期・次年度の対応に活かした。</p> <p>③オフィス アワーを設け、学生が相談を受ける機会を確保した。</p> <p>④学科授業改善委員会 教室や授業環境について学生目線での意見を受け改善に努めた。</p> <p>⑤学生相談 心理臨床相談センターにおける個別の学生相談による学生生活支援がなされている。</p> <p>【改善方策】 学生個々の学生生活・学修面について相談支援を行ってきた。しかし、平成28年度は主として、保護者の経済的理由から退学を余儀なくされた学生が目立ち、休日及び時間割外にアルバイトを行う学生が増加傾向にあることから、学事・行事で、学生の負担が出ないよう特段の配慮を行う。</p>	<p>5</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
4. 就職対策	<p>【実施報告】 キャリア支援室との共催事業「ご家族就職説明会」 (対象2～4年生の保護者、学生)開催</p> <p>【達成状況】 キャリア支援室との就職情報共有を図り、5年連続100%を達成することができた。ご家族就職説明会では、卒業生の体験談及びご家族との個別面談により就職へ向けての意欲喚起と早めの情報共有を図った。</p> <p>【改善方策】 卒業後の状況調査「卒業生・就職先アンケート」の結果の改善点について、科内会議等で意見交換し、キャリア教育に関して、改善策をまとめるとともに、実施できる事柄は年度内に取り組む。</p>	5
5. 教育力の向上に向けた取り組み	<p>【実施報告】 ①学科FD研修会 2回開催 ②非常勤FD研修会 2回開催 ③学科評議員会 2回開催</p> <p>【達成状況】 ①社会福祉士、精神保健福祉士、保育士養成課程について情報共有と意見交換を行った。今後の教育の充実につなげたい。 ②非常勤と専任教員間で参加型の学習に向けての工夫点や聴く力を学生に歩み寄っていく等意見交換された。 ③学科評議員5名の参加のもと、学科教育課程並びに、運営について意見をいただくとともに、キャリア教育についても参考とすべき情報提供が得られた。</p> <p>【改善方策】 更なる教育の充実を図るため、FD研修会を実施する。現行の評議員は任期満了となるため人選を行う。</p>	5
6. 地域貢献活動を推進する	<p>【実施報告】 ①福島市社会福祉協議会主催「ふれあい広場」に運営スタッフとして協力 ②ふくしまキッズ実行委員会主催「ふくしまキッズ博」企画・運営スタッフとして協力 ③「バリアフリー観光推進全国フォーラムふくしま大会」スタッフとして協力</p> <p>【達成状況】 ①授業科目「福祉キャリア研究」の受講生を中心に子どもが遊ぶ場を提供した。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>②ふくしまキッズ博のアカデミアコンソーシアムふくしまによる市内4大学の学生実行委員会に参加し、企画実施、ACF成果報告会で発表することができた。</p> <p>③福島市、ふくしまバリアフリーツアーと福島市観光コンベンション協会が実施した『バリアフリー観光推進全国フォーラムふくしま大会』に学生延べ94名参加しスタッフとなり協力した。</p> <p>【改善方策】 学生個人が、様々な年代、職種の方々と交流することで、コミュニケーション能力を養う機会となるよう主催団体との連携を引き続き行う。</p>	
<p>計画記載以外で実施した事項</p> <p>1. 地域貢献活動</p>	<p>①福島市消防団 第一方面隊が実施した「2016年度 消防フェア」のイベント行事に参加し、『塗り絵、クイズコーナー』を担当し来場者・子どもと交流を行った。</p> <p>②福島市まちなか子ども夢駅伝競走大会実行委員会(事務局：福島民友新聞社)が実施した大会に運営スタッフとして参加し、スポーツ推進に寄与した。</p> <p>③土湯温泉観光協会が実施した『第2回土湯温泉ぶらっと温泉バル』のイベントに協力した。</p> <p>その他、地域のわらじ祭り、七夕祭り、稲荷神社例大祭等に学生がボランティア等で参加した。</p> <p>次年度も引き続き、クラスセミナー等で、地域の行事等の周知、参加の呼びかけを行っていく。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1. 教員免許課程認定審査基準等各種法令に基づく運営</p> <p>○授業日数15回を確保。 ○法令に基づく指定基準の資格要件を満たした教員配置推進。(研究業績等の管理徹底)</p>	<p>○ 幼稚園教諭免許状取得では「教育職員免許法」および「同施行規則」を、保育士資格取得においては厚生労働省児童家庭局保育課発行の「教科目の授業内容」に明記されている事項を順守してきた。</p> <p>また教員の配置は設置申請書の通り新学期を迎え、「専任教員採用等設置計画変更書」により、27年度末に新たに専任教員の資格審査を受け補充した教員と共に、遺漏なく進化した。また保育士養成課程に於いて厚生労働省の教科目の授業内容に添う専任教員の充実を図るべく、指定領域分野の専任教員の配置をし、これも27年度末に「設置計画変更書」により専任教員中科目充当可能な教員に再配置し資格審査で「適格」を受けることができた。</p> <p>更に、教員配置につき職位のバランスを考え、また教員個々の研究業績を踏まえ、講師2名の准教授昇格を図り、「設置計画変更書」により資格審査「適格」の判定を受けることが出来た。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策 新設として認可を受けたこども学科は、完成年度となる平成30年度末まで、毎年履行状況報告が求められる。設置申請内容と細部にわたり齟齬のないよう実施・点検を行っていく。</p>	<p>5</p>
<p>2. 「認定こども園基本実習」の履修と教育・保育実習への援助</p> <p>一班：9月15日～23日 二班：9月26日～30日</p>	<p>こども学科の「認定こども園基本実習」は教育実習単位の一部に含まれる短期大学部保育科の基本実習と相違し、教職科目に位置づけられた独立した科目単位となっている。同実習は幼稚園教諭免許状、保育士資格取得希望者を対象に全ての学外実習に先立ち実施するもので、学外実習の水準を確保するため、本学の認定こども園において1週間(5日間)行った。実習事前指導と受講学生の意欲により、総じて評価の高い実習となった。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策 次年度も実習事前・事後指導の徹底と学生の意識維持を図りながら、有意義かつ効果的な実習ができるように支援していく。</p>	<p>5</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>3. 教員免許状更新講習</p> <p>必修領域実施日 7月29日</p> <p>選択必修領域 7月30日</p> <p>選択領域実施日 8月8日～10日</p> <p>受講者人数</p> <p>必修領域： 120人</p> <p>選択必修領域：120人</p> <p>選択領域： 120人</p>	<p>28年度より、文科省教職員課ガイドラインの変更に伴い、新たに「選択必修」領域の追加による実施となった。全体の受講時間数に変更は無いものの科目設定等に複雑さが増す講習会であった。</p> <p>昨年同様、保育所(保育士：受講対象者枠が幼稚園教諭の免許状を持っている保育士に拡大)勤務者への受講促進が図られ、今年度も保育所(保育士：受講対象者枠が幼稚園教諭の免許状を持っている保育士)からの応募が多く、この傾向は数年続くものと思われる。</p> <p>学生の実習先幼稚園、保育所から募集定員増の要望が多く寄せられ募集定員を100名とし、1クラス50名の2クラス編成で実施した。それでも受講申し込みは即日満席となり、本講習の需要の高さを窺わせた。</p> <p>昨年度の反省から、夏場における受講生の健康管理、教室等環境整備の配慮に特に気をつけ、大過なく全日程を終了することができた。</p> <p>次年度29年度から新免許状所有者(平成21年4月1日以降、更新制導入後に授与された免許状)の更新講習が受講可能期間となる。現在受講している旧免許状所有者は、本人の生年月日により修了確認期限を割り振られているが、新免許状所有者は免許状の取得年月日(取得後10年)により修了確認期限が決まる。受講可能期間は有効期間満了日の2年2ヶ月前から2ヶ月前までの2年間とされるため、今後2年間は新旧免許状所有者の更新講習が重なることとなる。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策</p> <p>新旧免許状所有者の更新講習の初年度となる 29年度は募集定員100名から120名へ20%増として開催する計画としていく。30年度は更新講習の2期制(例えば夏期講習会と冬期講習会)を視野に入れ、29年度更新講習に全力を尽くしてあたっていく。</p>	5
<p>4. 正課外の特別講座開催</p> <p>①国語力向上特別講座</p> <p>4月29日</p> <p>11月11日</p> <p>参加対象：新入生 (保育科第一部新入生と合同開催とした)</p>	<p>28年度の新入生を対象として、国語力の向上を図ることを目的に、国語表現授業担当者による特別講座を開催できた。国語力の向上を目的としたものであるが、新入生には大学教育の入門的要素を加え、入学までの具体的な指導ができた。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>②コンピュータ特別講座 5月16日～7月15日 7月27日～28日</p> <p>11月7日～12月16日 1月23日～2月3日</p>	<p>PC活用を目した講座を予定通り開講実施できた。本講座は、学生の自主性に任せるのではなく、社会人になった時に必ず役立つことを前提に計画した講座である。内容的には「デジタル地図サービスの活用」として、3年次以降自分が赴く実習先への地図をそれぞれの条件(自動車・鉄道)によって提示すべき地図が異なることを理解することを中心に「地図」という題材を基に、相手に分かりやすい的確な情報を適切に提示することが有効であることを理解させることができた。</p> <p>次年度さらに全般的に学生にもPCスキルアップが望める内容を構築していく。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策</p> <p>3年次において保育実習Ⅰが始まる。実習訪問において学生の作成した地図の有効性が検証でき、それら踏まえ、次年度さらに全般的に学生にもPCスキルアップが望める内容を構築していく。</p>	
<p>5. 児童福祉施設見学実習 9月27日 1年生23名 欠席者3名</p>	<p>1学年にとって初めての施設見学であった。見学実習当日に、引率者および保育科第一部教職員の協力を得て実施できた。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策</p> <p>学科設置以来、保育科第一部1年次の「児童福祉施設見学実習」と共催し同学科の教職員の協力を得て実施してきたが、次年度、訪問児童福祉施設の変更を計画する同学科の内容から、こども学科独自の開催としていく。</p>	5
<p>6. ご家族との個別面談会 7月9日 参加者数 20組(40名)</p> <p>①午前の部 9:30～11:30 11組(22名) ※こども学科5組(9名)</p> <p>②午後の部 13:00～15:00 9組(18名) ※こども学科1組(2名)</p>	<p>昨年度、遠方からの参加も考慮し、相談会修了後に余裕が取れる土曜日開催が最善とする反省から、今年度は、土曜日に開催とした。</p> <p>事前調査用紙により教員は相談内容の概要を把握していたため、より具体的なアドバイスができたと考えられる。保育科第一部等との合同開催のため、学科・クラスにより希望者数、午前午後の希望にばらつきがあり、事前に番号札も準備して臨んだ。会場内の混乱を避けるため次回も用意する。順番が後の方に対しては、相談内容に応じて別の相談から行っていただくよう案内する。相談者が納得のいくまで相談に応じる体制を維持しつつ、状況によりアドバイザーを分けて配置する等、臨機応変な対応を行った。</p> <p>ご家族の理解とともに家族内での学生との共通理解を深める場として次年度も活用したい。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>7. 国内研修旅行</p> <p>9月29日～30日</p>	<p>保育者を目指す者として必要な知識・教養等について体験を通して学ぶことを目的に実施した。各訪問先(園・施設)に関する事前調査の度合いが学生同士で温度差(特に東京コース)があり、充実した研修となるよう事前指導が重要である。次年度徹底していく。</p> <p>栃木研修コース こども学科6名(参加総数19名) 東京研修コース こども学科8名(参加総数71名) 米沢研修コース こども学科8名(参加総数30名)</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策 任意参加の研修であるが1学年全員の参加があった。次年度入学予定数を勘案し、また学生の経済的負担を軽減出来るよう日帰りコースを増やし実施するよう計画していく。</p>	4
<p>8. スポーツ大会</p> <p>11月22日 10:00～15:30 場 所:福島市 国体記念体育館</p> <p>参加者:こども学科40名 (1年生19名、2年生21名) 保育科第一部 1・2年生 197名 教職員…………… 24名</p>	<p>昨年度よりこども学科・保育科第一部合同の行事として、学科教員も参加して2年目の開催である。</p> <p>利用施設の広さ、利用方法に問題は無く、交通手段に関しては十分な節約効果もあった。大会自体は、非常に活気づいたスポーツ大会となった。競技の企画・運営の中心となった両学科学友会やクラス役員(副委員長、運動)の協力により、1学年・2学年内だけでなく、教職員が交流し親睦を深めることができた。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策 次年度はこども学科も3学年体制となり、福祉学部としての行事とし、福祉心理学科と合同開催により、国体記念体育館での実施としたい。</p>	5
<p>9. 保育実習反省会への参加</p> <p>12月10日</p>	<p>昨年度は短期大学部の実習反省会へ参加し、学生の体験を通して各実習の概要や実習へ臨む心得等を学ぶ機会とした。28年度に於いては学生自身も認定こども園基本実習を履修し、またこども学科の保育士養成課程の母体となった福祉心理学科における保育実習最終年度(3年次の施設・保育所実習)であることから、同学科の実習反省会へ参加した。</p> <p>また28年度はこども学科においても「認定こども園基本実習」を経験し、代表者による発表も行い、傾聴に留まる催しでは無く積極的な反省会への参加となった。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策 次年度は、3年次の保育所実習が始まり、2年次の認定こども園基本実習もある事から、こども学科独自の開催を計画していく。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
10. 教材・教具の充実	<p>体育(幼児体育)教具の充実</p> <p>新設学科として、教材・教具の充実を年度毎に図っていく。今年度は既にある跳び箱や平均台に加え「鉄棒」を導入し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な想像力や、こどもが運動に親しむための指導力を身につける教育を展開してきた。次年度においても体育及び他教科に必要な教材・教具の充実を推し進めていく。</p> <p>次年度留意事項もしくは改善方策</p> <p>次年度は幼児用心理検査、体育(幼児体育)用のマットの整備を進めて行き、引き続き完成年度までの教材・教具の充実を図っていく。</p>	5

保育科第一部

学科長 渡 辺 雅 子

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1. 指定保育士養成施設指定基準、および教員免許課程認定審査基準に基づく学科運営</p>	<p>幼稚園教諭免許状取得では「教育職員免許法」および「同施行規則」を、保育士資格取得においては厚生労働省児童家庭局保育課の「教科目の授業内容」に明記されている事項の順守に努めているが、教員配置としては、専門教育科目担当の専任教員に手薄感があり、こども学科専任教員と非常勤教員で充当した。次年度に向けて、専任教員3名(教養教育科目1名、専門教育科目2名)の採用を行い、教員を配置した。</p> <p>➡ 次年度は、教育職員免許法改正に伴う再課程認定の申請に伴い、担当科目に合致した若手教員の新たな発掘が急務となる。併せて、学科所属の現専任教員の業績積上げを強く指導し、学科内登用や指定される領域への汎用性を高めるため、次年度も同様に業績積上げを奨励していく。</p>	<p>3</p>
<p>2. 保育士資格と幼稚園教諭免許状にかかる教育課程の適切な編成</p>	<p>保育科第一部の教育課程は、資格・免許状取得に必要な授業科目と単位数等で構成されている。授業計画は、特に必修の専門教育科目については、厚生労働省・文部科学省が示す授業内容を十分満たされているか点検を行った。</p> <p>➡ 次年度は、再課程認定の申請により、平成31年度入学生からの教育課程の改正を進めていくが、その他の授業科目についても名称や内容の見直しを図る。特に平成30年度に向けて、「ピアノ演習」にかかる教育課程の改正を実施していく。また、科目によっては、こども学科教育課程との調整も行う。</p>	<p>2</p>
<p>3. 教員免許状更新講習の開催</p>	<p>「教員免許状更新講習」は平成28年度で8年目を迎えた。本年度は新たに「選択必修領域」を導入し、総時間数に変更はないが、受講生の募集や受講形態がより複雑化したものとなった。また、昨年度から学生の実習先である幼稚園、保育所等から、募集定員増の要望が多く寄せられ、募集定員を一気に倍の100名で実施したところである。</p> <p>ところが、本年度も多数の応募があり120名で実施することとなった。猛暑の中での受講生の健康管理や教室等の環境整備は、受講生倍数以上の配慮が必要であった。</p> <p>➡ 募集定員を100名で実施したが、それでも応募者が倍近い人数となることから、次年度は初めから大教室に収容できる人数、120名(60名×2クラス)で募集をする。</p> <p>また、文科省から、『子供の貧困問題』を取り扱う講習の開設を検討するよう通知があったため、「選択必修領域」、もしくは「選択領域」において取り扱う。</p>	<p>4</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>4. 教育・保育実習への援助と指導強化</p>	<p>○実習授業の強化</p> <p>実習主任を中心に、実習別に授業担当者による打合せを行い、指導内容の検討と共通理解を図った。また、実習意見交換会で実習先から指摘が多かった『日誌や指導計画案の作成の仕方』に重点をおいた事前指導を行った。</p> <p>なお、指導計画案は、従来の手書きからパソコンで作成・提出させる実習施設が増えていることから、前期「コンピューター特別講座」の内容を一部変更して、希望者を対象に『指導計画案作成講座』も開催した。</p> <p>各実習の主な事前指導、取り組みは以下の通りある。</p> <p>・施設実習の事前指導(2年生)</p> <p>実習先施設の種別ごとにグループ分けをし、ゲストスピーカー(2名)を招聘して各施設の特徴や利用者の実態、実習先での具体的な援助・処遇の仕方について指導した。</p> <p>・保育所実習・幼稚園実習の事前指導(2年生)</p> <p>実習の心構えや意欲を高めるため、授業担当者以外にも保育現場で活躍する本学卒業生や実習指導者をゲストスピーカー(2名)として依頼して指導にあたった。</p> <p>・基本実習・保育所実習の事前指導(1年生)</p> <p>基本実習に関する共通理解を図るため、保育科第一部、保育科第二部、こども学科の実習担当教員と本学院認定こども園との実習打合せ会を、短期大学部開始前の4月、こども学科開始前の8月の年2回開催した。近年、事前指導を強化した成果により、基本実習の不合格者は1名であった。</p> <p>○実習事後指導の充実と実習評価の伝達</p> <p>実習訪問担当教員は、事後指導の一環として、実習終了後に担当学生との面談を必ず実施し、次の実習につながるような助言・指導も行うように努めた。</p> <p>また、実習先からの評価点や所見は、個人面談等の際にクラスアドバイザー、もしくは実習主任から学生へ伝え、一人ひとり丁寧な指導・支援を行った。</p> <p>○ 実習訪問の徹底</p> <p>教員が実習訪問をする場合は、実習状況を把握し、必要に応じて実習先での学生指導にもあたった。また、実習訪問担当教員と実習生との食事会(教員個人経費の一部を充当)が、指導をする上で効果的であったことから、本年度も継続して各教員が実施し、実習訪問に臨んだ。</p>	<p>5</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>➡ 次年度の教育・保育実習に関する新たな取り組みは以下の通りとし、改善を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>1年生「児童福祉施設見学実習」のスタイルを変更</u> 施設実習先との意見交換会において、学生の施設理解が不十分との意見をいただいた。 そこで、次年度「児童福祉施設見学実習」は、クラス単位での保育所見学は実施せず、児童養護施設と障害児(者)施設の2か所を見学実習先として設定し、施設理解を深め、次年度の施設実習へ向けての意欲向上を図る。 なお、保育所見学実習は、2年次で予定する保育所実習先でのボランティア活動を個々に実施し、それを従来の保育所見学実習に振り替えることとしたい。 ・ <u>「保育実習先との意見交換会」での意見等を受けて改善する事項</u> <ul style="list-style-type: none"> * 食物アレルギー等を持つ学生への対応 実習先で給食を食べる機会があるので、それぞれの実習先の要請に従い対処していく。 また、食物アレルギー(その他のアレルギーなどの持病を含む)を持っている場合、実習生プロフィールの備考欄に記載し、オリエンテーション時にも実習先に口頭で伝えるように徹底する。 * 施設実習時、「障害児保育」知識不足の改善 「障害児保育」の授業を開始して間もなく、施設実習がスタートするため、2年次4月オリエンテーション時に障害児保育の基礎講座を2コマ開講する。 * 「保育実習Ⅲ」への目的意識を高める 「保育実習Ⅲ(施設実習)」は、保育士資格取得の選択必修科目である。履修希望者に対して、実習の目標を明確にさせるためにも、実習先を配当する場合、希望する種別での実習ができるように配慮する。 * ピアノの苦手意識の克服へ向けて ピアノが不得意な実習生が増えているとの意見を受けて、学生支援プログラムとして、「ピアノレッスン・サポートプログラム」を新設する。 ・ <u>「教育実習」評価票の見直し</u> 幼保連携型認定こども園で、保育所実習、教育実習の両方を実施する学生もいることから、可能な限り実習評価票の書式の統一を図る。次年度から使用できるよう進める。 	

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
5. 学生支援プログラムの実施	<p>○ 新入生対象「入学前研修会」開催 期 日／4月5日・6日実施 新入生の履修に関する指導を徹底し、履修届を早期に提出することを目的に、2日間の研修会を開催した。 なお、能力別に分けて行う授業「情報機器操作」「ピアノ演習」と教養教育科目：選択科目の履修分けも期間中に行い、前期授業がスムーズに開始できるようにした。</p>	4
	<p>○ 「学生・ご家族との個別面談会」開催 期 日／7月9日 午前の部(11組22名)＊保育科第一部は6組13名が参加。 午後の部(9組18名)＊保育科第一部は7組14名が参加。 クラスアドバイザーを中心に、所属専任教員による「学生・ご家族との個別面談会」を開催した。面談会では学生生活における悩み、実習、就職、編入学などの相談を中心に、ご家族の方も交えてコミュニケーションを図ることを重視することに努めた。なお、ご家族の就職への関心が高いことから、キャリア支援室の協力を得て、就職に関する説明と相談会の充実を図った。</p>	4
	<p>○ 「個人面談」実施による学生サポートの強化 「学生とクラスアドバイザーの個人面談」を年2回実施し、学生サポート体制をさらに強化し、きめ細やかな支援を行った。なお、2年生には、面談の中で実習の評価(所見を含む)を学生に伝達することもできた。</p>	5
	<p>○ 「国語力向上特別講座」開催 保育者としての重要な役割として、コミュニケーション能力、保育日誌、連絡帳の表記等、豊かな国語力が望まれる。本年度も1・2年生を対象として、国語力の向上を図ることを目的に、当科「国語表現」授業担当者による「国語力向上特別講座」を開催した。講座はクラスセミナーを利用して、各学年とも2回ずつ実施した。 ＊講座内容 ①保育専門用語の表現・表記について ②保育専門用語の小テスト さらに、入学予定者を対象に入学前の不安解消や国語力アップの一助として、「国語力アップ特別講座」も開催した。 ・2月24日 午前・午後の2回開催 参加者数(午前40名・午後30名)</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>○ 「コンピュータ特別講座」開催 本年度も年間を通じて講座を実施した。詳細は以下の通りである。 *受講者数 受講者延べ人数：127名 (内訳：こども学科：8名／保育科第一部：119名)</p> <p>①「タイピングスキル向上講座」(1年生) 受講者：5名 ②「スマートフォンの画像活用講座」(1年生) 受講者：8名 ③「デジタル地図サービスの活用・～実習訪問案内の作成～」(2年生) 受講者：55名 ④「Wordを活用した『指導計画案』の作成」 (2年生) 受講者：52名 ⑤「Excel応用 ～経理処理の基礎・生活の中での収入と支出をまとめよう～」(1年生) 受講者：2名 ⑥「ウェブサービス活用講座」(対象：1年生) 受講者：5名 さらに、入学予定者を対象に、入学前「コンピュータ特別講座」も開催した。 ・ 3月28日・29日の2日間開催 参加者数(28日25名・29日30名) ➡ 次年度の学生支援プログラムは従来のプログラムに加え、以下に示す新たな取り組みを進めていく。</p> <p>①「ピアノレッスン サポートプログラム」を新設 「ピアノ演習」授業、補習授業以外にも気軽にピアレッスンを受けることができる学生支援プログラムを新設する。 ・ 対象：1・2年生 (個別指導を受けたい、今よりさらに上達したい、学外実習や採用試験(ピアノ実技)前に指導を受けたい学生など) ・ 期 日：年間20回程度 ・ 実施人数：1回につき8名程度まで(3名以上で開講)</p> <p>②卒業のみを目指す学生、実習履修制限適用学生への支援 免許状・資格取得を希望せず卒業のみを目指す学生、実習履修制限適用学生との懇談会を学科長主催で開催する。 ・ 期 日：前期1回実施。状況に応じて後期も1回実施。</p> <p>③入学前特別講座「初心者対象ピアノレッスン講座」を新設 入学前の国語力アップ特別講座、コンピュータ特別講座に加え、「初心者対象 ピアノレッスン講座」を新設し入学前から支援を行う。この講座ではピアノに不安を抱える入学生を対象に、楽譜の見方、練習の仕方などの基本的なことを指導し、少しでもピアノへの不安を解消することを目的とする。 ・ 期 日：入学前の2月～3月。5回(半日単位)程度。 ・ 実施(想定)人数：100名(1回20名程度×5回)</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>6. こども学科・保育科合同によるFD研修の開催</p>	<p>①学科FD研修会 教員の教育力、資質向上のためのFD研修会を、3学科合同で開催した。 第1回 6月16日 「就職状況、平成27年度の結果と平成28年度の傾向と対策」～各授業を通して専門職者としての意識をいかに高めるか～ 第2回 10月20日 「アクティブラーニングの実践について」</p> <p>➡ 第1回目は、キャリア支援室長から「前年度の就職結果と今年度の傾向および対策」として就職状況や今後の傾向と対策について詳しく情報を提供してもらった。本来、「教員FD」の趣旨からいえば多少のズレがあるが、他の学科に比べ入学する学生の意識、勉学の内容、卒業後の方向に振幅が少ないことが特徴でもある。また文部科学省や第三者評価での評価項目にも「学習の成果」という項目の観点からも学科の成果としての「専門職」への「就職率」が客観的評価となる。</p> <p>したがって、これらの情報を、就職対策委員のみならず、どの教科の教員も共有し、授業の中やオフィスアワー、個別面談などの機会を使って、学生の意欲を高めることにつなげていくことにより、教員の授業への意識も高まっていくことが考えられる。今後も継続していきたい。</p> <p>第2回目は、昨年度に引き続き「アクティブラーニング」に関して、学内で実践されている具体的事例を基に研修を行った。</p> <p>事例は短期大学部情報ビジネス科木村信綱准教授より提供を受け、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法として教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワークの実態理解に努めた。</p> <p>保育科第一部ではほとんどの科目が「卒業必修」「資格・免許必修科目」であり、また「授業内容」も定められているため、事例同等の方式は取りにくい。しかし、「アクティブラーニング」を導入すること自体が目的ではなく、「教えられなくても自分で課題を発見し、自ら学ぶことができる学生を育てること」が肝要であること、「課題を探す機会を与えること」、「自分で考える機会を与えること」などに意義がある点を共通の理解として得ることが出来た。</p> <p>今後「講義」科目も単に「必要な知識を教える」だけの授業ではなく、各教員が、さらに「学ぶ意欲を引き出すような工夫」をしていくことが必要である。</p>	<p>4</p>

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>②非常勤教員FD研修会 8月29日開催、11名参加(内7名が保育科第一部担当)。 全体会では佐藤監査役から授業参観結果、授業実施全体のことについて、本学授業実施規程による授業が行われているか資料を基に説明があった。分科会では、学科長から前期開催した学生との授業改善委員会の内容から、各教員に留意して欲しいことの話があった。さらに教務担当主任から、授業計画作成の留意点の説明が行われ、アクティブラーニングを取り入れた授業展開についての話し合いを実施した。</p> <p>➡ 次年度からは、懇談が必要な方(授業参観の結果が思わしくない方、学生から改善の要望がある方など)、複数で同授業科目を担当しており調整が必要な場合など、実情に応じて、少人数による懇談会を不定期で開催していく。</p> <p>なお開催は学科長主催で、教育管理職、専任教員からも同席者を数名指名して実施する。</p>	2
7. 保育科の特色ある行事・授業	<p>○ バリ島海外研修旅行(1・2年生) 本学の特色ある教育の一つでもある「国際理解教育」の一環として、現地の方々との触れ合いや、異文化等を体験的に学ぶ機会として実施する。本年度も学生の旅負担額の軽減と体調管理を配慮した6日間の日程で8月下旬に計画した。</p> <p>➡ 国際情勢等の悪化により、やむを得ず海外研修を中止とした。履修者は若干名いたが、年度途中で開講中止とした。</p> <p>次年度も国際情勢を見ながら進めていく。</p> <p>○ 児童福祉施設見学実習(1年生) 保育実習事前指導の一環として、児童福祉施設の理解と次年度の学外実習に向けての動機づけを行うことを目的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期日／9月27日、10月15日 ・ 見学先／福島市内の児童養護施設、保育所 <p>➡ 前述の通り、次年度は「児童福祉施設見学実習」のスタイルを変更する。クラス単位での保育所見学は実施せず、児童養護施設と障害児(者)施設の2か所を見学実習先に設定し、次年度の施設実習へ向けての意欲向上を図ることとする。</p> <p>○ 生活教養「テーブルマナー演習」(1年生) 「西洋料理のテーブルマナー」を実践的に学習することを目的に実施した。併せて「冠婚葬祭のマナー」授業の一環として、現代のブライダル事情の特別講義も実施した。なお、経費削減等の事由により模擬挙式体験は見送った。</p>	— 4 4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<ul style="list-style-type: none"> ・期 日／9月28日、12月10日 ・会 場／ウェディング エルティ ➡ 次年度は、9月上旬土曜日に設定し、こども学科と合同で開催する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内研修旅行(1年生) 保育者を目指す者として必要な知識・教養等について体験を通して学ぶことを目的に実施した。 ・期 日／9月29日～30日 ・研修先／米沢研修：21名参加 栃木研修：13名参加 東京研修：63名参加 ➡ 本年度までは任意参加としてきたが、次年度は見学実習で保育所見学を実施しないことから、原則として全員参加とする。ただし、経済的に参加が難しい学生もいることから、従来の3コースに加え、「仙台コース：日帰り」を新設する。 	4
	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ大会(1・2年生) 福島市国体記念体育館に会場を移行して、3年目となった。大会当日、大きな地震があり公共交通機関の乱れが生じた。しかし、速やかな対応により、福島駅西口からのシャトルバス利用の学生の混乱は見られず、ほとんどの学生が体育館に向かうことができた。 大会自体は30分遅れとなったが、学科学友会、各クラスの運動役員を中心に全種目を実施することができた。 当初、3学科合同で計画したが、保育科第二部生の勤務先の都合により合同開催は実現しなかった。 ・期 日／11月22日 ・会 場／福島市国体記念体育館 ・参加者数／197名(1年生89名・2年生108名) ➡ スポーツ大会の日程を土曜日とし、次年度は後期、保育科第二部との合同開催に向けて計画していく。 ※こども学科は3学年となることから、合同開催は見送る予定。 	4
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習反省会(1・2年生) 本年度の実習反省会は保育科第一部・保育科第二部合同で初めて開催した。 発表方法は、内容が理解しやすく教育的効果が得られるため、スライドを使用しての実施としたが、代表学生の創意工夫が見られ、素晴らしい発表会であった。 ・期 日／1月14日 ・会 場／カーサ・フローラ 千葉記念ホール 	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>➡ 実習反省会も本年度同様に保育科第二部と合同で行う。次年度はさらに内容の改善を図る。従来の「学生発表」→「講評・助言」→「質疑・応答」だけではなく、実習主任を含む実習授業担当者が、学生の全実習を振り返り、さらに指導を要する点や、実習先から指導・助言をいただいた内容を精査し、それに関する補完的な授業(指導)も取り入れていく。</p>	
	<p>○ 『創作ミュージカル』発表会(2年生) 保育科第一部で学んだ2年間の集大成とも言えるこの授業は、ミュージカルという総合芸術を作り上げる過程や発表会を通して、表現力の向上やコミュニケーション能力の育成を図ることを目的に実施した。 授業担当者の指導力と学生の努力で順調に発表会まで進み、無事にやり遂げることができた。 ・期 日/1月27日 13:30～ ・会 場/カーサ・フローラ 千葉記念ホール</p> <p>➡ 次年度も2年次前期「クラスセミナーⅡ」の時間を設け、準備を進めていく。また、発表会(リハーサルも含む)は、学科行事として、他教員も授業担当者をサポートして進めていく。また、2クラス体制になることから、クラス表彰は行わず、個人賞を2つ設ける。 <u>最優秀個人賞(千葉記念賞)、優秀個人賞(名称は検討)</u></p>	5
	<p>○ 『音楽演習・ポップスの世界』発表会(1年生履修者) 本学の特色ある教養教育科目の一つとして、歌唱やダンスなどの表現力、感性を高めることを目的に実施した。 発表会は年間3回程度とし、年度末には本格的な舞台装置を使用しての発表会を開催した。 ・期 日/2月8日 14:30～ ・会 場/カーサ・フローラ 千葉記念ホール</p> <p>➡ 近年、履修者が10名程度と減少傾向にあるが、年度末には、舞台装置を使用しての発表会を行う。ただし、舞台装置にかかる経費削減と観客動員を図るため、創作ミュージカル発表会と同日開催とする。</p>	4
	<p>○ 保育科授業改善委員会の開催 学生からの率直な意見を聞き、学科教育の改善につなげるため、年2回実施した。 全体を通して、学生との信頼を揺るがす程の意見等はなかったが、学科長から、担当教員へ改善をお願いする事ができた。また、非常勤教員とのFD研修会でも議題として取り上げ、その内容を報告して共通理解を図った。 次年度も改善につなげる機会として重視していく。 ①6月16日 16:10～17:05 ②11月28日 16:10～17:10</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
8. その他	<p>○ 保育科ニュースの発行</p> <p>学科方針や運営状況等を学生、学生のご家族、学内教職員に周知して理解を得られるように、年間を通じて保育科ニュースや文書を作成して周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生・・・年9回発行 内容：期末試験の留意点、実習や成績に関する連絡など ・学生のご家族・・・年5回発行 内容：各種実習や成績に関する連絡(統一テスト不合格者への文書を含む)など ・学内教職員・・・年2回発行／内容：学科行事の紹介・報告など 	5
	<p>○ 教育・保育論集の発行</p> <p>こども学科と協力し、教育・保育現場での課題などを取り上げて発行した。併せて本学教員の研究業績発表の機会となるように、また実習先や本学学生にも参考となるような論集となるよう努めた。発行が予定より遅れたため、次年度は早期に進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行日：平成28年11月22日 ・特集記事 「子ども・子育て支援新制度」スタートからの1年 	4
<p>計画記載以外で実施した事項</p> <p>1. 学科評議員の再編成</p>	<p>学科評議員任期満了により、新しい学科評議員を後期に委嘱した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期／平成28年11月1日～平成31年10月31日 	4
<p>2. 入学前特別講座 「初心者対象ピアノ レッスン特別講座」の開催</p>	<p>当初、次年度からを予定していたが、専任教員が担当でき、経費もほとんどかからないことから、入学前特別講座2講座に加え、「初心者対象 ピアノレッスン講座」を下記の通り実施した。この講座ではピアノに不安を抱える入学生を対象に楽譜の見方、練習の仕方などの基本的なことを指導し、少しでもピアノへの不安を解消することを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日／2月27日 2・3時限(2コマ) 3月7日 〃 3月9日 〃 3月24日 〃 ・会場／音楽館第1・2教室、ピアノ個室 ・参加者数／78名(19名・18名・19名・22名) 	4

保育科第二部

第二部長 渡 辺 雅 子

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
1. 保育科第二部の教育環境整備	<p>本年度、保育科第二部開設当初から続けてきた週3日交代の時間割編成のシステムを変更した。新たな時間割を1・2時限と5・6時限に授業を行うクラスに分け、月曜日から金曜日までの週5日間とし、新システムでの教育をサポートする整備を行った。</p> <p>また、学生が働く企業は全寮制である。保育科第二部開設以来46年間、同じ寮を使用してきたが、平成28年3月に新寮が完成。生活環境が一新された。企業側の配慮で新たな環境下で学ぶことができるようになった。</p> <p>さらに、働きながら学ぶ学生の体力面を考慮し、時間割編成の配慮にも努めた。</p> <p>➡ 次年度も時間割編成を工夫して、水曜日の授業科目について配慮する。</p>	3
2. 指定保育士養成施設指定基準、および教員免許課程認定審査基準に基づく学科運営	<p>専門教育科目の授業は、幼稚園教諭免許状取得では「教育職員免許法」および「同施行規則」を、保育士資格取得においては厚生労働省児童家庭局保育課の「教科目の授業内容」に明記されている事項を順守している。</p> <p>なお、本年度教員の配置としては、専門教育科目の専任教員として新任者2名を採用した。</p> <p>➡ 次年度は、こども学科・保育学科とも教育職員免許法改正に伴う再課程認定の申請業務を実施することから、保育科第二部専任教員に対しても担当科目にかかる研究業績の積上げを奨励していく。</p>	4
3. 保育士資格と幼稚園教諭免許状にかかる教育課程の適切な編成	<p>保育科第二部の教育課程は、資格・免許状取得に必要な最小限の授業科目と単位数等で構成されている。授業計画は、特に必修の専門教育科目については、厚生労働省・文部科学省が示す授業内容を十分満たされているか点検を行った。</p> <p>➡ 次年度授業計画は外注をせず学内で印刷・製本を行う。</p>	4
4. 学内外の実習に向けた指導	<p>実習主任を中心に、実習別に授業担当者による打合せを行い、指導内容の検討と共通理解を図った。また、実習先との意見交換会で実習先から指摘が多かった「日誌や指導計画案の記入の仕方に重点をおいた実習指導」については、事前指導の中で強化をするよう努めた。</p> <p>・施設実習の事前指導</p> <p>実習先施設の種別ごとに、各施設の特徴や児童の実態、実習先での具体的な援助・処遇の仕方について指導し、学んだことを本実習で発揮できるようにした。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>・ 保育所実習、幼稚園実習の事前指導 特に実習日誌や指導案の書き方に重点をおいた指導を展開し、保育現場等で実践できるよう指導にあたった。</p> <p>・ 基本実習の事前指導 基本実習に関する打合会を年2回開催し、本学認定こども園と学科の指導内容等について共通理解を図るように努めた。</p> <p>➡ 本年度の全実習は、事前指導を強化した成果により不合格者はいなかった。次年度も学外の実習が円滑に行われるように学生への支援を継続する。</p>	
<p>5. 福祉学部ダブルメジャー学生「幼稚園教諭二種免許状取得」への支援</p>	<p>福祉学部福祉心理学科ダブルメジャー学生7名の幼稚園教諭二種免許状取得へ向けての教育実習、および教育実習事前・事後指導の支援を行った。</p> <p>➡ 次年度で最後になるが、2名の履修生を予定している。9月中旬からの教育実習を無事に終了できるように、保育科第二部生と同様に実習事前・事後指導を実施し、幼稚園教諭二種免許状取得に向けてサポートする。</p>	5
<p>6. 学生支援プログラムの実施</p>	<p>①学年別アドバイザー制と個人面談 学年ごとにアドバイザーを配置し、学生との個別面談を前期・後期1回ずつ実施した。アドバイザーは学生が抱えている悩み、問題点の早期解決に尽力した。</p> <p>➡ 本年度から時間割編成を変更した経緯もあり、クラスセミナーの時間帯が取れず、個別面談の日程確保に苦慮した。</p> <p>次年度は、時間割にクラスセミナーを設定し、その時間帯を活用しての個別面談実施と、学科行事の計画・準備など、学生指導の内容を充実させていきたい。</p>	4
	<p>②「学生・ご家族との個別面談会」 個別面談会は3学科合同で実施した。面談では、学生生活における悩み、実習、就職、編入学などの相談を中心に、ご家族の方も交えてコミュニケーションを図ることを重視した。なお、ご家族の就職への関心が高いことから、キャリア支援室の協力を得て、就職に関する説明と相談会の充実を図った。</p> <p>開催日：7月9日</p> <p>①午前の部(11組22名)*保育科第二部は参加者なし。 ②午後の部(9組18名)*保育科第二部は1組2名が参加。</p> <p>➡ 例年、保育科第二部からの参加者は少ない。しかし、就職活動などの進路に関する相談も、時間を取ってできる絶好の機会でもあるので、参加を呼びかけていく。</p>	3

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
7. こども学科・保育科合同によるFD研修の開催	<p>①学科FD研修会 教員の教育力、資質向上のためのFD研修会を、3学科合同で開催した。</p> <p>第1回 6月16日 「就職状況、平成27年度の結果と平成28年度の傾向と対策」 ～各授業を通して専門職者としての意識をいかに高めるか～</p> <p>第2回 10月20日 「アクティブラーニングの実践について」</p> <p>➡ FD研修の本来の意味を考え、教授方法の向上や授業内容改善の目的で10月に「アクティブラーニングの実践について」を開催。授業改善に役立てることにつながった。</p>	4
	<p>②非常勤教員FD研修会 8月29日開催、11名参加(内1名が保育科第二部担当)。</p> <p>全体会では佐藤監査役から授業参観結果、授業実施全体のことについて、本学授業実施規程による授業が行われているか資料を基に説明があった。</p> <p>分科会では、学科長から前期開催した学生との授業改善委員会の内容から、各教員に留意して欲しいことの話があった。</p> <p>さらに教務担当主任から、授業計画作成の留意点の説明が行われ、アクティブラーニングを取り入れた授業展開についての話し合いを実施した。</p> <p>➡ 次年度からは、懇談が必要な方(授業参観の結果が思わしくない方、学生から改善の要望がある方など)、複数で同授業科目を担当しており調整が必要な場合など、実情に応じて、少人数による懇談会を不定期で開催していく。</p> <p>なお、開催は学科長主催で、教育管理職、専任教員からも同席者を数名指名して実施する。</p>	3
8. 保育科第二部の主な行事	<p>行事運営に関しては、学生の教育効果を考慮し実習反省会を保一部と合同で行うことができた。</p> <p>ただし、後期スポーツ大会は、保育科第二部生の勤務先の都合により、平日、合同開催は実現しなかった。</p> <p>①しらゆり会役員会・スポーツ大会 前期：4月24日 運動会</p> <p>しらゆり会役員会では、予算執行や活動計画について話し合いを実施。その後、運動会形式のスポーツ大会を行った。</p> <p>天候にも恵まれ、学生、教員との親睦を深めることができた。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>②スポーツ大会 後期：11月19日 球技大会 当初、3学科合同で計画したが、保育科第二部生の勤務先の都合により、合同開催は実現しなかった。従って、単独で実施することになった。 ➡ 次年度後期はスポーツ大会の日程を土曜日とし、保一部との合同開催に向けて計画していく。</p>	3
	<p>③研修旅行(関東方面) 期 日：9月23日～24日 参加者：2年生18名 研修先：認定こども園「こどものもり」、東京ディズニーシー 劇団四季「リトルマーメイド」、葛西臨海水族園 保育施設研修先は、埼玉県で認定こども園認定第一号の認定こども園「こどものもり」で実施。若盛園長の講話から認定こども園の理解を深め、環境を大切にしている園での保育のあり方を深く学ぶことができた。その他の研修先・宿泊施設は魅力ある内容に大幅に変更して実施した。 今般の研修内容は学生からの評価も高かった。</p>	5
	<p>④保育方法研究発表会 期 日：12月3日 対 象：2・3年生全員(ダブルメジャー学生9名を含む) 会 場：カーサ・フローラ 千葉記念ホール 本学認定こども園児を招待して実施した。幼児の前で演じ共感することを通して、保育・教育方法に関する認識・幼児理解を深め、それに必要な技能の習得を目的とした。</p>	4
	<p>⑤実習反省会 実習反省会を保一部と合同で初めて開催した。 発表方法は、内容が理解しやすく教育的効果が得られるため、スライドを使用しての実施としたが、代表学生の創意工夫が見られ、素晴らしい発表会であった。 期 日：1月14日 対 象：2・3年生全員(ダブルメジャー学生9名を含む) 会 場：カーサ・フローラ 千葉記念ホール ➡ 次年度の実習反省会も土曜日とし、保一部と合同で行う。さらに内容の改善を図る。従来の「学生発表」→「講評・助言」→「質疑・応答」だけではなく、実習主任を含む実習授業担当者が、学生の全実習を振り返り、さらに指導を要する点や実習先から指導・助言をいただいた内容を精査し、それに関する補完的な授業(指導)も取り入れていく。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
9. その他	<p>*卒業記念品の制作</p> <p>平成22年度から、保育科第二部独自の卒業記念DVDを制作して卒業お別れパーティー時に放映し、卒業記念品として卒業生に贈呈してきた。</p> <p>また平成25年度からは、しらゆり会広報委員が中心となって保育科第二部独自の卒業アルバムを制作し、本年度も卒業生に贈呈することができた。</p> <p>➡ 次年度は、DVD、アルバムの制作は継続するが、年度末の多忙な時期、担当教員に負担がかかるので、内容については見直していきたい。</p>	5
<p>計画記載以外で実施した事項</p> <p>学生が勤務する企業との連絡会実施</p>	<p>学生が勤務する企業との打ち合わせを年2回実施。</p> <p>企業側の担当者も変わったため、スケジュール調整や学生の情報交換を行った。</p> <p>➡ 今後においても、担当者レベルの詳細な打ち合わせを定期的実施し、共通理解を持って運営していきたい。</p>	3

食物栄養科

学科長 田中 かづ子

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1. 教育目標の達成</p> <p>①卒業認定、栄養士資格取得に係る教育課程編成と教育内容</p>	<p>教育課程の教養・専門科目の位置づけ・内容は学生が「社会人としての心の在り方も含めた、食の専門家として必要なスキル」を修得できるよう計画・体系化しているので学生の考えや判断軸の形成・専門知識の獲得に寄与できているものと考えられる。殆どの学生の履修科目の期末試験、レポート等の評価得点は卒業・進級認定の水準に達し(卒業認定97%、進級認定100%)、また、栄養士免許取得率は88%とそれぞれが成就できたことは本学科の教育活動の成果が示されたとと言える。</p>	4
<p>②栄養士資格に係る適切な教育課程編成と時代の要請に対応できる教育内容</p>	<p>建学の精神に基づいた真心と思いやりを持った人間性を養うことを基盤とし、大学教育の基礎となる14教養教育科目と、厚生労働省・栄養士養成施設の教育課程編成基準に則った専門教育科目6群32科目の内容について、学生が栄養士に必要な総合能力を十分に獲得でき、広範に活躍できるよう教育内容の質的向上・充実に努力し実施した。</p>	5
<p>③栄養士免許の資格取得への指導強化</p>	<p>学生が栄養士に必要な多くの専門知識、技術、実践能力等を獲得できるよう、教員は授業内容の充実、授業方法の改善に努め、指導を強化してきた。本年度は栄養士資格取得率は88%であり、殆どの学生が取得することができた。養成期間2年間に亘る本学科の教育内容の成果は確認できる。</p>	4
<p>④化学系授業、調理系授業を通し、理論的・体系的考え方を習得し、実践力・応用力・創造性を養う</p>	<p>学生の多くは理科系基礎知識を有しているが、更に、徹底するため丁寧に指導した。その結果、全国栄養士養成施設協会主催認定試験の化学系科目の得点率が上昇した。大学祭「のぎく祭」の食物栄養科コーナーでは「輪食～人と繋がる食の輪～」をテーマとし、1・2年生が協力して「栗の炊き込みご飯」「豚汁」「玉こんにゃくの甘辛煮」を大量調理して提供し、食品の調理・製造や食品衛生などの応用力を発揮することができた。また、福島県が進めている「おいしいふくしまいただきますキャンペーン・特別講座」では代表の学生がイタリアンシェフと共演し、県産米を使ったリゾットを調理し、県の風評被害払拭事業に一役かうことができた。更に、土湯温泉観光協会主催の「ふれ愛つちゆ 土湯ブラット温泉バル」や福島市公設地方卸売市場主催の「わくわく市場まつり」では大量のミネストローネ風トマトととうふの味噌汁やパウンドケーキをつくり、それぞれのイベントを盛り上げると共に授業で得た大量調理の技術を発揮することができた。今後も継続して学生が実践力・応用力・創造性を養えるよう指導したい。</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
⑤栄養士として専門知識、技能を修得し、実践的なコミュニケーション能力を身につけ、主体的に考えを発言できる人材を育てる	殆どの学生が卒業・栄養士免許取得資格の要件である必修・選択科目を修得し、卒業認定・栄養士免許取得資格を受けることができたことで、栄養士としての専門知識、技能を修得し、更に、主体的に考え、発言できる自立した人材の育成は達成されたといえる。実践的なコミュニケーション能力は、給食管理実習(校外)で重点的に修得させることができた。容易に修得レベルに達せず何度か学習の繰り返しを求められる学生についても、厳しく指導した結果、成果が示されたことは評価できる。	4
⑥学内・校外給食管理実習 ・学内実習(2年生) 5月23日～6月10日 ・校外実習(2年生) 8月29日～9月2日	学内実習は学生を3グループに分け、グループ毎に5日間、本学の大量調理実習室で、校外実習は事業所、福祉施設、病院等の特定給食施設(11施設)で5日間実施した。いずれについても学生は栄養成分・食事計画、大量調理、利用者のニーズの把握、給食サービスの方法について体験を通して学ぶことができるよう指導した。校外実習では社会人としての態度や考え方、挨拶などを学び、栄養士として調理員・事務職員・利用者とのコミュニケーションの実際を体験し見聞きすることができ、効果的な社会体験・臨地実習であった。来年度は今まで以上にPCソフトを用いたより実践的な内容も取り入れて実施する。	4
⑦招聘講師陣による調理学実習Ⅱ ・調理学実習Ⅱ(2年生) 中国料理 11月16日 1月11日 日本料理 12月7日 そば打ち 1月25日	調理学実習では、福島市の中国料理店オーナー日比野恒夫客員教授による中国料理調理実習を2回実施した。また、福島県総合調理師会会長高橋博行氏による日本料理調理実習を1回、食楽研究家吉成和己氏によるそば打ち調理実習を1回実施した。目前でプロの料理人の技や心得を学ぶことができ、学生の学修意欲を喚起させることができた授業であった。来年度も更なる学習効果が得られるよう計画する。	5
⑧特設授業(施設・工場見学) ・給食管理実習関連施設見学 7月15日 ・食品加工学実習関連工場見学 6月6日 6月12日	社会の仕組みやそこで働く人々の姿を見聞きすることで学習の必要性を実感させるとともに、栄養士としての自覚や食品製造の知識・技術を高める目的で実施した。見学先は給食管理実習では自衛隊福島駐屯地(参加学生：2年生33人)、食品加工学実習ではヤクルト福島工場(福島市)(参加学生2年生：22人)、酪王乳業(郡山市)、第11回食育推進全国大会(郡山市)(参加学生2年生22人)であった。学生の修得度に多少のバラツキはあったものの目標は達せられた。今後は、更に実施目標・行動目標・学習内容を十分に説明し理解させるような事前指導を工夫して実施する。	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
⑨テーブルマナー演習 ・日本料理(1年生) 1月26日 ・西洋料理(1年生) 2月2日 ・中国料理(2年生) 2月1日	調理学実習、同Ⅱの一環として、日本料理・西洋料理・中国料理のテーブルマナー、併せて高級な食材を使った料理や調理方法を学ぶ講習会(演習)を福島市のホテルで実施した(1年生対象日本料理、西洋料理の参加学生は両日とも28人。2年生対象中国料理の参加学生は32人)。プロによる調理の心得についての講話も受講し、十分な学習効果が得られた。調理学の一環として実施したが、テーブルマナーは身につけておきたいスキルであり、食事を楽しむための重要な要素でもある。	4
2. 教育向上のための取組み ①学科評議員会 ・前期学科評議員会 6月25日	テーマは「栄養士に求められている力について」として懇談形式で行った。 出席の委員は国立大学教授(地域行政分野)、病院勤務の管理栄養士(卒業生)、給食委託会社勤務の栄養士(卒業生)であった。震災復興に伴い福島県には膨大な予算がつく事業はある。また、地方創生の観点からも栄養士の雇用の受け皿はあるので、環境変化に伴って地域のニーズとどう関わっていくか、ニーズ調査を行いながら、就職を考えることができる力が求められる。栄養士として関われるのは食品加工業等の分野である。地場の資源を活用しながら産業を興していくとなると食品産業は重要である。学生の中には食品開発に興味をもっている学生もおり、教授内容にマーケティングや流通を加えても良いのではないかと等々の貴重なご意見が多かった。今後、これら頂いたご意見を学科のキャリア支援分野において大いに反映していきたい。	4
②学科授業改善委員会 ・第1回 7月21日 ・第2回 1月19日	授業改善委員会は学生の意見を取り入れ授業をより良く実施できるよう1・2年学生の代表2人(主にクラス委員長)と教員側委員2人(学科長・学科主任)とで構成され開かれる。第1回・第2回ともクラス委員長が自主的に各クラス学生から「授業について改善してほしい点」について意見聴取し、まとめたものについて意見交換した。「公欠がない制度を変えてほしい」、「机が小さい教室は授業に向いていない」、「座席を自由にしてほしい」、「板書の文字は大きく明確にしてほしい」、「スライドを進めるのが速い」「室温の調整を適切にしてほしい」等、学生ならではの意見を聴取でき、学生共々検討することができた。今後改善すべき点については取り組んでいく。	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>3. 主な学生支援</p> <p>①栄養士養成施設協会認定栄養士実力認定試験 12月10日</p>	<p>(社)全国栄養士養成施設協会主催の実力認定試験は栄養士の資質向上を図ると共に、学生が自身の実力を知り今後の勉強に役立たせるために行われる。本学科ではこれに向けて個々の学生に合った個別学習計画を立てさせ、成績アップのための学習支援を強化してきた。本年度は2年生27人が受験し、結果は全国受験者4501人中937位が本学のトップであり、比較的優秀な成績を収めた学生がいた。A判定・B判定合わせて70%であり、今後、学力の底上げを図っていきたい。</p>	3
<p>②クラスアドバイザー・オフィスアワーの設定による個別指導。</p>	<p>1年生に向けては履修指導、学生生活、資格説明等に重点をおき、2年生に向けては、進学、編入、就職活動支援等のきめ細かい個別指導を行うことを目的とした。各教員はオフィスアワーを設け、研究室で待機し学生相談を行った。オフィスアワー一覧を学科掲示板に常時、分かり易く掲示した。全体的には、就職に関する相談以外の相談件数は少なく、学生は落ち着いた学生生活を送ることができていた。</p>	4
<p>③全教員による授業欠席者の早期発見・早期対応</p>	<p>専任・非常勤教員は担当科目において学生が半期修了科目で3回、通年修了科目で6回授業を欠席した時点で、学科長にその旨を報告し、学科長から連絡を受けたクラスアドバイザーは、学生に連絡をとり、欠席原因の解決や相談を受ける等して学生に出席を促し、卒業要件や資格取得要件を欠かないよう、留年・退学する学生が生じないよう努力した。結果、問題を抱えていた2人を含め進級制限された学生はいなかった。</p>	5
<p>④ご家族個別相談会</p> <p>・第1回ご家族個別相談会 5月21日</p> <p>・第2回ご家族個別相談会 10月22日</p>	<p>前期【参加家族8家族(1年生5家族、2年生3家族)】と後期【参加家族3家族(1年生2家族、2年生1家族)】にそれぞれ1回ずつ実施した。5月開催時の相談内容は、「就職」、「奨学金」、「栄養士資格取得」、「公務員進路」について、その他「学業・勉強方法・試験・学生生活・友人関係・健康面・編入学」に関することであり、10月開催時では「管理栄養士資格」、「進路・就職」、「学業・学生生活」に関するものであった。それぞれの受け持ち教員が回答した。その他に入学時には配布・伝達済みの学事日程・学科行事、教科内容などの情報を、再度伝達し、保護者の不安等を解消する機会とした。</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
⑤就職活動への支援	<p>キャリア支援室による情報提供やクラスセミナー、専任教員の担当科目の中で就職を意識させる指導を強化した。就職内定率は97%(平成29年3月24日現在)と高い水準を示している。ほとんどの学生が希望分野へ進んでいることから、キャリア支援室との連携による本学科の教育指導の効果は示されているとあってよい。次年度も就職への意気込みを起こさせるよう指導していくと共にキャリア支援室との連携強化を図っていく。</p>	4
4. 学生関連行事 ①学科新入生歓迎会 4月21日	<p>新入生を迎え上級生・教職員との交歓会を通して初めての顔合わせである。お互いの親睦を深めることができるように、2年生が主になって計画した(参加学生：1年生29人、2年生33人、計62人)。新入生の不安を除き、希望を持ってこれからの学生生活及び学友会行事等を円滑に、活発に行えるよう、人的環境づくりの機会になった。</p>	4
②学科合同交換会 6月23日	<p>新入生も学生生活に慣れたこの時期に、学生同士、及び教職員との親睦や交流を更に深める目的で、バーベキュー食事会を開催した(参加学生：1年生29人、2年生33人、計62人)。学生達の勉学・学友会活動等への活力を養う良い機会となった。1・2年生学友会が協力して行って盛会となった。</p>	4
③国内研修旅行 ・1年生国内旅行 9月26日 ・2年生国内旅行 9月14日～9月15日	<p>授業で学んだ知識や技術を食品工場見学や体験を通して更に学びを深めること、食に関わる社会人となるために必要な教養を身につけ真心を持ったサービス提供の仕組みを学ぶことを目的として実施した。</p> <p>1年生の研修先(米沢方面)は「東光の酒造り資料館」、「上杉伯爵邸」、「上杉城址苑・博物館」で、参加学生は29人であった。</p> <p>2年生の研修先(東京方面)は「特別養護老人ホーム第二笑風苑」、「キューピー(株)五霞工場」、「東京ディズニーランド」、「お菓子の城ハートランド」、「カゴメ(株)那須工場」、「那須ステンドグラス美術館」で、参加学生は33人であった。</p> <p>学生から寄せられた感想は「食材や食生活について視野を広げることができた」、「地球環境への配慮と企業の利益の両立について考える機会となった」、「食に関わるプロとなるために求められる配慮や考え方を学んだ」等であった。</p>	4
④学科送別交換会 1月17日	<p>学生同士が親睦連携の絆や同窓意識を深め、また、上級生の2年生に対して感謝と今後の活躍を期待して激励する目的で実施された(参加学生：1・2年生62人)。スポーツ競技(バトミントンやパレーボール)と会食を実施し、卒業式を控えて名残惜しくも充実した内容であった。1年生学友会が主導して行った。</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>計画記載以外で実施した事項</p> <p>1. 福島県庁農産物流通課 主催「おいしいふくしま ただきますキャンペーン 特別講座」 開催場所：福島学院大学 10月25日</p>	<p>食物栄養科の特別講義と位置付けて実施した。</p> <p>東京電力福島第一原発事故後の県産品への風評払拭をめざすキャンペーンの一環で、「県産農林水産物 特別講座」が本学宮代キャンパスで開催され、食物栄養科の学生(1年生23人、2年生26人)が受講した。調理実演ではテレビ番組等で活躍されているイタリアンシェフ榎谷周一郎さんが県産米「天のつぶ」とシイタケを素材にしたリゾット、会津の地鶏と野菜をペンネとともに煮込んだラゲールを学生の代表とともに手際よく仕上げた。調理の際のシェフの楽しい話の中に料理のポイントや技がつまっていて、学生達は興味深く学習した。東北大学の馬場護名誉教授による「福島の食材と放射性物質の現状」、農業生産法人カトウファームの加藤晃司・絵美夫妻による「ふくしまのおいしい農産物のはなし」の講話もあり、「放射線の正しい知識」、「生産者の思いと取り組み」についても理解を深め、食の現場で活躍する専門家となるための有用な知識を得ることができた。</p>	5
<p>2. 学生の地域貢献・地域ボランティア活動</p> <p>①福島市公設地方卸売市場主催「第33回わくわく市場まつり」 開催場所： 福島市公設地方卸売市場 10月23日</p>	<p>市場まつりの企画のひとつである「エコキャップ運動コーナー」に食物栄養科1・2年生5人が教職員2人と共に参加した。ペットボトルキャップとの交換用に学生が作った「りんごとくるみのパウンドケーキ」200食分を提供し、イベントを盛り上げた。結果として109kgの善意を集めることができた。これは、世界の子どもたちを救うポリオワクチン活動に繋がっていくため学生たちにとって有意義な経験であった。</p>	4
<p>②土湯温泉観光協会主催「ふれ愛つちゆ 土湯ぶらっと温泉バル」 開催場所：土湯温泉 11月6日</p>	<p>食物栄養科1・2年生6人が教員2人と共に参加した。土湯温泉のメイン会場に併設された福島学院ブースで学生が作ったミネストローネ風「トマトと豆腐のみそ汁」250食を作って来場者の皆様に提供し、イベントの成功に貢献した。学生たちにとって実習や講義での技術や知識を社会でどう活かしていくかを学ぶことができる良い機会であった</p>	
<p>③GMクリエイションとの共同カレーメニューの開発</p>	<p>CoCo壺番屋のフランチャイズ加盟店であるGMクリエイションの指導のもと、「馬肉となめこ入りカレー」を開発した。企業側の定番カレールゥに加える食材選びであったが、検討した結果、馬肉となめこを採用することとなった。完成品は本学の、のぎく祭(10月16日)で30食を企業が販売した。学生にとって地場の食材について学ぶ良い機会となった。</p>	

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1-①. 入口(学生募集) 【KPI】 定員40名の確保</p> <p>KPI=Key Performance Indicators (重要業績評価指標)</p>	<p>平成29年4月入学生数は45名であり、KPIを達成した。次年度に向けた改善方策は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接の感触では「地域に貢献したい」という志望動機が増えている印象。学科の特色として、地域との結び付きを発信することが今後も求められるのではないかと。オープンキャンパスでの説明内容を改善するほか、学生の情報発信のコントロールに力を入れるべき。 ・情報発信と合わせて、取り組みの向上を目指して、引き続きFD研修のテーマに盛り込む。 ・進路選択前の高校1年生に向けたガイダンスや出前授業は有効である。入試広報課と連携し、積極的に実施する。 	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) A. 魅力的な授業・カリキュラムの実現(対象：教職員) 【KPI】 学生授業評価アンケートで3.7以下の教員0名(専任教員)</p>	<p>平成28年度学生授業評価アンケートにおいて、学科所属教員は全員3.7以上であり、KPIを達成した。次年度に向けた改善方策は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート評価で3.7未満の教員は0名であった。今後、自己点検の在り方が全学的に検討されることから、もし基準が改訂された場合は本学科のKPIにも反映させる。 ・実施しなかった施策のうち、ピアレビューは年度内に、カリキュラムの在り方検討会については前期中の実施を目指す。 	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (1)基礎学力と国語表現統一テストの結果は関連する。合格率向上策で、学力の底上げを 【KPI】 1年次に国語表現統一テスト100%合格</p>	<p>平成28年度1年次生の統一テスト合格者は26名(76.5%)であり、KPIを達成できなかった。しかし、合格率を比較すると、情報ビジネス科は決して低くないことがわかる。次年度に向けた改善方策は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学科と比較して決して合格率は低くないが、次年度も引き続き100%をKPIとして掲げたい。 ・前期で合格できなかった学生向けの特別講座は、インターンシップ実習と重なったことで実施できなかった。次年度は、予め日程を決め、学生にも「合格できない場合は、夏休みに補習がある」ことを伝えて臨みたい。 	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (2)新入生向けの入学前(リメディアル)教育を実施 【KPI】 参加者アンケートによる満足度87%</p>	<p>平成30年3月に実施した入学前教育の参加者満足度(とても満足と満足の合計)は82.3%であり、KPIに4.7%届かなかったが、アンケートの自由記述の内容から、高い満足度であったこと判断できる。従って、授業の目的設定/レベル設定/時間設定/担当教員については次年度も継続としたい。</p> <p>次年度に向けた改善方策は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度のKPIは、満足度85%としたい。 	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (3)資格検定試験合格率の向上 【KPI】設定せず</p>	<p>KPIは設定していない。重要資格である「サービス接遇検定2級」の合格数が前年を下回ったが、その他の試験では概ね例年水準の合格数を維持している。</p>	4
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (4)地域連携の推進 【KPI】 学生全員が1つ以上の地域連携プロジェクトに参加する</p>	<p>平成28年度一年次生のうち、地域連携プロジェクト・ボランティアに1つでも参加した学生は27名(80%)であり、KPIを達成できなかった。 次年度に向けた改善方策は以下の通り。 ・参加状況の把握方法を検討する必要がある。例えば半期ごとにクラスセミナーで地域連携活動の振り返りを行う、など。 ・連携協定(伊達市/土湯温泉/民報新聞)を活用し、より多くの学生に機会を提供する。 ・ゼミナールⅡは開講2年目を迎える。(H28)非常勤教員3名が10コマずつ担当⇒(H29)非常勤2名が15コマずつ担当 ・学生用の名刺は起案したものの、印刷内容の精査に躓き、実現できなかった。H29に再挑戦し、実現したい。 ・学科ニュースは発行担当を決め、定期的に発行できる体制を整える必要がある。</p>	4
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (5)学習成果ポートフォリオの試行 【KPI】 振り返りシートで「役に立った」が80%(*新規)</p>	<p>全学で統一フォーマットの学習成果ポートフォリオを策定する予定であったが、実施されなかった。 情報ビジネス科だけで実施することも考えられるが、学生の個別指導の充実を目指す施策を展開していることから、次年度の運営計画では「学習成果ポートフォリオ」は削除した。</p>	—
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (6)個別指導の充実 【KPI】 前期・後期の個別面談実施率100%(*新規)</p>	<p>前期分は1年次生100%(KPI達成)したが、2年次生についてはゼミ担当教員の裁量で実施したため計測値を得ていない。後期分は10月に実施予定であったが、実施していない。 次年度に向けた改善方策は以下の通り。 ・1年次生分は5月中に100%を達成できた。次年度も同時期に実施する。 ・2年次生の面談実施時期について、科内会議において「4月に(=1年生よりも先に)実施したほうが良いのではないか」という意見があった。次年度は、4月に2年次、5月に1年次生の面談を実施するよう、時期を変更してみたい。 ・後期の個別面談は例年実施しておらず、体制を作ることができなかった。次年度は、個別面談全体の担当教員を選出してはどうか。</p>	4

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
	<p>・2年生はゼミにおいて教員と学生のコミュニケーションがとれているので、後期実施の必要があるか再検討したい。(後期は1年生だけでも良いのではないか)</p>	
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (7) インターシップの充実【KPI】 インターシップ I 履修率 70%=23名(H27実績64%=23名) インターシップ II 履修率 50%=16名(H27実績8%=3名)</p>	<p>平成28年度の「インターシップ I」履修率 88.2%=30名(KPI達成*昨年比18.2%増)、「インターシップ II」履修率 26.5%=9名(KPI未達*昨年比18.5%増)であった。昨年比18%増となった要因として考えられることは、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1). 履修募集の時期を、従来の連休前から連休後に変更したせいでは？(=授業にも慣れ、余裕が出てきた時期である) (2). オリエンテーション時に「先輩の体験談」を実施しなかった。履修することが決まってから体験談を聞いたほうが効果的か？ (3). オープンキャンパスでインターシップをプッシュした結果、入学前から履修を決めていた学生が多くなったのでは？ <p>・以上のことから、次年度は以下の通り実施したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 募集時期は、連休が明けてから。 ● 先輩の体験談は、履修するかどうか決まってから。 <p>・次年度は、2年次生向けの募集プリントを用意し、参加者を募る。また、5名程度をKPIとして設定する。</p> <p>・年度末は受入が難しい企業も多いことから、「インターシップ II」のKPIは30%、または人数ベースで設定してはどうか。</p>	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学力の向上・学修成果の向上(対象：学生) (8) 学習環境の充実(KPI設定なし)</p>	<p>教育用コンピュータネットワークの維持管理を行う他、円滑に授業・行事が運営できるよう環境充実を図った。平成28年度は駅前キャンパス5階のサーバ環境の更新について、鈴木准教授が中心的役割を果たした。</p>	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) A. 休退学・授業欠席の抑制【KPI】 休退学0名(H27と同水準)</p>	<p>平成28年度の休退学は0名であり、KPIを達成した。次年度に向けた改善方策は以下の通り。</p> <p>・卒業要件(単位やGPA、学費支払)に触れそうな学生への指導の充実策を検討する必要がある。</p>	5
<p>1-②. 中身(教育と学生指導) B. 学科主催・学友会主催行事の実施</p>	<p>平成28年度は、運営計画に記載した行事のうち、「国際理解演習(シンガポール)」(*催行人数に達せず休講)を除く全ての行事を計画通りに実行した。</p>	5

計 画 事 項	達 成 状 況 及 び 改 善 方 策	評 価 (5段階)
計画記載以外で実施した事項 1. 伊達市との連携協定締結	情報ビジネス科で進めてきた地域連携(だてマルシェ～かけだ・まちなか市～)の実績を発展させる形で、7月に伊達市と包括的な連携協定を締結した。	5
2. 土湯温泉観光協会との連携協定締結	情報ビジネス科で進めてきた地域連携(若旦那図鑑など)の実績を発展させる形で、2月に土湯温泉観光協会と包括的な連携協定を締結した。	5
3. 地域連携への積極的な取り組み	平成28年度に実施した主な地域連携は下表の通り。	5

(表：平成28年度に情報ビジネス科において実施した主な地域連携)

	連 携 先	内 容
1	福島市(広報広聴課)	福島市ウェブサイトリニューアルに向けた分析、提案
2	伊達マルシェ実行委員会(伊達市)	伊達市霊山町掛田商店街の活性化イベント「伊達マルシェ～かけだ・まちなか市～」第5回目の企画運営、デザイン制作(9月開催)
3	〃	伊達市霊山町掛田商店街の活性化イベント「伊達マルシェ～かけだ・まちなか市～」第6回目の企画運営、デザイン制作(12月開催)
4	土湯温泉観光協会	土湯温泉若旦那と飯坂平野地区の果樹農家後継者とのコラボを描いた「若旦那図鑑」第5号の企画・デザイン制作 ※H29も継続中
5	亀岡偉民 衆議院議員	亀岡議員からの依頼により、「一億総活躍社会」についてディスカッションを開催。冒頭に学生がプレゼンを実施した
6	飯坂温泉ミュージックウォークラリー「おと酔いウォーク」実行委員会	音楽イベントのPRデザイン制作(3年目)
7	福島市(文化課)	福島市「民家園」の利活用促進、PRのためのワークショップ開催と提案 ※H29も継続中
8	福島市(行政経営課)	福島市主催「ずっと福島市応援プロジェクト」への参加と、福島市長へのプレゼンテーション
9	福島東郵便局、株式会社五十嵐製麺	ご当地ラーメンの開発(食物栄養科学生も参加) ※H29も継続中
10	福島市(秘書課)	毎月21日に、福島市長と共同で福島駅前の清掃活動を実施。 ※H29も継続中
11	福島卸売市場	市場祭りのポスター制作

特記事項	内 容
<p>その他(特記したい事項)</p> <p>1. 運営計画の見直し PDCA構築</p>	<p>学科の運営計画について、PDCAサイクル構築を前提とした形に刷新した。各事業にKPIを設定し、KPI達成に向けた施策を記載している。評価時期を迎えた事業から順に科内会議において評価し、改善を行っている。</p>
<p>2. 学科FD研修の見直し</p>	<p>特に非常勤教員FD研修について大幅に内容を見直した。専任教員と合同で開催し、テーマに沿ってグループディスカッションを中心に進行した。教員同士の悩みや課題が共有され、アイデアを持ち寄ることで、科目の内容に関わらず共通する授業スキルの向上が計れたと感じている。参加教員の満足度調査では、8月、2月ともに「非常に満足・満足」の回答が100%であった。</p>
<p>3. 科内会議の見直し</p>	<p>会議通知を見直し、議題ごとに時間設定を記入している。議題について専任教員から積極的な発言があり、建設的な会議を実現しつつ、ほぼ指定した時間内に会議を閉会することができた。</p> <p>また、会議の冒頭に毎回15～20分程度、学生の情報を共有する時間を設けている。欠席がちな学生や、就職活動の状況などを専任教員が共有でき、学生指導上の効果を実感している。</p>

第2章 学生による授業評価アンケート結果



平成28年度「学生による授業評価」アンケート結果について

学長 小松由美

1. 「学生による授業評価」の位置づけ

本学独自の自己点検・評価活動は、平成7年度からスタートし、平成10年度からは学生による授業評価アンケートを加えて実施している。設問内容の改訂、「総合」の設問を設けて授業への「満足度」を見るようにした点などの変遷はあるが、アンケート結果は、長年にわたり本学教育における自己点検・評価活動の重要な情報としてその位置を占めてきた。

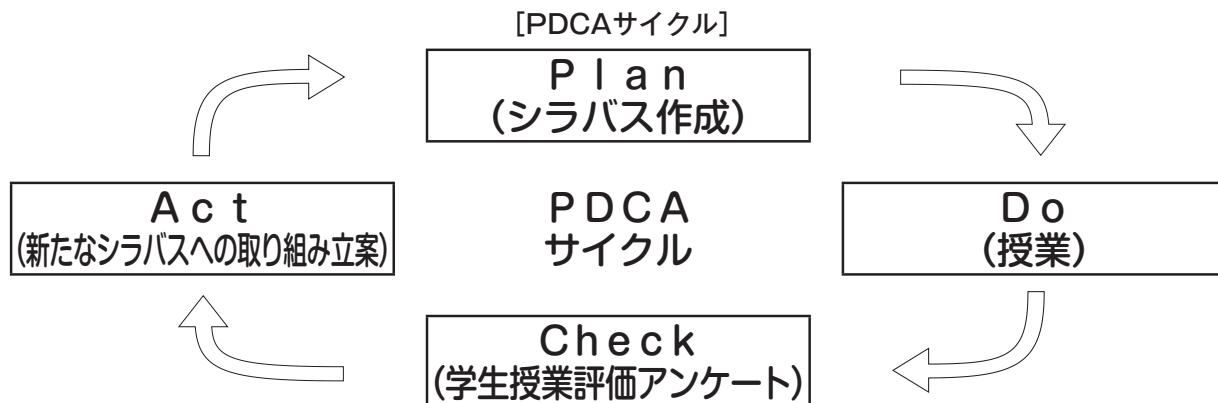
それとは別に、本学では、全国の大学及び短期大学に義務付けられた学校教育法に基づく認証評価を、短期大学部が第2回目として「一般財団法人短期大学基準協会」で平成28年度に受審した。福祉学部・大学院も同様に、平成29年度に「公益財団法人日本高等教育評価機構」による第2回目の認証評価を受けるため、その準備を進めている。

認証評価を受審する大きな意味は、義務付けられているからではなく、本学の教育研究等の総合的な状況について、自己点検・評価する活動について第三者による外部評価を受けることである。それまで進めてきた点検活動の方向や内容を見直す重要な機会である。

平成21年度の短期大学基準協会による認証評価では、評価観点に「学生による授業評価」があり、具体的には、「学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか」が問われた。平成28年度の認証評価では、評価観点として「教員は、学生による授業評価を定期的を受けている」、「教員は、学生による授業評価の結果を認識している」、「教員は、学生による授業評価の結果を授業改善のために活用している」の3点が問われた。平成29年度受審予定の日本高等教育評価機構による認証評価においても、基準項目「教育目的の達成状況の評価とフィードバック」、「自己点検・評価の適切性」における事実の説明において、学生による授業評価アンケートが重要な役割を果たしている。

このように、学生による授業評価の結果は、教育目標の達成状況の把握と教員の授業改善の指標といえるものであり、次年度の授業改善目標の設定をするために必要な情報である。

学内で行う自己点検・評価活動は、企業や組織で定着している業務改善活動PDCAサイクルとも結びつく活動である。それは言い換えれば、下図のように常に止まることなく改善及び向上する活動である。



毎年度作成される授業計画(シラバス)が「Plan」である。そのシラバスのもとに、教員が一体となって学生に対応する授業が「Do」である。その結果は、教員の「学生による授業評価アンケート」による評価に現れ、「Check」となる。こうした評価結果に対して、次の年度に向けて新たな目標や具体的な取り組みの立案が「Act」となる。

2. 授業評価アンケートの実施方法

従来は、紙のマークシート方式でアンケートを収集し専用システムで集計していたが、集計システムのハードウェア・ソフトウェアが老朽化し更新が必要となったのを機に、平成28年度からスマートフォンを利用した新方式に置き換えた。

新方式は、アンケート回答用のウェブサイト以学生各自が持つスマートフォンでアクセスし、アンケート項目の選択肢をクリックする、若しくは意見をスマートフォン画面から入力するものである。授業担当教員は、回答ウェブサイトを示すQRコードを授業内で学生に示し読み取らせるのみであり、回答内容が教員に知られることは一切ない。回答結果は、ウェブサーバから自動的に本学の集計システム内に転送され集計される。

学生のスマートフォンを利用することによる問題は発生しなかった。スマートフォンを所有していない少数の学生用には、予め準備したパソコンで入力してもらうことにより対応した。また、自由意見の記述についても、学生はスマートフォン画面からの入力に習熟しており従来に比べ、質・量ともに遜色はなかった。

学生の授業評価の実施に際して、重要なこととして評価の客観性と公平性が求められる。客観性の担保として、従来、1教員あたり50名以上の履修者に行っていたが、1クラス当たりの学生数減少のため、平成26年度から35名以上とし、平成28年度から30名以上とした。

公平性を担保するため、従来、担当教員はアンケート実施・集計に関わらないこととしていた。今回の新方式への切り替えに際し、担当教員はQRコードを示すことは行うが、回答内容への関与は一切ないため公平性は十分に担保されていると考えている。

3. 授業評価アンケートの項目について

学生による授業評価のアンケート項目は、対象授業及び教員に対して学生がどのように感じたかを問うている。

アンケートの設問は、授業形態別に「講義」、「演習」、「実験・実習」、「体育実技」の4種類を設けて実施している。授業形態によるアンケート項目の主な違いは、講義科目が知識の向上を問うのに対して、その他の授業科目では、技能・実践力の向上も含めている。また、体育実技は、運動のレベルアップやルール知識の向上を問うことにしている。

なお、総合評価の回答は、従来1～5点の5段階回答方式であったが、きめ細かく学生の反応を知るため、100点満点での回答方式に改めた。

4. 「学生による授業評価」の結果について

<グラフ表示方法>

専任教員と非常勤教員について、各学科別にアンケート設問項目ごとの平均値を算出し、それをレーダーチャートでグラフ化した。比較数値は、各学科平均と全学科平均である。

<設問平均と総合評価について>

設問平均は、問1～問10までの設問項目の平均値を基に学科平均を出している。総合評価は、総合評価の学科平均を求めたものである。この設問平均と総合評価の比較によって、学生が設問ごとに回答した結果と総合評価欄に回答した結果に生じた変化を比較したものである。

なお、グラフ表示頁の上部に専任教員と非常勤教員ごとに、設問平均の全体平均値と総合評価の全体平均値も載せている。

<アンケート表示の傾向について>

本年度を含め、過去14年間の総合評価平均点の推移を下記に示す。

総合評価平均点の推移(全学)

(5点満点)

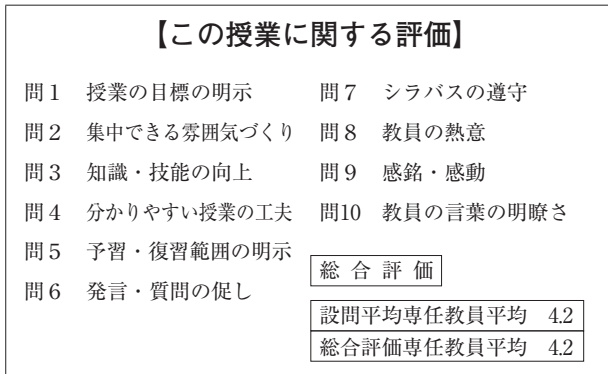
年度	専任教員	非常勤教員
	この授業に関する評価	この授業に関する評価
H15年度	3.9	3.8
H16年度	3.9	3.8
H17年度	4.1	3.8
H18年度	4.1	3.8
H19年度	4.1	3.9
H20年度	4.1	3.9
H21年度	4.0	3.9
H22年度	4.1	3.9
H23年度	4.0	3.8
H24年度	4.1	3.9
H25年度	4.1	4.0
H26年度	4.0	4.1
H27年度	4.1	4.0
H28年度	4.2	4.2

「この授業に関する評価」総合評価点の年度推移では、専任教員はここ数年間、4.0か4.1であったが、4.2に改善した。一方、非常勤教員の総合評価も近年は4.0か4.1であったが、今回4.2に改善し、近年は専任教員と非常勤教員の差はなくなっている。これは、年2回実施しているFD研修会の成果である。設問別では、問5「予習・復習範囲は明示されていましたか」が、専任教員、非常勤教員ともまだ低いながらも着実に向上しているのは評価できる。また、問8「教員の熱意を感じられるか」が設問中最高点を維持しているのはうれしい限りである。もちろん、アンケート結果がすべてではなく、学生への良い教育に対する教員の信念を通すことが大学にとって重要であり、良い教育とは何かを再度真剣に検討するきっかけとしていきたい。なお、総合評価を5点満点から100点満点で回答する方式に変更した影響は、5点満点に換算した比較では従来からわずかに上昇したものの、僅差であった。

*各学科のアンケート結果のグラフを、専任教員、非常勤教員の順に次のページ以降に示し、最後に授業形態別のアンケート項目を示す。

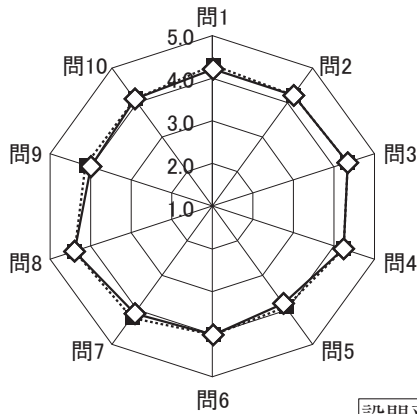
学科別集計

専任教員アンケート結果グラフ



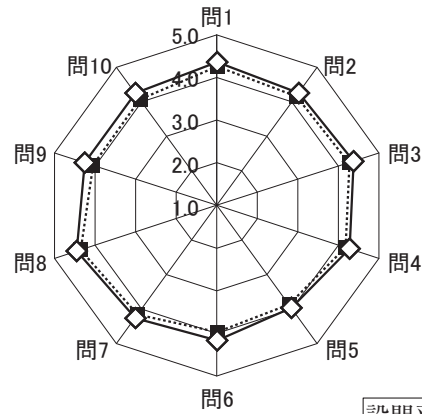
福祉心理学科

(この授業に関する評価)



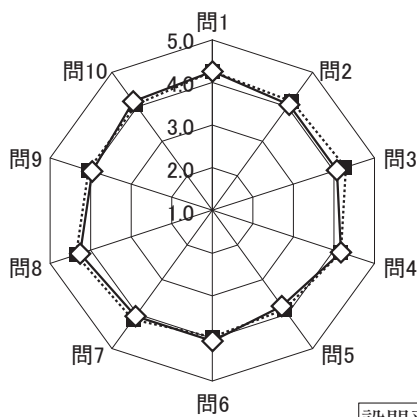
保育科第一部

(この授業に関する評価)



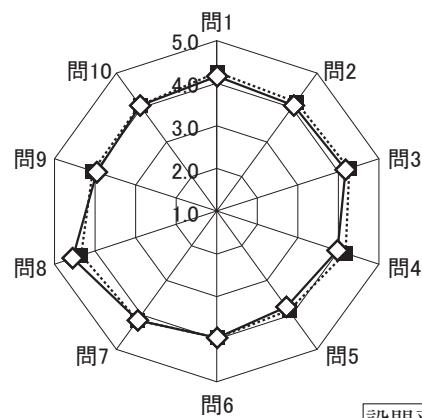
こども学科

(この授業に関する評価)



保育科第二部

(この授業に関する評価)

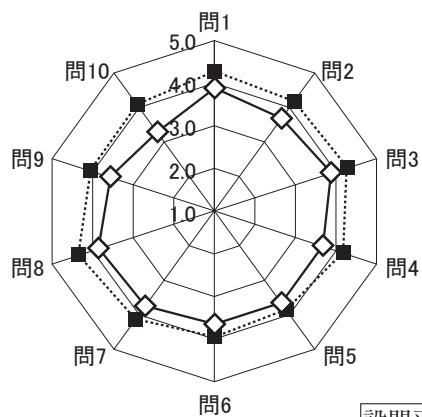


□— 学科全体平均値 ◆... 専任教員全体平均値

※専任教員については教員所属学科毎にグラフ化

食物栄養科

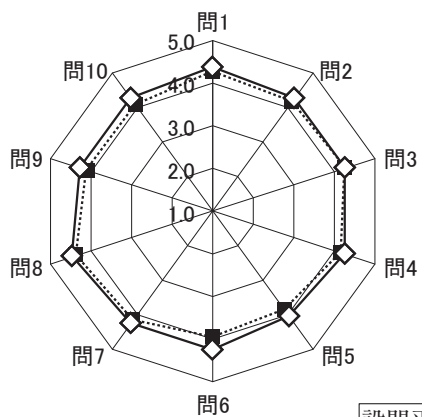
(この授業に関する評価)



設問平均	総合評価
3.7	3.8

情報ビジネス科

(この授業に関する評価)



設問平均	総合評価
4.3	4.3

□— 学科全体平均値 ◆... 専任教員全体平均値

非常勤教員アンケート結果グラフ

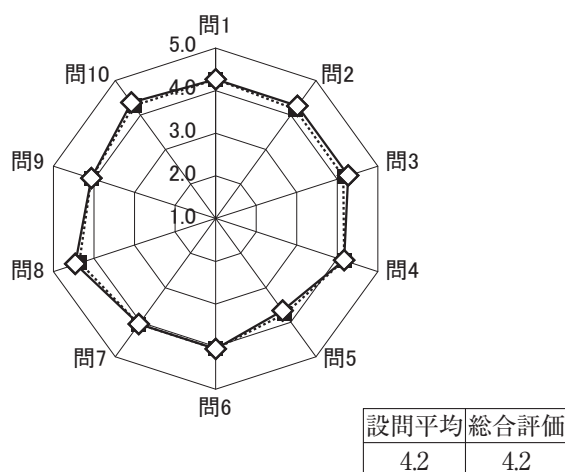
【この授業に関する評価】

問1 授業の目標の明示	問7 シラバスの遵守
問2 集中できる雰囲気づくり	問8 教員の熱意
問3 知識・技能の向上	問9 感銘・感動
問4 分かりやすい授業の工夫	問10 教員の言葉の明瞭さ
問5 予習・復習範囲の明示	
問6 発言・質問の促し	

総合評価
設問平均非常勤教員平均 4.2
総合評価非常勤教員平均 4.2

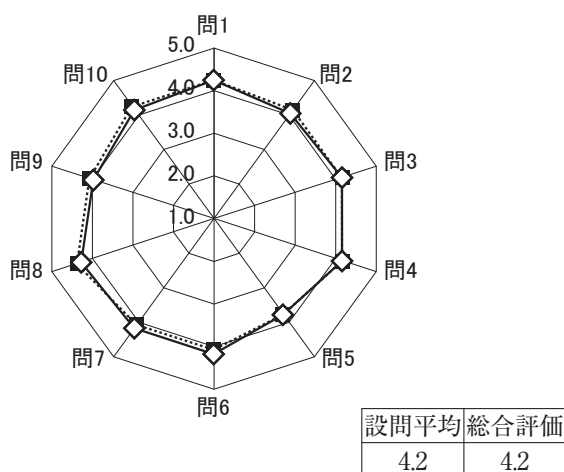
福祉心理学科

(この授業に関する評価)



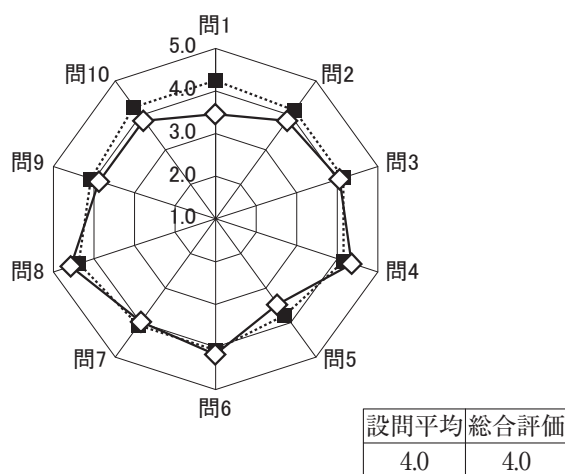
保育科第一部

(この授業に関する評価)



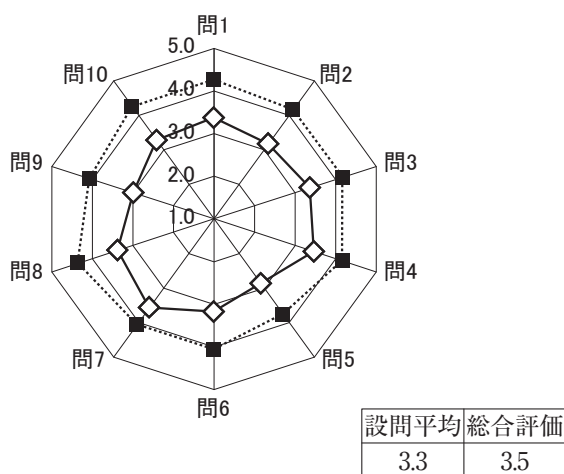
こども学科

(この授業に関する評価)



保育科第二部

(この授業に関する評価)

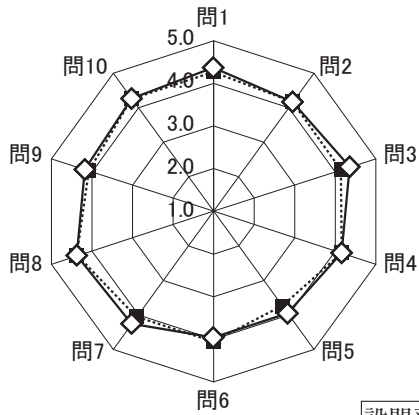


□— 学科全体平均値 ◆... 非常勤教員全体平均値

※非常勤教員についてはアンケート実施学科毎にグラフ化

食物栄養科

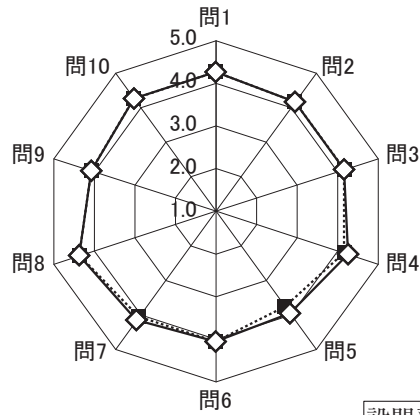
(この授業に関する評価)



設問平均	総合評価
4.2	4.5

情報ビジネス科

(この授業に関する評価)



設問平均	総合評価
4.2	4.3

□— 学科全体平均値 ◆--- 非常勤教員全体平均値

アンケート設問【講義】

この授業に関する評価		
問1	毎回、この授業の目的・目標・進め方など、明確にされていきましたか？	5段階評価
問2	教員は授業に集中できる雰囲気づくりに努めていましたか？	5段階評価
問3	この授業を受け、知識が深まりましたか？	5段階評価
問4	学生の理解度を助けるため、分かりやすい授業の工夫(資料の配布、映像の利用など)が行われていましたか？	5段階評価
問5	授業時間外の予習・復習について、その範囲が明示されていきましたか？	5段階評価
問6	教員は授業の中で、発言や質問をするように促しましたか？	5段階評価
問7	授業計画(シラバス)に基づき、授業が行われましたか？	5段階評価
問8	この授業について教員の熱意が感じられましたか？	5段階評価
問9	教員は感銘・感動を与え、知的好奇心を喚起する努力をしていましたか？	5段階評価
問10	教員の言葉は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	5段階評価
総合評価	この授業の満足度を総合的に100点満点で評価してください。	100点満点を5点満点に換算して評価
—	この授業に対する満足度・改善意見や感想などを自由に記述してください。	学生による自由意見
—	授業の開始時間や終了時間は守られていましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見
—	出席確認は3分以内で終了していましたか？そのための工夫が行われていましたか？出席確認の方法についてどう思いましたか？	学生による自由意見
—	小テスト(課題演奏等を含みます)・レポート、もしくは課題・作品等の提出があった場合、適切な評価もしくはコメントが付されて返却されましたか？また返却の時期は適切でしたか？	学生による自由意見
—	授業態度のよくない(私語が多い、身だしなみが悪い、居眠りするなど)学生に対して注意されましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見

アンケート設問【演習】

この授業に関する評価		
問1	毎回、この授業の目的・目標・進め方など、明確にされていきましたか？	5段階評価
問2	教員は授業に集中できる雰囲気づくりに努めていましたか？	5段階評価
問3	この授業を受け、知識・技術・実践力が深まりましたか？	5段階評価
問4	学生の理解度を助けるため、分かりやすい授業の工夫(資料の配布、映像の利用など)が行われていましたか？	5段階評価
問5	授業時間外の予習・復習について、その範囲が明示されていきましたか？	5段階評価
問6	教員は授業の中で、発言や質問をするように促しましたか？	5段階評価
問7	授業計画(シラバス)に基づき、授業が行われましたか？	5段階評価
問8	この授業について教員の熱意が感じられましたか？	5段階評価
問9	教員は感銘・感動を与え、知的好奇心を喚起する努力をしていましたか？	5段階評価
問10	教員の言葉は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	5段階評価
総合評価	この授業の満足度を総合的に100点満点で評価してください。	100点満点を5点満点に換算して評価
—	この授業に対する満足度・改善意見や感想などを自由に記述してください。	学生による自由意見
—	授業の開始時間や終了時間は守られていましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見
—	出席確認は3分以内で終了していましたか？そのための工夫が行われていましたか？出席確認の方法についてどう思いましたか？	学生による自由意見
—	小テスト(課題演奏等を含みます)・レポート、もしくは課題・作品等の提出があった場合、適切な評価もしくはコメントが付されて返却されましたか？また返却の時期は適切でしたか？	学生による自由意見
—	授業態度のよくない(私語が多い、身だしなみが悪い、居眠りするなど)学生に対して注意されましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見

【5段階評価】

- ⑤非常にそう思う ④ある程度そう思う ③普通 ②あまりそう思わない ①全くそう思わない
 (※)⑤全くしなかった ④ほとんどしなかった ③たまにした ②時々した ①よくした

アンケート設問【実験・実習】

この授業に関する評価		
問1	毎回、この授業の目的・目標・進め方など、明確にされていきましたか？	5段階評価
問2	教員は授業に集中できる雰囲気づくりに努めていましたか？	5段階評価
問3	この授業を受け、知識・技能が深まりましたか？	5段階評価
問4	学生の理解度を助けるため、分かりやすい授業の工夫(資料の配布、映像の利用など)が行われていましたか？	5段階評価
問5	理解や技能を高めるため、教材・教具の事前準備は適切になされていきましたか？	5段階評価
問6	教員は授業の中で、発言や質問をするように促しましたか？	5段階評価
問7	授業計画(シラバス)に基づき、授業が行われましたか？	5段階評価
問8	この授業について教員の熱意が感じられましたか？	5段階評価
問9	教員は感銘・感動を与えるよう努力をしていましたか？	5段階評価
問10	教員の説明や指示は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	5段階評価
総合評価	この授業の満足度を総合的に100点満点で評価してください。	100点満点を5点満点に換算して評価
—	この授業に対する満足度・改善意見や感想などを自由に記述してください。	学生による自由意見
—	授業の開始時間や終了時間は守られていましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見
—	出席確認は3分以内で終了していましたか？そのための工夫が行われていましたか？出席確認の方法についてどう思いましたか？	学生による自由意見
—	小テスト・レポートについて適切な評価もしくはコメントが付されて返却されましたか？またフィードバックの時期は適切でしたか？	学生による自由意見
—	授業態度のよくない(私語が多い、身だしなみが悪い、居眠りするなど)学生に対して注意されましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見

アンケート設問【体育実技】

この授業に関する評価		
問1	毎回、この授業の目的・目標・進め方など、明確にされていきましたか？	5段階評価
問2	教員は、運動を効果的かつ安全に行うための環境づくりに努めていましたか？	5段階評価
問3	この授業を受け、種目・競技に関する知識・技能が深まりましたか？	5段階評価
問4	運動方法やルール等の説明時に、分かりやすい授業の工夫(資料の配布や模範を示すなど)が行われていましたか？	5段階評価
問5	理解や技能を高めるため、教材・教具の事前準備は適切になされていきましたか？	5段階評価
問6	教員は授業の中で、発言や質問をするように促しましたか？	5段階評価
問7	授業計画(シラバス)に基づき、授業が行われましたか？	5段階評価
問8	この授業について教員の熱意が感じられましたか？	5段階評価
問9	教員は感銘・感動を与えるよう努力をしていましたか？	5段階評価
問10	教員の説明や指示は明瞭で、聞き取りやすかったですか？	5段階評価
総合評価	この授業の満足度を総合的に100点満点で評価してください。	100点満点を5点満点に換算して評価
—	この授業に対する満足度・改善意見や感想などを自由に記述してください。	学生による自由意見
—	授業の開始時間や終了時間は守られていましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見
—	出席確認は3分以内で終了していましたか？そのための工夫が行われていましたか？出席確認の方法についてどう思いましたか？	学生による自由意見
—	練習やゲームの時に評価もしくはコメントなどがなされていきましたか？また、練習や試合のときにトラブルや困難が生じた際に助言や援助がなされましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見
—	私語の多い学生、不適切な身だしなみの学生、授業態度のよくない学生に対して注意されましたか？	はい/いいえ 学生による自由意見

【5段階評価】

- ⑤非常にそう思う ④ある程度そう思う ③普通 ②あまりそう思わない ①全くそう思わない
 (※)⑤全くしなかった ④ほとんどしなかった ③たまにした ②時々した ①よくした

第3章 専任教員にかかる平成28年度教員研究活動及び学生による授業評価アンケート結果に関する自己点検

福祉学部 福祉心理学科	52
福祉学部 こども学科	66
保育科第一部	76
保育科第二部	88
食物栄養科	91
情報ビジネス科	93

福祉学部 福祉心理学科

星野仁彦(ホシノ ヨシヒコ)

職名 教授

授業科目名 ・精神医学 ・精神保健学 ・心理療法 ・福祉心理学 ・精神医学特論 ・発達障害特論
(担当科目数 6 科目、総履修者延人数 227人)

所属学会 ・日本精神神経学会 ・日本及び東北児童青年精神医学会 ・日本LD(学習障害)学会
・日本小児精神神経学会

管理職名 副学長(大学研究推進担当)、心理臨床相談センター長

各種委員会 ・研究業績審査委員会 ・自己点検・評価委員会 ・個人情報保護対策委員会
・差別と嫌がらせ防止委員会 ・FD・SD委員会 ・図書館情報センター委員会
・福島駅前キャンパス防災・防犯対策委員会 ・図書館情報センター委員会
・福島駅前キャンパス管理運営委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

一般の心理系や福祉系の大学で最もハードルが高く難解とされている精神保健学、精神医学、心理療法、福祉心理学などの講義を学生にとってできるだけわかりやすく理解させるために、視覚的教材を用いて具体的な事例を紹介すること、教員の臨床体験に基づいた講義をすることなど、学生の立場にとってわかりやすく、興味・関心を抱き、かつアカデミックな好奇心をそそる授業を目指した。また、豆テストを行って復習させるとともに、学生の質問・意見・感想などを書かせて、次の講義で教員が回答することによって意思の疎通を図った。また、予習・復習の徹底と授業への集中力を目指させるとともに、今後は「福祉士、心理士としてのプロ意識が育った」という達成感の得られる授業を目指していきたい。

II. 研 究

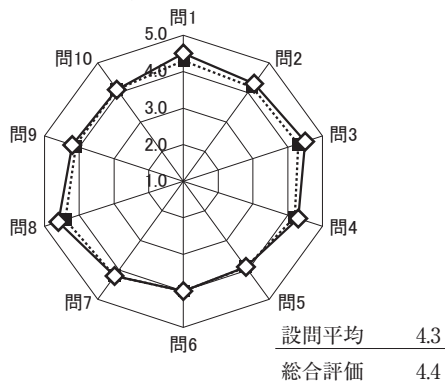
研究テーマは昨年同様、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)、自閉症スペクトラム障害、アスペルガー症候群などの発達障害を有する幼児期、学童期、青年期、青年期における症状、臨床的特徴、状態像などの変化と二次的情緒障害、成人になってからの合併症との関連性について検討した。また合併症の予防方法と周囲のサポートによるレジリエンシー(回復力)効果についても調査した。今年は特にADHDやアスペルガー症候群の各種薬物療法の比較検討と親への家族療法と心理教育の効果に研究の焦点をあてた。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「精神医学」(必修/講義)
アンケート数：54

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

学生の自由意見として、実際に患者を診断・治療している精神科、心理科医の体験談が聞けて良かった、授業に対する情熱が感じられた、患者の言動を演じる講義が毎回楽しみだった、進路選択のきっかけになった、興味・関心をひくような授業の進め方をしてくれた、自分の悩みに直接関係ある話を聞いて良かった、精神障害のビデオを見て人間の深層心理や精神病理の複雑さや歪みがわかった、講義によって自分自身の心理への理解が深まった、教員が毎回学生の質問への回答や意見・感想を紹介してくれたのが良かったなどの意見がみられた。

この授業に対して学生の満足度が高く、学生の知的好奇心をそそり、将来精神保健福祉士、社会福祉士、臨床心理士になるための目標意識を高め、プロ意識を育てていることが示唆された。しかし、例年のように一部私語や遅刻が多い、豆テストを毎回返却して欲しいなどの至らぬ点があったので、今後教員側の努力事項にしていきたい。

福祉学部 福祉心理学科

藤原正子(フジワラ マサコ)

職名	教授
授業科目名	・精神保健福祉の制度とサービス ・精神保健福祉援助実習指導 ・精神保健福祉援助実習 ・精神保健福祉援助演習(専門) ・精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) ・精神保健福祉相談援助の基盤(専門) ・精神障害者の生活支援システム ・精神保健福祉援助演習(基礎) ・精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ ・福祉キャリア研究 (担当科目数 10科目、総履修者延人数 226人)
所属学会	・日本社会福祉学会 ・日本精神保健福祉学会 ・日本精神障害者リハビリテーション学会 ・日本病院・地域精神医学会
各種委員会	・全学実習調整委員会 ・駅前キャンパス就職対策委員会 ・福祉心理学科福祉実習委員会 ・研究業績審査委員会
クラスアドバイザー	3年Aクラス
クラブ・サークル	文芸部、赤十字奉仕団
オフィスアワー	有

I. 教 育

ソーシャルワークの歴史、映像や事例を通して学生との授業展開では、考えるように投げかけ、価値観を振り返る機会になるように概ね達成されたと思われる。

生活指導等の着眼点と努力点としては、3年Aクラスアドバイザーまた、精神保健福祉援助実習担当教員として履修登録、進路、学生生活などについて学科教職員の協力を得て進めた。

II. 研 究

岡本民夫他編『ソーシャルワークの理論と実践—その循環的發展を目指して—』の「第6章問題解決アプローチ」を執筆し、H.H.パールマンの問題解決理論の概説と実践的展開例における援助過程が問題解決理論と合致していることを検証した。日本精神保

健福祉士養成校協会編『精神保健福祉士の養成教育—その展開と未来』の「第6章精神保健福祉士養成における実習教育の在り方」を執筆し、実習の意義と位置づけ、精神保健福祉実習の固有性、実習方法と留意点、今後の課題として養成教育と有資格者の生涯研修との連動性や地域包括支援に寄与できる人材育成に向けた実習展開などについて論述した。

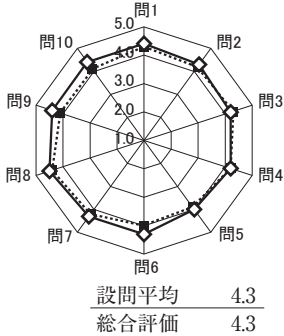
III. そ の 他

ふくしまキッズ博担当として、福島市内4大学の学生事務局会議9回、H28/7/31-8/1キッズ博、9/10、11/5、12/18ミニキッズ博への参加と学生指導、復興庁学生ワークショップ参加指導、アカデミアコンソーシアムふくしまの成果報告に向けた事前指導を行った。

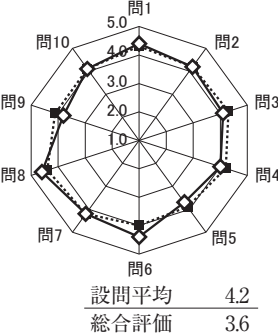
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心2年
「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」
(資格必修/講義)
アンケート数：21
〔この授業に関する評価〕



実施科目：福心3年
「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」
(資格必修/講義)
アンケート数：13
〔この授業に関する評価〕



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

福祉心理学科2年次科目「精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」の授業に関するアンケート(回答者21名/履修登録者30名)において、設問平均4.3、内4.0だった問5にある「授業時間外の予復習の範囲の明示」について、レポート課題の提示と提出時期を早めアンケートに反映できるように心がけ、小テストの予復習について書き示すよう心掛けたい。3年次科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」の授業に関するアンケート(回答者13名/履修登録者18名)において、総合評価3.6、内3.7だった問5についても課題を板書するよう心掛けたい。プリント作成時には書き込みやすさを心掛け、プリント配布時、学生に不快な思いをさせないようゆとりを持って配布に努めたい。

福祉学部 福祉心理学科

内藤 哲雄(ナイトウ テツオ)

職 名 教授

授業科目名 ・心理学 ・社会心理学 ・職場の心理 ・社会心理学実験実習 ・臨床心理学特論Ⅰ
 ・臨床心理面接特論Ⅰ ・心理学研究法特論 ・臨床心理実習 ・臨床心理地域援助特論
 ・臨床心理課題研究Ⅰ ・臨床心理学課題研究Ⅱ ・臨床心理学課題研究Ⅲ
 ・臨床心理学課題研究Ⅳ

(担当科目数 13科目、総履修者延人数 194人)

所属学会 ・日本心理学会 ・日本教育心理学会 ・日本応用心理学会 ・アメリカ心理学会 (APA)

管理職名 大学院心理学研究科長

各種委員会 ・学生指導委員会 ・研究業績審査委員会 ・学募推進委員会
 ・駅前キャンパス防災・防犯対策委員会

クラスアドバイザー 4年Bクラス

オフィスアワー 有

I. 教 育

学部1年次配当の心理学と3・4年次配当の社会心理学の受講生には大きな違いがある。前者が必修で、後者は選択という違いによる影響がないとはいえないが、1年生では「学習習慣」が身につけていない者が圧倒的に多い。また、大学ではじめて学習する科目については、予備知識もなく、学び方が分かっていない。これが3年生以上では、心理学の基礎的な知識を持っており、わからなくても隣と話をせずに聞こうとする姿勢が身につけている。このことを考えると、1年次からの学習への動機づけ教育が必須であろう。しかし、他方では学生の授業評価での反発を考えると、半数近くで動機づけ教育が困難である。休学や退学の指導にかかわったクラスアドバイザーでの体験からも、挫折体験者もいることからはじめは緩やかに、次第に内容を高める取り組みをし

たが、さらに緩やかなところから開始するのを感じた。

II. 研 究

日本の大学で学んでいる留学生を対象として、科学研究費による経費で非言語コミュニケーションのスキーマについて研究し、国内学会だけでなく、国際学会大会(ICP2017, IACC2017)やアメリカ心理学会の年次大会(APA2017)で発表した。平成29年度もアジア社会心理学会大会(AASP2017)、ヨーロッパ心理学大会(ECP2017)での発表が受理されており、精力的に国内外の学会での研究発表の予定である。

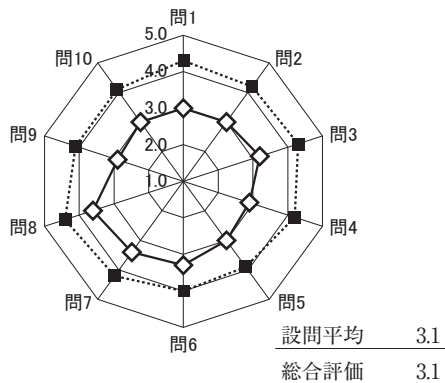
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「心理学」(必修/講義)

アンケート数：56

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

学生の学習意欲を高めようと、内藤自身がいかにか劣等生であったか的事实と学習習慣を身につけるための大変さや自身の工夫について話すと、励まされてそれを取り入れようとする学生がいる一方で、余談・無駄話と感じる学生がいる。内藤自身の挫折体験や工夫を話す機会を少なくすることが必要なのかもしれない。現実場面での事例がわかりやすいと感じる学生と、難しくついていけないと反発する学生がいる。感情的に反発し学ぼうとしない姿勢には疑問を感じるが、授業方法の改善には取り組む必要がある。ビデオ教材を使ってはいるが、回数を増やしてほしいとの要望を取り入れたい。また、重要点は、繰り返し教えてリハーサル(頭の中での復唱)回数を多くして、「学んでいるとの実感」を増したい。

福祉学部 福祉心理学科

梅宮 れいか(ウメミヤ レイカ)

職名 教授

授業科目名 ・発達臨床学特論 ・自由研究Ⅰ ・自由研究Ⅱ ・課題研究Ⅰ ・課題研究Ⅱ
・癒しと心 ・心理学実験 ・教育の方法と技術
(担当科目数 8科目、総履修者延人数 193人)

所属学会 ・日本健康医学会 ・日本健康心理学会 ・日本教育心理学会 ・アロマ環境学会

管理職名 大学ALLO、大学院心理学研究科子ども心理専攻主任

各種委員会 ・学生指導委員会 ・自己点検・評価委員会 ・FD・SD委員会

・図書館情報センター委員会 ・個人情報保護対策委員会 ・差別と嫌がらせ防止委員会
・入試広報戦略検討委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

- ①アクティブラーニング 4件(8授業)を実施。
 - ・大学院「発達臨床学特論」にて、ジグソー法による授業を行った
 - ・福祉心理学科「癒しと心」にて課題解決型授業を行った。
 - ・福祉心理学科「心理学実験」にて図書館活用の調べ学習を行った。
 - ・保育科1、2部「教育の方法と技術」にて、グループによる課題解決学修と、半期5回のレポートによる細かな評価を行った。
- ②「心理学実験」を除くすべての授業において、全授業コマにおいて、必ず説明資料として映像を導入した。

II. 研 究

LGBTのこどもの発達について、教育現場での理解を促す条件について、今の社会状況を分析するこ

とから考察した。この内容は、教育保育論集に掲載の論文になると共に、学校心理士会全国大会において、大会委員会企画セミナーの講演として、全国の関係者に発信された。また、思春期に於けるLGBT支援の条件も考察し、福島北高校の思春期セミナーで高校生対象の講義を行った。ほかに、「教育の方法と技術」に関して、幼稚園教員養成課程に於ける役割と位置づけが不明瞭であることを指摘し、法令の解釈と指導科目として養成課程に開設された当初からの研究の概観を総合して、再定義と教育内容の要件をまとめた。

III. そ の 他

日本学校心理士会子ども支援グループメンバー、臨床発達心理士会研修委員、臨床発達心理士会思春期・青年期研究小委員会座長、臨床発達心理士会全国研修会コーディネーター。

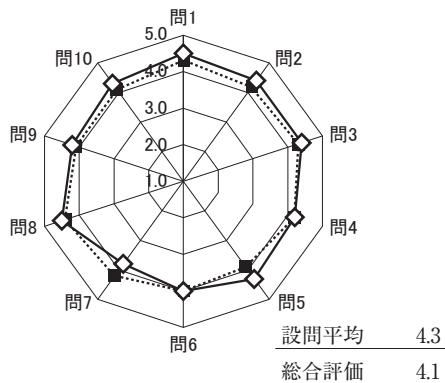
「癒やしと心」市民対象無料公開授業 15回

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心3年「心理学実験」(選択/実験・実習)
アンケート数：33

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

履修者37名の認定心理士必修科目。論理的思考の方略を身につけることを目的に、簡単な実験を、記録、解釈、まとめの3ステップでレポート化することを繰り返す授業である。30回の授業において、レポートは5回、授業時間内の講義と図書館での文献検索ワーク、一人ひとりの思考プロセスを積み上げる個人指導でレポートをまとめさせた。「レポートの書き方のプロセス等、毎回丁寧に指導していただき、学生のペースに合わせて無理の内容に配慮して下さったのでやりやすかった」「レポートをまとめるのが難しいときもありましたが、その分、力がつきました！」「レポート大変だったけど、達成感がありました」とのコメントは、この授業での学修効果があったことを示している。「レポートを書くのは大変だったけど、その課題について調べて知識が増えることがうれしかった。とてもやりがいのある授業でした。」という言葉がうれしい。「難しく4単位分くらいの内容」との感想もあったが、それだけ学びきた諸君はすごいと言いたい。「先生の実験に対する考えや思いにとっても感銘を受けました」私の考えを共有してくれた君たちに感謝である。次年度は、「学んだ感」を可視化する方策を導入してみたいと思う。

福祉学部 福祉心理学科

西 村 學(ニシムラ マナブ)

職 名 教授

授業科目名 ・発達心理学 ・障害児保育 ・発達臨床心理学
(担当科目数 3科目、総履修者延人数 215人)

所属学会 ・日本発達障害学会 ・日本特別ニーズ教育学会

クラスアドバイザー 1年

オフィスアワー 有

I. 教 育

新たな授業の内容について、試行錯誤の一年間であった。特に、学生に授業に能動的に参加してもらうためにいくつかの工夫をした。また、これまで授業中の居眠りにはやや寛容であったが、声かけすると目覚める場合があることを知ったので、注意するよう心がけた。

II. 研 究

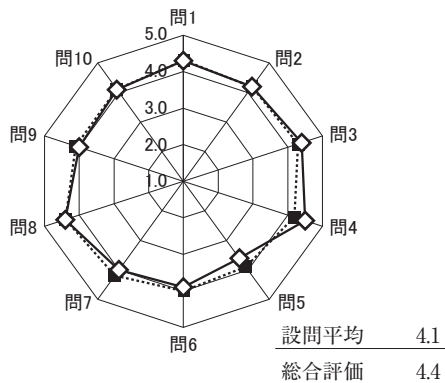
人間に対する子どもの信頼感はどのようなプロセスで形成されるのか、という課題を研究テーマとして設定し、アタッチメント、自己肯定感、体罰(虐待)などに関連する文献を読み進めた。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「発達心理学」(必修/講義)
アンケート数：49

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

新たな授業で、試行錯誤の一年間であった。正直、受講生の高評価は予想外であった。映像探し、資料づくりの努力が報われた。自分の子どもや孫の育児体験も、授業内容の理解に大いに役立ったようで、来年度はもっと自信をもって紹介したいと思う。一方、字が読み辛いという苦情をたくさんいただいた。今後はもっと丁寧に書きたいと思う。

福祉学部 福祉心理学科

織田 正 昭(オダ マサアキ)

職 名 教 授

授業科目名 ・育児ストレス(福祉心理学科) ・母子保健Ⅰ(福祉心理学科) ・母子保健Ⅱ(福祉心理学科)
・女性と保健(福祉心理学科) ・公衆衛生学(食物栄養科) ・公衆衛生学Ⅱ(食物栄養科)
・女性の保健(こども学科) ・発達障害学特論Ⅱ(大学院こども心理専攻)
・自由研究Ⅰ(大学院こども心理専攻) ・自由研究Ⅱ(大学院こども心理専攻)
・課題研究Ⅰ(大学院こども心理専攻) ・課題研究Ⅱ(大学院こども心理専攻)
(担当科目数 12科目、総履修者延人数 192人)

所属学会 ・日本小児保健学会 ・こども環境学会 ・アメリカ微生物学会 ・ニューヨーク科学アカデミー
オフィスアワー 有

I. 教 育

講義では、スライド映写、ビデオ視聴を毎回積極的に取り入れて学生の学ぶ意欲意識の高揚に努め、それを材料とした討論などを行うことを通してアクティブラーニングの推進に努めた。講義半ばでの5分程度の休憩タイムの採用は学生にとっても好評であり、今後も取り入れていきたい。なお本学での講義を高校の延長程度に受け止めている学生も多く見られることから、シラバス通りに進まないことも多々あり、受講意識の変容の工夫を図りたい。

生活指導については、学生の個別面談以外は接触がないが、より積極的にコミュニケーションを図って生活指導に生かしたい。

II. 研 究

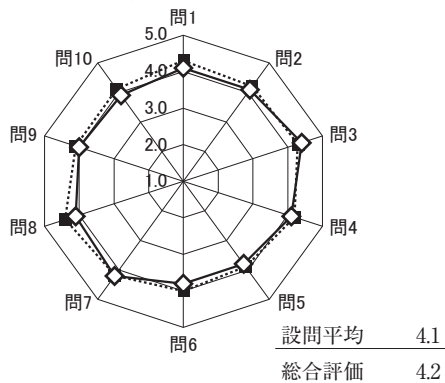
週3日の出校日内に、3～5コマの講義、各種会議、時間外の受け持ち修士課程生への研究指導があり、これらと“研究”をバランスよく進めることは実際には極めて難しい。本年度は昨年度の修士論文合格者(鈴木智子氏)の研究、学外研究者と共に行っている都市型育児に関する研究を小児保健学会で共同演者として発表した。県の学術教育振興財団からの研究助成を受けた織田の継続研究「福島県下の学童の体力低下と肥満に関与する要因の疫学的解析」を、学外研究者数名の協力と助言を得て実施してまとめた。現在も学外協力研究として、東京高層住宅地区における育児相談の在り方に関する研究を進めている。なお海外の研究者たちと小児感染免疫、予防接種に関する研究情報の交換を継続している。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「育児ストレス」(選択/講義)
アンケート数：27

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

同じ講義内容・方法でも、学生により授業の受け止め方がかなり異なっているのでひとまとめにして意見を述べられないが、この授業に対して学ぼうとする積極性が見られ、多くの学生が好意的に評価している点は喜ばしく、またその授業評価も妥当であるものと理解できる。高校を出たばかりで、育児経験が全くない学生に対して育児ストレスを教えるのはかなり困難であるが、関連するスライドやビデオ視聴を通して、ほとんどの学生が近未来に関わる内容であると感じ将来に向けて大いに役に立つとしている。途中休憩タイムの採用で、学生も学習意欲のリフレッシュに役立つと感じており、一方で一部に聞こえないなどの意見があり、これらに対しては積極的に前の席に来ようさらに促していきたい。

福祉学部 福祉心理学科

杉山 雅彦(スギヤマ マサヒコ)

職 名 教授

授業科目名 ・ カウンセリング概論 ・ カウンセリング演習 ・ 心理カウンセリング演習
・ 臨床心理基礎実習Ⅰ ・ 臨床心理基礎実習Ⅱ ・ 臨床心理面接特論Ⅱ
・ 学校臨床心理学特論 ・ 臨床心理課題研究Ⅰ ・ 臨床心理課題研究Ⅱ
・ 臨床心理課題研究Ⅲ ・ 臨床心理課題研究Ⅳ
(担当科目数 11科目、総履修者延人数 70人)

所属学会 ・ 日本認知・行動療法学会 ・ 日本教育心理学会 ・ 日本カウンセリング学会
・ 日本行動分析学会

各種委員会 ・ 衛生委員会

クラスアドバイザー 3年Bクラス

オフィスアワー 有

I. 教 育

学部、大学院共に、心理的な対応に関して授業を展開しなければならないこともあり、学生から見ると「難しい授業」に見えている。そのため、いかに受講者の興味関心を維持するかが大きな課題となっている。そのため、関連する領域での必要性や重要性あるいは実際の適用状況などの情報を提供する、あるいは調べさせて発表してもらうなどを重視した。生活指導に関しては、問題を抱えているかどうかは問わず、「話し合い」の場を、時間をとり、設けることをまず第一に考えた。その上で、混乱している点を自分で発見してもらうという方法で対応している。結果は必ずしもすべての学生に関して問うたわけではないが、後日札を言いに再訪してくるなど、ある程度の満足状況を伴う行動が認められた。

II. 研 究

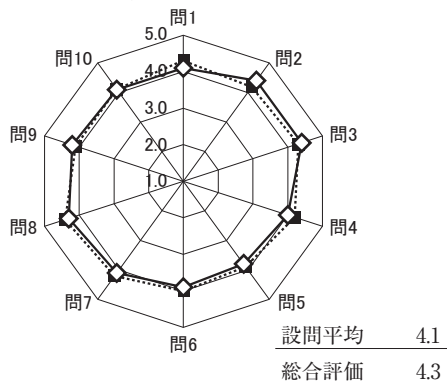
研究テーマは、大きな枠として様々な問題あるいは様々な状況に関する認知行動療法の適用である。今年度は特に発達障害を持つ方に関して、および強迫行為を持つ方に関して検討が進んだ。ただ、フィールドの関係で、学校における適用に関しては介入は進んではいないものの、研究に用いることが出来るデータ量としては、今年度は増やすことは出来なかった。また認知行動療法の方法論と理論的枠組みに関しては今年度共同編集でまとめることが出来、一つ懸案であったものに形をつけることは出来た。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心2年「カウンセリング概論」(選択/講義)
アンケート数：27

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

この授業は通年の授業であり、教員側として考えなければならないのは一年を通してドライブを保つことであった。またカウンセリングの授業であり、知識は必要ではあるが、カウンセリングを用いるために自分の中に生じていることに気づいてもらうことが重要と考えられた。学生評価や自由意見を見ると、最低限の条件クリアには至っていると評価している。ただし、当然授業期間が長くなればなるほど学生間のパフォーマンスの差が開いてくることになり、残念ながら、それを超える形でのドライブコントロールは出来ていないといえる。学習への動機づけを保つために、資料作成の方法や、学生間のディスカッションへのコメントの仕方など、どのレベルにするのか検討しなければならないと感じている。

福祉学部 福祉心理学科

遠藤 寿海(エンドウ トシミ)

職 名 教授

授業科目名 ・高齢者に対する支援と介護保険制度 ・相談援助演習Ⅱ ・相談援助実習指導
・相談援助実習 ・特別研究 ・地域ボランティア活動 ・地域振興活動
(担当科目数 7科目、総履修者延人数 101人)

所属学会 ・日本老年行動科学会 ・日本老年社会学会

管理職名 福祉心理学科主任、福祉心理学科学生主任

クラスアドバイザー 4年Aクラス

オフィスアワー 有

I. 教 育

相談援助実習指導、特別研究は、授業時間外において学生からの質問・相談に応じられるよう、空き時間を積極的に伝えた。学外講演会等へ引率し、当事者への理解を深められるよう工夫した。生活指導の上では、個別相談があった場合、可能な限り時間を作っている。

II. 研 究

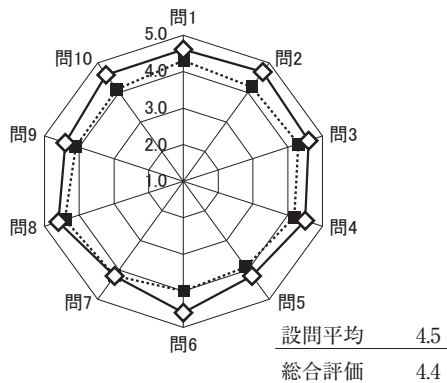
今年度、報告できる実績はありません。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「高齢者に対する支援と介護保険制度」(資格必修/講義)
アンケート数：37

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

配布プリントの多さ、授業のペース、板書時の字の大きさ等、改善が可能な点は授業時に注意していきたい。

福祉学部 福祉心理学科

ブルース・ヒューバナー

職 名 教 授

授業科目名 ・英会話1 ・英会話2

(担当科目数 2科目、総履修者延人数 40人)

オフィスアワー 有

I. 教 育

『英文を読み理解し、且つ話すことができるように』という目的を掲げているが、1対数十名のクラス編成では至難である。学生はクラスという集団の中にあるとき、照れや、羞恥から、たとえ本人に英語を話したいというモチベーションがあったとしても、集団の中でそれを打ち出すことに躊躇があり、それが学習の妨げとなっている。まず何よりも、その殻を破りやすくする授業の雰囲気や方法(方便)が必要である。教科書を見て言葉をオームのように繰り返すことではなく、生きたコミュニケーションを自らの強い要望を持つ手助けすることを目指している。英語によるコミュニケーション力というツールが、どれほど学生の世界を広げるか、このクラスの中で学んでほしい。自ら考えて学ぼうとする姿勢が

大切。教員等から与えられた課題を忠実にこなすことが優等生であるという観念を変えることを、指導の鍵としたい。

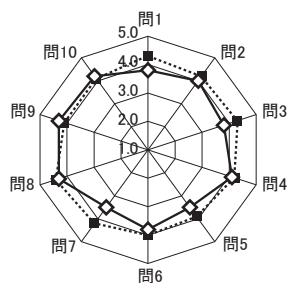
II. 研 究

『英語はコミュニケーションのツール』であることを、いかに理解してもらうかが課題。世界中、英語を母国語としない国々においても、英語によるコミュニケーションが、日本よりずっと機能している。その原因は何か、インターネットやメディアによる情報を駆使し、学生と共に模索したい。また英語で自らを表現しようとする時、自らの文化を知ることなく、世界を観ることは不可能であることを示したい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

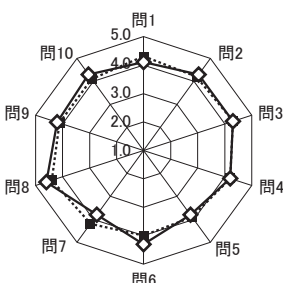
1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：情ビ1年
「英会話Ⅰ」(必修/演習)
アンケート数：11
〔この授業に関する評価〕



設問平均	3.9
総合評価	4.2

実施科目：福心2年
「英会話Ⅱ」(必修/演習)
アンケート数：13
〔この授業に関する評価〕



設問平均	4.2
総合評価	4.4

2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

学生は従来のテキストに沿った授業に慣れていたため、当初は戸惑いを見せたものの、生きた言語は紙媒体では、学べないことを理解しつつある。体を使った授業や、時にはゲストを招き英語とどのように付き合ってきたかを語ってもらうことも、好評であった。改善方法は、クラスの中で英語学習に取り組むための殻を破ることに尽きる。

福祉学部 福祉心理学科

日 下 輝 美(クサカ テルミ)

職 名 教 授

授業科目名 ・社会福祉 ・福祉キャリア研究 ・地域福祉論 ・相談援助演習Ⅰ、Ⅲ
 ・相談援助実習指導 ・相談援助実習 ・地域ボランティア活動 ・地域振興活動
 ・現代地域福祉事情特論

(担当科目数 10科目、総履修者延人数 228人)

所属学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉学会 ・日本計画行政学会

管理職名 福祉心理学科長

各種委員会 ・全学実習連絡調整委員会 ・学募推進委員会

クラスアドバイザー 2年

クラブ・サークル ボランティアクラブP S、手話上達クラブ『ONEエミュ』

オフィスアワー 有

I. 教 育

福祉心理学科担当科目の中でも特に、「相談援助演習」においては、社会福祉士に必要な知識と技術の習得に向けた指導を行った。学生個人々の知識・技術向上のため様々な事例を使用し、多職種連携のあり方や多岐にわたる法律や制度の解説を行った。

II. 研 究

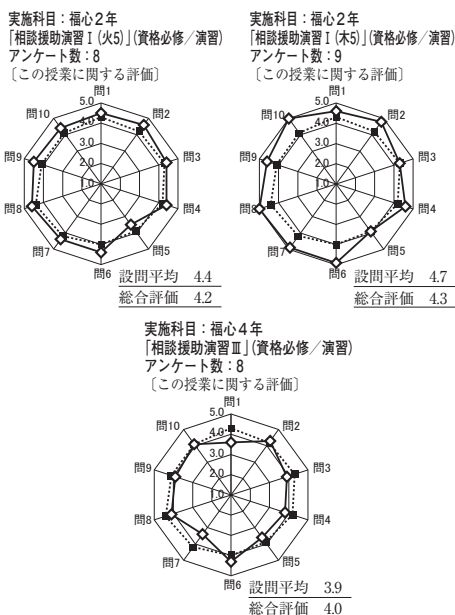
福島学院大学研究紀要第50集に投稿した、「社会福祉分野におけるラーニング・コモンズの学習成果に関する実践研究 —アクティブ・ラーニングを通じた大学図書館の場づくりについて—」論文について継続して研究に取り組んだ。

III. そ の 他

教科書、配布資料のほか、アクティブ・ラーニングの場として図書館並びに、新聞を活用し学びの幅を広げる授業を行った。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「相談援助職に大切なことを実際に体験しながら学べた」、「個人の価値観、ソーシャルワーカーとして持つべき価値観を学ぶことができた」など、相談援助職者としての知識、技術についての学びが深まったことが評価で理解できた。今後は、現場で活躍するゲストスピーカーを招聘し、より具体的な授業を行いたい。

福祉学部 福祉心理学科

黒 津 康 司(クロツ コウジ)

職 名 准教授

授業科目名 ・犯罪行動と心理 ・犯罪行動と心理演習 ・生活と安全 ・生活安全と生活経済
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 215人)

所属学会 ・警察政策学会 ・日本犯罪心理学会 ・日本刑事政策研究会

各種委員会 ・駅前キャンパス防災・防犯対策委員会 ・駅前キャンパス就職対策委員会
・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会

クラスアドバイザー 1年

オフィスアワー 有

I. 教 育

- 1 アクティブ・ラーニング上の試みとして、
(1)「犯罪行動と心理」(1年)及び「犯罪行動と心理演習」(2年)では、福島県警察学校を見学し、警察学校の役割と警察行政の実際について理解させた。また、警察学校副校長から福祉的刑事事件に関する警察の取り組み状況等についての特別講義を受け、福祉行政と警察行政との連携の重要性について理解を深めることができた。
(2)「生活と安全」(1年)では、“幼稚園・保育所における事故防止”をテーマに学生による事例研究を実施し、理解を深めさせた。
- 2 生活指導等に関しては、常時研究室への学生の訪問を受け付け、事件相談、進路相談、就職相談等に細かく応じている。

II. 研 究

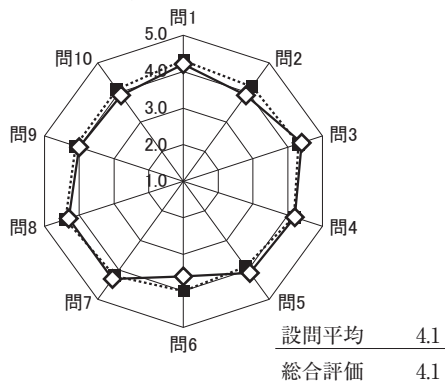
「高齢者犯罪と警察行政上の課題～増え続ける高齢者万引に警察はどう対応すべきか？」
(福島学院大学研究紀要第50集)

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「生活と安全」(選択/講義)
アンケート数：42

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「生活と安全」の総合評価4.1はこれまでになく低いですが、これは、後期の学生との意思の疎通が十分に取れなかったことが原因していると思われ、その理由も自分なりに理解しているので、謙虚に反省したい。また、「授業のスピードが早すぎてメモしきれない」等の意見は重要な意見であるので、要点を絞り込み、授業時間内におけるゆとりある説明を心がけたい。

福祉学部 福祉心理学科

渡部 敦子(ワタナベ アツコ)

職名 准教授

授業科目名 ・子どもの心理 ・青年の心理 ・教育相談 ・臨床心理学 ・コミュニケーション演習
・臨床心理学特論 ・臨床心理基礎実習Ⅱ ・臨床心理学特論Ⅱ ・臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ
(担当科目数 10科目、総履修者延人数 282人)

所属学会 ・日本心理学会 ・日本心理臨床学会 ・日本社会心理学会 ・日本家族心理学会

各種委員会 ・心理臨床相談センター運営委員会 ・衛生委員会 ・学生健康相談委員会

クラスアドバイザー 1年

オフィスアワー 有

I. 教 育

学習指導上の問題点としては、学力的に様々な水準にある学生がいるため、ある層に分かりやすい説明がまた別の層には簡単すぎあるいは難しすぎと受け取られる場合がある点が挙げられる。また、講義形式の授業においては、真面目な受講態度が多い一方、反応の乏しさも感じられた。前者の問題点については、基本的には全体のレベルの底上げを目指して分かりやすい説明を丁寧に行う方針で進め、より詳しく学びたい学生に対しては、目的に沿うであろう参考書を勧めることとした。後者の問題点については、講義において学生への問いかけを増やすことや、小テストとその対策を複数回説明することで、勉強への積極的な態度を促すことができた。

生活指導については、学年アドバイザーを担当している1年生について、少人数の演習形式の授業も

担当していたため、距離が近くなり話しやすい状況を作れたのではないかと思う。ただし授業もセミナーも担当していない学年に対しどのようにアプローチしていくかは今後の課題である。

II. 研 究

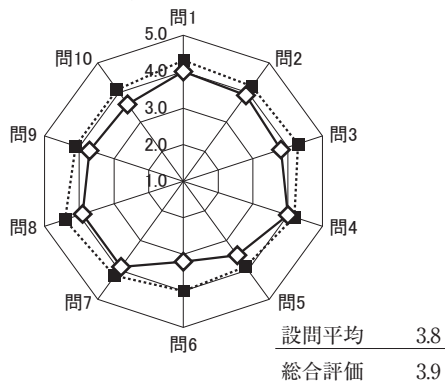
長く続けているテーマ「対人恐怖の喚起メカニズム」について、今年度はその喚起状況の分類を試みた研究について論文のかたちでまとめた。3月発行の心理教育相談センター紀要に掲載予定である。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心2年「臨床心理学」(選択/講義)
アンケート数：33

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

通年の講義科目「臨床心理学」に対するアンケートであった。自由記述をみると、意見は様々あるが、概ね「分かりやすかった」、「資料がまとめてあり勉強しやすかった」との記載があった。臨床心理学領域の基礎となる科目であるため、とにかく基本的な事項を理解し身につけてもらおうという考えで進めていたため、その目標は達成できているかと考える。しかし一方で、設問に対する評価はやや低めとなった。特に目立ったのが、「教員は授業の中で、発言や質問をするように促しましたか?」の項目である。確かに毎回毎回発言を促すような試みは行っておらず、それが結果的に知識の深まりや授業への積極性を促さなかったのかもしれない。もう少し双方向的という点を意識して来年度は進めていきたいと考える。また、「声が明瞭で聞き取りやすかったか」という項目も評価が低く、マイクの使用も検討している。

福祉学部 福祉心理学科

佐藤 佑 貴(サトウ ユウキ)

職 名 講 師

授業科目名 ・(大学院)臨床心理査定演習Ⅰ ・(大学院)臨床心理査定演習Ⅱ
・(大学院)臨床心理基礎実習Ⅰ ・(大学院)臨床心理基礎演習
・(大学院)発達障害児援助実習 ・(福祉学部)心理診断法 ・(食物栄養科)職場の人間関係
(担当科目数 7科目、総履修者延人数 77人)

所属学会 ・日本心理臨床学会 ・日本人間性心理学会 ・日本応用心理学会 ・日本心理学会

管理職名 大学院心理学研究科臨床心理学専攻 主任

各種委員会 ・学募推進委員会 ・就職対策委員会(駅前)

クラスアドバイザー 2年

クラブ・サークル ・ローターアクトクラブ ・バスケットボールクラブ

オフィシアワー 有

I. 教 育

学習指導上の問題点と教授法の工夫改善事項/大学院では、演習および実習科目を担当した。ほぼ個別指導に終始することができ、各学生の進捗と特性に合わせた指導ができたと考える。一方、修士論文指導(課題研究)は指導生1名が論文提出を見送る結果となった。研究指導については、教員のさらなるブラッシュアップが必要であると痛感した。

生活指導等の着眼点と努力点/福祉学部では2学年の学年アドバイザーを拝命し進路を見据える重要な学年を担当した。各学生への心配りをぬかりなくと心掛けていたが、2学年の授業担当はなかったこともあり、クラスセミナーに参加できていない学生とのコンタクトに苦労した。学生が気軽に研究室を訪問できるような雰囲気、関係性をつくるべく休み時間等に教員が積極的に出歩き顔を合わせるこ

重要と考える。

II. 研 究

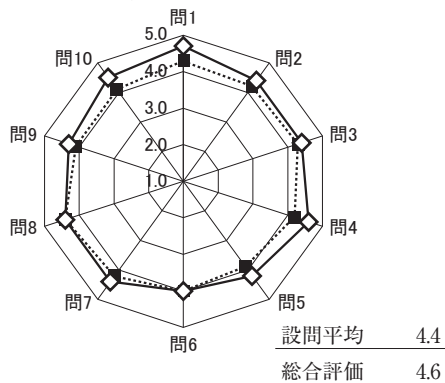
近年研究テーマとしている「臨床心理士養成校における大学院生の効果的なケースの引き継ぎに関する研究」について、第31回国際心理学会議(ICP2016, Yokohama)および日本応用心理学会第83回大会(札幌市立大学)にて発表およびシンポジウムを行った。今後これらの知見を論文化していく予定である。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：食栄2年「職場の人間関係」(選択/演習)
アンケート数：29

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

本職の近年の授業評価では「質問や発言を促したか」という設問に対する学生の評価が低くなる傾向があった。これに対し、当日のテーマについて話すような導入時に積極的に学生の考えを聞くことや、机間巡視において個別にコミュニケーションを取った。この点は、専任教員平均値より低くならなかったことで、一定の成果はみられたと考える。

福祉学部 福祉心理学科

木村 泰博(キムラ ヤスヒロ)

職 名 助 教

授業科目名 ・臨床心理実習 ・心理診断法 ・コミュニケーション演習 ・福祉キャリア研究
・教育相談

(担当科目数 5科目、総履修者延人数 175人)

所属学会 ・日本認知・行動療法学会 ・日本不安症学会

各種委員会 ・大学院臨床心理学専攻会議 ・福祉心理学科科内会議 ・学生健康相談委員会
・心理臨床相談センター運営委員会

クラスアドバイザー 1年

クラブ・サークル 陸上クラブ

オフィスアワー 有

I. 教 育

学習指導については、学生が授業内で理解できるように努めたものの、反対に授業外学習の時間を確保が課題である。これらのバランスについては次年度に向けて試験的に試みていきたい。

生活指導については、1年生の学年アドバイザーとして学生生活に慣れることを重視した。そこでこちらから積極的に声をかけたり、研究室来室を推奨した。ただし、環境面の制約やシステム上の課題などもあり、次年度に向けて提案していきたい。

II. 研 究

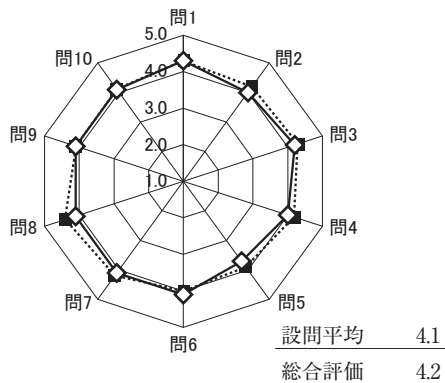
研究テーマである認知行動療法については、精神科以外の医療領域における認知行動療法を用いた心理的支援の可能性について先行資料および症例を元に整理を行った。現状、医療領域における認知行動療法の活用は精神科領域を主な対象としていることが多いものの、精神科以外の分野においても認知行動療法を用いた心理的支援を修得した心理士は患者、他スタッフに対して有用な存在となる可能性が示唆された。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「教育相談」(資格必修/演習)
アンケート数：35

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

授業に関する学生評価は総合評価4.2と概ね学生が満足できる授業を実施できたのではないかと考える。また、専任教員平均と比較しても差は認められなかった。

これらのことから、次年度についても今年度の授業内容を継続して行っていく予定である。しかしながら、自由意見の中に授業導入回にあらかじめ説明してあるはずの意見が見られたため、次年度は特に授業方針の説明に十分な時間を割きたいと考えている。

福祉学部 こども学科

田 辺 稔(タナベ ミノル)

職 名 教授

授業科目名 ・教育心理学(保育科) ・教育心理学(こども学科) ・人格心理学(福祉心理学科)
・教育心理学特論(大学院)
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 165人)

所属学会 ・日本社会心理学会 ・日本応用心理学会 ・日本カウンセリング学会

管理職名 福祉学部学部長、こども学科学科長

各種委員会 ・学募推進委員会 ・研究紀要編集委員会 ・研究業績審査委員会
・入試広報戦略検討委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

教育心理学を基点に心理学全体にも興味関心を持てるよう心掛け授業を展開してきた。これは教育場面への心理学の応用と言う教育心理学本来の目的にも合致すると言うとらえ方であった。結果学生の意見にも「心理学に興味を持てた」と言った一定の成果が得られたと思われる。また過年度同様プレゼンテーションソフト(PP)を活用した授業方法の展開と教材提供を展開している。学生にとって未だ新鮮に映るとの感想を得ており、分かりやすい授業展開を目指す工夫改善という観点からも「見やすく分かりやすい」「まとめやすい」など一定のこれらも成果が得られたと思われる。

II. 研 究

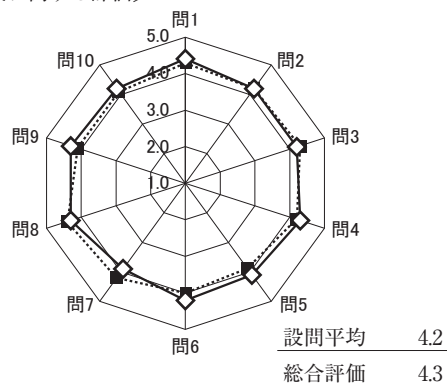
今年度は、「学習過程の理解」をテーマに「過程理解の変遷」を取り上げた。これは、担当する教育心理学が教職課程における「教育の基礎理論に関する科目」の必修であり、同科目の指導領域に「学習過程の理解」が指定されていることにも関連している。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「教育心理学」(資格必修/演習)
アンケート数：32

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

設問平均では全体平均と同数値、総合評価では0.1ポイントと極めて若干ではあるが全体平均を上回る評価数値を頂戴した。「難しい内容だったが分かりやすい」や「良かった・とても満足」や「心理学」に興味を湧いたとする受講生が多く、率直に嬉しい感想である。日常的な行動を心理学的な側面から理解する事に学生は特に興味を覚えたようである。

福祉学部 こども学科

板垣 健太郎(イタガキ ケンタロウ)

職 名 教授

授業科目名 ・発達障害児心理学特論 ・発達障害児心理学演習 ・発達障害児援助実習
・自由研究Ⅰ ・課題研究Ⅰ ・課題研究Ⅱ ・社会的養護内容 ・障害児への心理援助
・障害者への心理援助 ・障害児保育
(担当科目数 10科目、総履修者延人数 242人)

所属学会 ・日本認知行動療法学会 ・日本心理臨床学会 ・幼児教育実践学会

各種委員会 ・大学院教員資格審査委員会 ・研究業績審査委員会 ・こども学科・保育科小委員会
・苦情相談審査委員会 ・心理臨床相談センター運営委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

講義科目では、試験の内容を暗記で対応できるものと一定の理解がないと答えられないものとするを明示し、学生それぞれが自分の能力に応じて達成目標を設定できように試みた。暗記に偏った学習から脱する一つの現実的な方法になりそうである。

演習科目では、感じ、考えることが苦手な学生が圧倒的に多いことを実感している。「答えがあるなら早く教えてください」と言われたことがあり、びっくりするしかなかった。自ら考える時間の重要性を強調していきたい。

大学院の臨床実習では、対人援助職への適性について自己を分析する事の重要性を強調するべきと考えている。知識・技能以上に資質や能力に関する問題に真摯に取り組んでいきたい。

こども心理専攻では、修士論文の指導に力を注い

だ。現役の教諭や保育士を対象とした本専攻では修論指導の時間的な確保の難しさを強く感じながらの指導となった。指導に携わった院生が修論を仕上げ、学位を取得できたのは指導教員として望外の喜びである。

II. 研 究

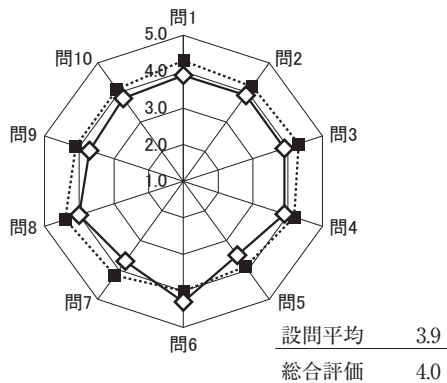
研究に関しては、論文としての成果は示せなかった。本年度は新しい学科所属となり、前年までとは異なる新しい課題を抱えた。このような目の前の課題をもとに論文を書くのが私の方法であるが、次年度は論文としての成果を示したい。具体的には、保育者養成校の養成カリキュラムが本質的に抱える問題点とそれへのあるべき対応について検討したい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「障害児保育」(必修/講義)
アンケート数：37

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

通年の演習科目である、前半は講義の要素を強くし、後半では事例を通して考える演習の要素を強くした。

問6「発言や意見の促し」を除く全項目が平均をやや下回る評価であった。履修者の価値観や常識を強く揺さぶる意図があったので、良くも悪くも極端な評価を期待していたが、残念である。いろいろな意見が聞けて良かった、事例を通して学ぶのは良かった、といったコメントが多くみられるのは嬉しいことではあるが、それと授業の評価が対応していないように感じるが、それはどういうことだろうか。

少数ではあるが、否定的な意見や戸惑いなどを示す意見もあった。一義的な結論を求める傾向の強い学生には、多義的な考えにはいら立ちがあったのではないかと想像する。

観念的な学習に陥らないようにという基本姿勢は変えず、感じ考えながら進める授業を学生と共に築いていきたい。

福祉学部 こども学科

ミハウ ソブコヴィアク

職 名 教 授

授業科目名 ・ピアノ演習

(担当科目数 1科目、総履修者延人数 47人)

オフィスアワー 有

I. 教 育

If thinking about potential problems I deal while teaching the first, on that comes into my mind is the time factor. I wish my lessons took a bit longer for each student. I do realize that I don't teach at a music college, but still, around 10 minutes for each person seems to be far too little.

The other problem I wish I could solve is how to motivate my students to practice more. All I can do within those 10 minutes lessons is only to give hints, the rest, as improvement is concerned, belongs to students themselves, who let's be honest, do not pay enough attention to the piano once the lesson finishes.

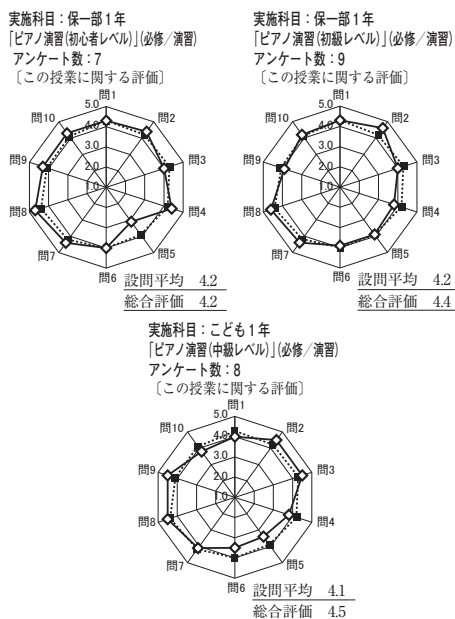
II. 研 究

As every year I was occupied with giving concerts, enlarging my piano repertoire. What changed, compared to previous years, is that I had a wonderful opportunity to release a new album, "Jazz Loves Chopin". It took my few months of intensive work over it. Luckily the outcome was really good, the CD gained number one on top 100 within prestigious e-onkyo rating.

I also got a chance to act as a pianist in a cinema movie, "羊と鋼の森", coming out next year. This gave me a chance to express myself not only through the music, but also through gestures, face mimic, etc. Very good chance for studying myself, getting to know my own limits.

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

Seems like students were really happy about getting me lessons. Sure, majority of them regrets not having contributed enough as their own efforts are concerned. In many cases this caused a feeling of a shame towards meeting me in the classroom, but even than I was doing my best not to show any sort of a frustration. Once they felt it this could have made things turn only into worse...

福祉学部 こども学科

古畑雅規(フルハタ マサノリ)

職名 教授

授業科目名 ・図画工作 ・美術演習
(担当科目数 2科目、総履修者延人数 65人)

所属学会 ・美術科教育学会

オフィスアワー 有

I. 教 育

学生たちの多くは、美術作品を制作するという事は、ピカソのように感覚や感性だけの世界で行われていると思っている。しかしそれは、制作するための技法や考え方をある程度知って実践できた者が、あえてその技法、知識を無視して制作する世界のことである。この根本的な考えを変えさせ、まずは絵が上手い下手以前の、現代の画材や材料を知り、才能とは無関係な基礎となる技法や表現力を身に付ける必要がある。それを1年という短い期間でできるだけ理解させられるよう努力してきた。

II. 研 究

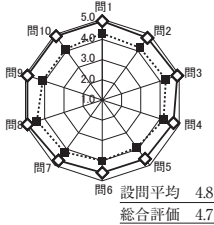
現代に受け入れられる美術作品(油彩画、粘土造形などの立体)とはどんなものなのか？ を原点に自分なりの答えを探りながら、ほぼ毎日制作している。昨年までは作品数を年間100点を目標としていたが、今年度は量より質を追求し、また大作の数を増やしてきた。

美術作品には年々変化する流行みたいなのがある。それは画材やさまざまな材料が進化しているのと、個々の精神面での知的な感覚が向上しているからでもある。現在、油彩画などの平面作品、粘土アートやオブジェなどの立体作品、どれに関してもいろんな情報を取り入れて、それを理解したうえで制作に取り組んでいる。今回は66点の制作ができた。来年度はもっと油彩画に力を入れたい。

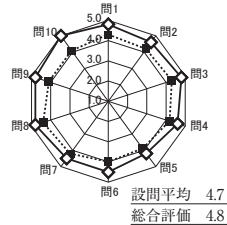
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

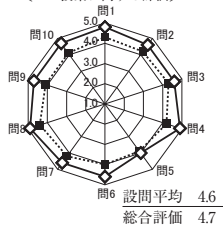
実施科目：こども1年
[美術演習](選択/演習)
アンケート数：10
(この授業に関する評価)



実施科目：こども1年
[図画工作(A)](必修/演習)
アンケート数：11
(この授業に関する評価)



実施科目：こども1年
[図画工作(B)](必修/演習)
アンケート数：10
(この授業に関する評価)



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

もともと美術作品を制作するのが苦手だという学生が多かったが、授業を行うごとに楽しく制作できるようになった、頑張って制作できた、という学生が多かった。特に、美術は苦手意識が強かったが今は好きになった、という学生がいて今後も更にこのような意見が出るような授業を展開したい。

福祉学部 こども学科

伊藤俊彦(イトウ トシヒコ)

職名 教授

授業科目名 ・音楽(こども学科) ・幼児音楽Ⅱ(保育科第一部) ・幼児音楽(保育科第二部)

・器楽演習(こども学科)

(担当科目数 4科目(今年度の「器楽演習」は受講生なし)、総履修者延人数 71人)

所属学会 ・日本音楽教育学会

管理職名 子育て支援センター長

各種委員会 ・子育て支援センター運営委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

授業内容が「演習」であることから、毎回の授業では手話ソングをはじめ、季節の歌、幼児音楽、弾き歌い、手作り楽器の製作と表現、手遊び等を中心に指導している。この中で問題点は、自宅にピアノがないこと、アルバイトやクラブ活動等で殆ど予習・復習が難しい点である。そのため、出来る限り授業のはじめに、復習の時間を取っていくようにした。また、人前で歌ったり演奏したりすることが苦手な学生がいることから、グループでの表現活動を多く取るように工夫改善をしている。また、同じクラスでも仲良しグループが固定していることや中々友達がつくれぬ学生がいるため、グループ内では互いに尊重し、グループ活動で発表の場を多く取り、誰とでも仲良く学習できる雰囲気作りに努力している。

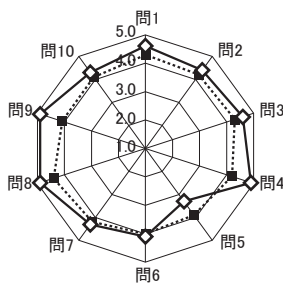
II. 研 究

今年度も「アクティブ・ラーニングの手法を積極的に取り入れた授業展開の工夫」に取り組んだ。授業では、学生同士の話し合いやアンサンブル活動、グループでの発表を確実に実施した。当初グループでの活動や発表することによりかなり抵抗があったようだが、回を重ねるたびに、グループ活動も発表もスムーズに進めることができた。さらに、後期の授業では、かなり自信をもって話し合いや発表ができるようになってきた。課題としては、グループのメンバー一人一人がしっかりと意見や意見を述べたり発表できたりすることを目指すための指導の在り方を研究することである。

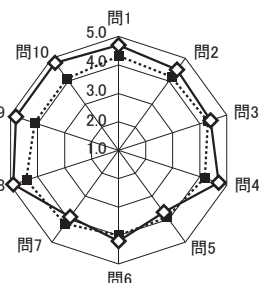
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年
「幼児音楽Ⅱ」(選択/演習)
アンケート数：9
〔この授業に関する評価〕



実施科目：こども1年
「音楽」(必修/演習)
アンケート数：18
〔この授業に関する評価〕



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

この授業に関する学生の総合評価は、4.6で概ね良好であったと受け止めている。ただ、問5(授業時間外の予習・復習についての範囲が明示されていない)の評価が良くないので、次年度にその改善を図りたい。(授業の終わりに必ず明示するようノートに赤字で記しておく)授業では、楽しい授業、感動のある授業を心掛けていたので、それが学生にうまく伝わっているようで嬉しかった。手話ソングや手作り楽器の製作と発表会は大変好評なので、来年度も自信をもって継続指導をしていきたい。

福祉学部 こども学科

佐藤 理(サトウ オサム)

職 名 教授

授業科目名 ・子どもの保健Ⅰ ・保育内容指導法「健康」
(担当科目数 2科目、総履修者延人数 142人)

所属学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本学校保健学会 ・教育保健学会
オフィスアワー 有

I. 教 育

1. 講義では基本的な知識の獲得とともに筋道立てて考える能力育成を主眼とした。講義内容を意識的に聞き取り「講義ノート」としてまとめる作業を重視し取り組ませた。講義の進行はシラバスを基本としつつも、学生の学習状況をみながら講義内容の精選と進度を調整し展開した。
2. クラスは“学びの共同体”であるとし、考えあう課題を設定しグループワークを行わせた。またクラス全体の学習成果をあげる点および学習規律も社会人となるための基本的な重要事項として学生受講規程第2条を説明し、厳格に運用した。

II. 研 究

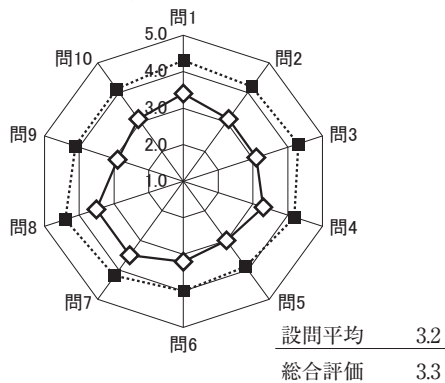
科学研究費助成事業研究「事故後の福島におけるマスメディア報道による健康不安への影響の検証とその対策」の研究分担者として、福島県民を対象に質問紙調査「健康と情報についての調査」を実施した。現在、健康不安と知識ならびにヘルスリテラーを中心に結果の集計と論文化の作業を進めている。成果の一部は29年度中に公表予定である。低線量放射線被ばくによる健康影響不安の軽減ならびに解消に有効なアプローチを探るため、不安に影響する各種要因との関係の研究を進めた。研究結果は「福島県保健衛生雑誌第29巻」(平成29年3月)に掲載される。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「保育内容指導法 健康」(必修/演習)
アンケート数：40

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

教員側の意図と学生の意識との乖離が大きい。引き続き学生のニーズを丁寧に把握することから講義内容と方法の改善につなげたい。

福祉学部 こども学科

渡 辺 博 志(ワタナベ ヒロシ)

職 名 教 授

授業科目名 ・保育・教育課程論 ・教育原理 ・教育行政
(担当科目数 3科目、総履修者延人数 281人)

所属学会 ・日本カリキュラム学会 ・福島国語学会

各種委員会 ・子育て支援センター

オフィスアワー 有

I. 教 育

○学習指導上の問題点と教授法の工夫改善

担当授業では、講義内容が広範囲にわたるので、量と質のバランスとともに学生に「学びの道筋」を意識させることが大事である。本年度の方針として、「学びの予告編」を重視し、予習課題や次週の授業内容を示しミニレポートを作成して授業に臨むよう授業構成を工夫した。いわば、簡易な反転授業の試みである。関連するサポートとしては、授業の振り返り記述やレポートの添削が不可欠である。学生へのコメントを重視し、努力している点や着想のよさ、その学生の教育観、保育観などについて丁寧に論評した。自由記述から学生の学ぶ意欲につながる効果もあったと思われる。

○生活指導等の着眼点と努力点

アルバイトなどの疲れにより、生活リズムがうまく働かずに集中力が持続しない学生が散見できる。一度授業に乗り遅れると意欲が途切れる学生もいる。「授業のナビゲーション」によって導入時に授業情報を示すとともに、授業テーマや授業過程を視覚的に「見える化」して「学びの位置や方法」を随時知らせながら進めている。また、キーワードを重視し、授業情報として板書で明示するなどの工夫を重ね、授業の振り返りに生かすことができるようにしている。「『キーワード』をつないで考えよう」を授業取り組みスローガンとしているので、学び方の一方法として定着してきている。

II. 研 究

○非認知能力の育成と子どもの豊かな成長

学習指導の中心は「認知能力」にあり、学習する力(理解、判断、想像、記憶、言語理解などの知的機能)に集中している。この能力を調査するPISAテストの結果が、我が国の学習指導要領に与えた影響も大きい。一方、最近の幼児教育では、幼児教育と学校教育をつなぐ力として幼児期の「非認知能力」に注目が集まっている。これは、認知能力(学力)を支えている非認知能力(忍耐力、自己抑制、目標への情熱、計画力、計画性、自信など)の数値化できない側面が明らかになってきたからである。

そこで、幼児教育の中心的な「教育内容・遊び」の中で、非認知能力がどのように育成されようとしているのかを、現行幼稚園教育要領の内容と結びつけて分析した。この研究分析は、担当している保育・教育課程論の中の保育指導案作成に意欲と関係性を育てる「視点」として活用することができた。この分析は、改訂幼稚園教育要領に取り上げられた「幼児期に育みたい10の視点」と共通点が多いことも確認できている。

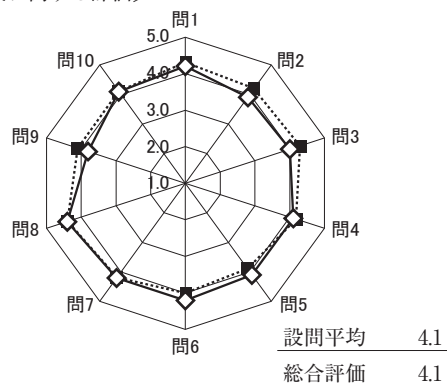
なおこの研究は、郡山市教育委員会主催の幼児教育研究会(8/26)で講演し、福島リビング誌(9/26)に掲載された。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「教育行政」(資格必修/講義)
アンケート数：31

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「教育行政」で学生の総合評価で4.1を得た。授業では、昨年度に引き続き研究の一環として「アクティブラーニング」の方法論を取り入れた。特に「クリッカー問題」による前時授業の振り返りについては問題を一新して取り組んだ結果、本時講義テーマのスムーズな把握やキーワード理解につながることができた。また、主体的で深まりある授業を形成するために「討論の時間」を多く取り入れたが、学生同士の多様な考えが新たな発見に結びついて、授業テーマの追究が理解の深化や自信につながったとの自由意見も多かった。また、本学の学生の課題の一つである「記述力」の育成については、「学びの着地点」による授業の振り返りとミニレポートを関連させるなど「書く活動」を毎時間取り入れ、論理的な文章を書く力の向上には大きな効果があった。280名に対する毎時間のコメント記述は量的にも質的にも重量級の仕事であるが、理解不足内容についての補足や授業修正に直結していて授業運営上欠かせない。分かりやすい授業構成の追究と学生のサポートを結び付け、さらに「授業の質」向上に努めていきたい。

福祉学部 こども学科

鈴木 美樹(スズキ ミキ)

職 名 講 師

授業科目名 ・保育内容指導法 表現Ⅰ ・図画工作 ・美術演習～造形を楽しむ

・保育内容指導法 表現

(担当科目数 4科目、総履修者延人数 121人)

所属学会 ・美術科教育学会 ・全国大学造形美術教育教員養成協議会

管理職名 こども学科学生主任

各種委員会 ・学生指導委員会 ・教員養成カリキュラム委員会 ・学募推進委員会

・就職対策委員会 ・こども学科授業改善委員会 ・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会

・学生間における差別とハラスメント対策委員会

クラスアドバイザー 2年

オフィスマワー 有

I. 教 育

問題点として特に力を入れたのは、提出期限の厳守である。長期的な作業計画を示しつつ、毎回進行状況の注意をしたが、期限に遅れる者や未提出者がいた。今後も提出期限について厳しく臨みたい。教授法の工夫については、各学科学生の特性に合わせて対応し、学生の意欲やレベルに合うような助言をし、やり逃げられるよう根気強く指導した。その結果、美術が好きになり、楽しく学べたとの感想があった。生活指導上の着眼点としては、常に保育者や社会人となることを前提にした指導を行った。クラスアドバイザーとしては、年2回の個別面談を行い、学生生活や進路についての相談に助言をした。学生主任として学科学友会の活動を支援した。

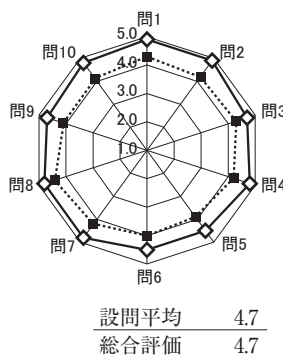
II. 研 究

- ①福島現代美術ビエンナーレ2016 indication重陽の芸術祭が二本松市で開催され、出品を依頼された。国内外のアーティストによる最先端の多彩な芸術を紹介するとともに、シンポジウムや講演会等を通して、多くの人々が交流する場として設けられている。メディア等でも取り上げられ、約11万人の来場者があった。出品作は「菊理媛命」という題名で、日本の神話世界を題材にし、50号F(116.7cm×91.0cm)に紙本着彩で制作。同市出身で日本画壇(日展)の重鎮である大山忠作氏の美術館に展示された。
- ②美術教育の権威である宮脇理氏の88歳米寿記念図書出版から『アートエデュケーション思考』が9月に発行された。「感性を豊かにする美術教育」という内容で執筆した。

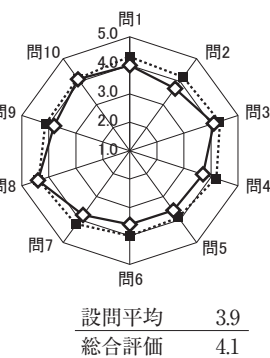
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年
「図画工作」(必修/演習)
アンケート数：24
〔この授業に関する評価〕



実施科目：こども2年
「保育内容指導法 表現Ⅰ」(必修/演習)
アンケート数：23
〔この授業に関する評価〕



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

こども学科2年の「保育内容指導法 表現Ⅰ」と、保育科1年の「図画工作」で行ったが、科目や学年、学科の気質の違いが現れたようである。図画工作は「わかりやすく、楽しく進められ、勉強になった」との感想が多く、「表現Ⅰ」では「表現の幅が広がり、技法を学べた」とどちらも内容に関しては肯定的に捉えられていた。ただ、共通する意見の中に「製作の時間が少し不足していた」というものが数件あった。保育の現場では、時間をかけて製作することが難しく、スピードも重要である。次年度はその点を理解させながら、限られた時間内に最大の効果が得られるような工夫が必要なことを伝えたい。「表現Ⅰ」はこども学科で初めて行ったため、今後さらにわかりやすい内容になるよう努力したい。評価が他より低かった「予習・復習の範囲」もさらに明確に伝えたい。今後も資料や参考作品を提示して理解を深められるようにし、将来の専門性に役立つ内容を目指したい。

福祉学部 こども学科

島田 貴広(シマダ タカヒロ)

職 名 講 師

授業科目名 ・体育 ・体育講義 ・バレーボールⅠ ・バドミントンⅠ ・バスケットボールⅠ
・乗馬Ⅰ

(担当科目数 6 科目、総履修者延人数 264人)

所属学会 ・日本体育学会 ・日本スポーツ運動学会 ・日本コーチング学会 ・日本バレーボール学会

管理職名 こども学科教務担当主任(保育科第一部兼任)

各種委員会 ・自己点検・評価委員会 ・学募推進委員会 ・教員養成カリキュラム及び教職指導委員会

クラブ・サークル バレーボールクラブ、フットサルクラブ

オフィスアワー 有

I. 教 育

こども学科専門科目「体育」では、「幼児期運動指針」や「幼児期からのアクティブチャイルドプログラム」など、幼児期の運動課題についてのガイドラインを理解することと、運動指導の実践力養成を主題として授業づくりを進めてきた。知識や指導理論の学びにおいて問題は特になかった。しかしながら、体力や運動技能という点においては、学生たちがすべての達成課題をクリアできたわけではないので、技能習得や体力向上を図るための工夫が必要と感じた。特に運動技能の習得には時間が必要なので、学生に対しては授業時間外に必要な学習内容と課題について丁寧に示すことにしたい。

II. 研 究

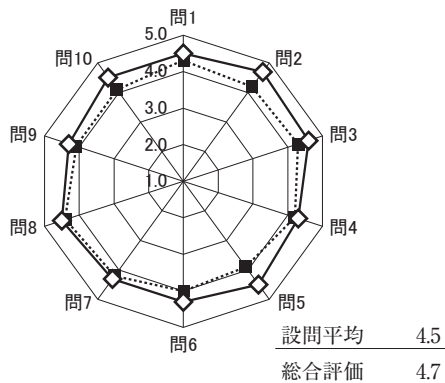
スポーツ運動学分野での研究では「運動モルフォロジーにおける幼児の運動を対象とした分析方法の検討」(福島学院大学研究紀要Vol.49, pp.49-56,H27.2)を皮切りに、「幼児の体育・スポーツ指導に向けた運動モルフォロジー ～子どもの運動を見抜く力とは～」(教育・保育論集 Vol.20 pp.33-43,H27.7)と子どもの運動に関する研究を継続中である。現在は、28年度から新たに担当している科目「体育」の教材やアクティブラーニングの導入に関する教育方法の研究にとりかかっている。29年度中には研究資料をとりまとめる計画である。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「バレーボールⅠ」(必修/体育実技)
アンケート数：33

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

今年度は「バレーボールⅠ」でのアンケートを実施した。授業に対する評価はすべての項目で良好な結果だった。

自由意見では「他学科、他クラスの学生と交流ができて良かった。」「楽しく、良い雰囲気です授業を受けられた。」などの意見が多数見られた。運動習慣の定着、生涯スポーツの実践力養成を教育目標としているので、スポーツ・運動の楽しさや喜びを味わうことは重要な課題であり、概ねそれは達成されたと感じている。また、この授業では、チームビルディングやチームワークの学習を一つのねらいとしているため、良い雰囲気作りへの取り組みやコミュニケーションの活性化を課題としている。このクラスについてはその課題が達成されたものと分析している。

福祉学部 こども学科

今 清 孝(コン キヨタカ)

職 名 講 師

授業科目名 ・児童家庭福祉 ・保育相談支援 ・保育実習Ⅲ ・保育実習指導Ⅲ ・保育実習指導Ⅰ
(担当科目数 5 科目、総履修者延人数 341人)

所属学会 ・日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本家族研究・家族療法学会 ・日本保育学会
各種委員会 ・教育・保育実習指導委員会 ・就職対策委員会(宮代キャンパス)
・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会

クラスアドバイザー 1年

クラブ・サークル YOSAKOIクラブ 月下舞流

オフィシアワー 有

I. 教 育

今年度から取り入れた、授業配付資料への書き込み欄を多く設けることについて、授業への参加意識を向上させることができたと考えます。児童家庭福祉の落第者が多数出た件については、欠席、遅刻による減点によるもので、欠席、遅刻がなければほとんどの学生は合格できていた。保育者になるために本学で学んでいることをより強く意識させるよう授業内での工夫をする。

II. 研 究

「保育相談支援」についてのアンケート調査を、本学特別研究交付金により実施し、無事完了できた。本調査から得られた結果をまとめ、本学紀要にも投稿した。この調査結果及び調査行為から得られた内容をもとに、特に福島県北の保育園、幼稚園等への

智の還元のための活動に結び付けていきたい。

III. そ の 他

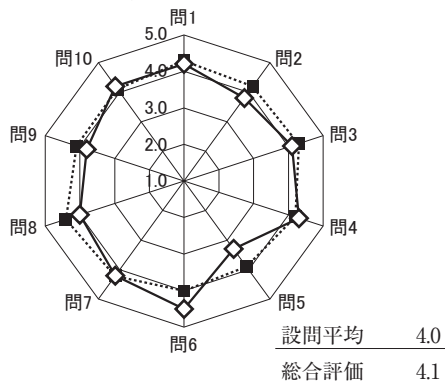
今年度は、本学の特別研究交付金をいただき、調査研究ができたことに大変感謝している。福島であるからこそ、やらねばならない研究があると考えますが、福島県の学術教育振興財団では、残念ながら今回の調査研究が採択されなかった。こうした研究を、これからも本学の知見の積み上げのために、特別研究として推奨していただければ大変ありがたいことである。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「保育相談支援」(資格必修/演習)
アンケート数：38

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

おおむね良好な評価を得られたと考える。出席確認について、クラス委員等に指示してやらせたが、これを次年度以降、保育者としての職務理解につながるため、あらかじめ次回出席確認者を指名し担当させることとする。また、クラス委員が出席を確認することに、正確かどうかの不安があるとの意見があるが、毎時間、学生本人が確認できるように配慮しているが、理解していない学生がいることを残念に思う。次年度は、確認できることをもっとアナウンスすることとする。

保 育 科 第 一 部

田 上 貞一郎(タガミ テイイチロウ)

職 名 教 授

授業科目名 ・国語表現 ・保育内容指導法・言葉 ・書写演習
(担当科目数 3科目、総履修者延人数 307人)

所属学会 ・日本保育学会 ・全国大学国語教育学会

オフィスアワー 有

I. 教 育

「国語表現」では、各種の実習、将来的には保育者として困らない国語力の養成に徹した。授業の成果をチェックするために10回のワークシートの提出など細やかな指導に心がけた。さらに、就職試験に関する対策も取り入れるなど実践的な展開をした。

「保育内容指導法 言葉」では、子どもの言葉の発達を中心に、早期の文字指導についての考察などを行った。

「書写演習」では、美文字を目指して実践的な授業を行った。

II. 研 究

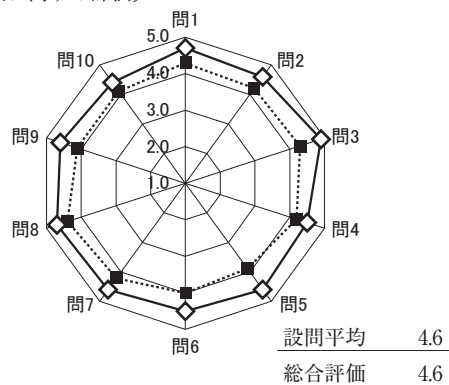
初めて「書写演習」を担当したので、クセ字の学生をどうやって美文字に導くかについて研究した。これについては今後も継続したい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「国語表現」(必修/講義)
アンケート数：43

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

例年同様、保育者にとって実習日誌、連絡帳など手書きは不可欠なので「字を丁寧に書く」ように指導したが、この点を「努力した」という所見が多かった。「就職に役立つ」もこの科目の目標で、その力を養うために10回ほどの提出物を課したが「期限を守るように努力した」という所見が多く見られた。私語のない静かな授業にも心がけたが、学生は「集中できた」「真剣に聞いた」との所見を示している。実例や体験談を豊富に取り入れたので「とてもためになった」との感想が多かった。

保 育 科 第 一 部

佐 藤 敦 子(サトウ アツコ)

職 名 教 授

授業科目名 ・幼児音楽 ・ピアノ演習 ・音楽療法 ・バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流
・音楽演習(ハンドベル) ・音楽演習(外部団体)
(担当科目数 6 科目、総履修者延人数 150人)

所属学会 ・日本音楽教育学会 ・日本音楽療法学会 ・日本保育学会 ・日本全国大学音楽学会

管理職名 専攻科保育専攻第二部長、認定こども園園長

各種委員会 ・学生募集委員会 ・図書館情報センター委員会 ・FD・SD委員会
・研究業績審査委員会 他

クラブ・サークル ハンドベルクラブ

オフィスアワー 有

I. 教 育

保育者養成校の音楽に関する授業として力を入れた。幼児音楽やピアノ演習は基礎音楽の観点から、また保育現場に即した教育法を前面に取り入れた。

II. 研 究

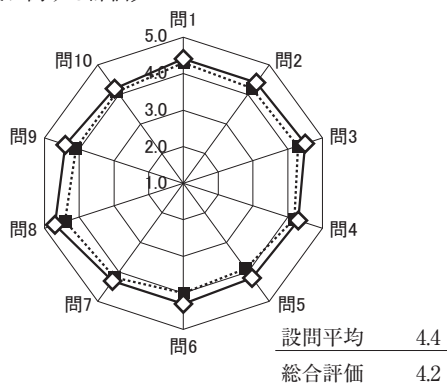
保育者養成校での音楽教育と、現在多くなっている問題行動を起こす子どもに対する、音楽療法にも力を注いだ。保育現場で即実践として使用できるもの、また基礎音楽という観点からの両方をバランス良く取り入れた。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「幼児音楽」(必修/演習)
アンケート数：46

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

ほぼ全員の学生が、保育者になるうえで有意義な授業だったと述べているが、評価点は低かった。内容をよく読んでみると、他で例えばピアノ授業で注意したことがあり、学生は科目ごとに評価しているのではなく、他科目と混同して答えているようである。また、次回の授業の予習や予告、宿題が明確でなかったという項目を挙げているので次年度は明確にしたい。

保育科第一部

小関 賢(コセキ ケン)

職 名 教授

授業科目名 ・発達心理学 ・臨床心理学 ・臨床心理学Ⅱ ・教育心理学
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 190人)

所属学会 ・心理学会 ・教育心理学会 ・応用心理学会 ・保育学会

オフィスアワー 有

I. 教 育

学習指導上の問題点と教授法の工夫改善事項：授業の初期には比較的授業の予習・復習を実践しているようであるが、授業に慣れるにしたがって、自発的に積極的に学ぶ姿勢が薄れていく学生が若干みられる。そこで積極的な学習活動を維持するために、授業開始時にミニテストを実施している(遅刻を防止するために授業開始時に実施し、これによって出席を確認している)。ミニテストは、前回の授業内容から穴埋め問題を十数問出題し、制限時間は10分である(全員が書き終えた場合はその時点で回収するようにしている)。回収した答えは採点をして、翌週返却するようにしている。そして返却する答えには、当該の得点(素点)とこれまでの累積得点(これまでの合計得点)を表示した。この理由は以下の2点である。第1は、現在までの本人の「努力度」が確認で

きるようにすることである。第2は、欠席すると累積得点が停滞するので、自己の成績(得点)が伸びない(加点されない)ことが認識できることである。

生活指導等の着眼点と努力点：クラスアドバイザーやクラブ・サークル指導をしていないので、学生と直接接する機会は授業のみである。授業の中でのやりとりをとおして、学生の考え方や意見を尊重し、できるだけ「自信」をもって学習できるように心がけている。

II. 研 究

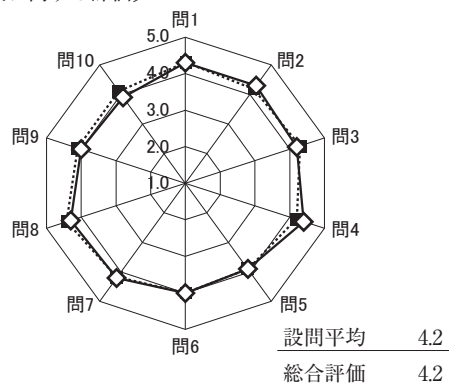
学生のアンケートをとおして、大学生としての学習状況や受講態度や授業の理解度などを長年の研究テーマとしてきた。しかし、昨年度から研究を目的とした学生に対するアンケートが実施不可能となったので、現在、新しい研究テーマを検討中である。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「発達心理学」(必修/講義)
アンケート数：46

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

総合評価および設問平均が専任教員全体平均と同じ値(以下平均値)だった。またほとんどの項目も平均値に近かったことから、他の教員とほぼ同じような評価を受けていたといえるが、ここでは平均値以下になった項目について言及する。問3の「知識の深まり」については、基礎知識の習得を中心にしていたので若干低くなったものと思われる。基礎知識を幅広く習得させようとする、知識の深まりは浅くなる。どちらかに焦点を置くのが難しい課題である。問5の「予習・復習の範囲の明示」では、復習の明示はしていたが予習の明示は不十分であったのかもしれない。問6の「質問や発言の促し」は、席順で学生に質問・発言を促していたつもりであるが、全体に対する配慮が不足していたのかもしれない。今後の課題となる。問10の「言葉の明瞭性と聞き取りやすさ」については、十分に配慮していたつもりであった。しかし広い教室の中では、遠くにいる学生にとっては不十分だったのかもしれない。改善すべき点である。

保 育 科 第 一 部

渡 辺 雅 子(ワタナベ マサコ)

職 名 教 授

授業科目名 ・生活教養
(担当科目数 1 科目、総履修者延人数 150人)

所属学会 ・日本保育学会

管理職名 保育科長、保育科第二部長

各種委員会 ・運営委員会(大学・短大) ・運営委員会(認定こども園) ・個人情報保護対策委員会
・東日本大震災授業料減免審査委員会 ・教員養成カリキュラム及び教職指導委員会
・自己点検・評価委員会 ・FD・SD委員会 ・学募推進委員会
・図書館情報センター委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

◇学習指導上の問題点と教授法の工夫改善事項

- ①学外授業を通して実践的な授業を行った。
- ②学外実習や就職活動時のマナーの事例研究を行い、授業を展開した。
- ③スライド、演習、映像資料も多様に取り入れた。
- ④教育効果を図るため小テストを行い、返却の際、適切な評価、コメントを付すように努めた。

◇生活指導等の着眼点と努力点

学科・学年・クラスに関係なく、履修、実習などの相談に、可能な限り時間をさいて対応した。特に、成績不振者への履修指導は、教務担当主任と共に個別指導を実施した。

II. 研 究

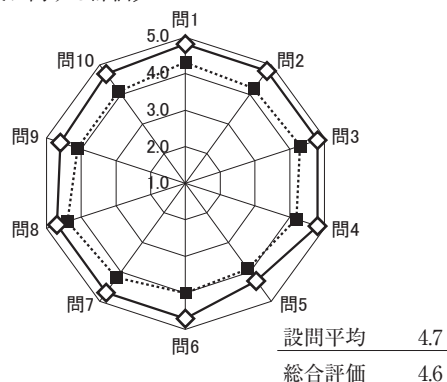
「本学学生のマナー教育のあり方について」を研究テーマとした。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「生活教養」(必修/講義)
アンケート数：43

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

学生の記入した主な内容は次の通りである。

- ・社会に出て役立つマナーを学ぶことができた。
- ・資料、映像など、分かりやすい内容であった。
- ・体験を通して学ぶことができた。
- ・日本の伝統文化を学び知識を深めることができた。

マナーの大切さや日本の伝統文化を学ぶことは、学生たちも重要視し、関心を持って授業に取り組んだようである。また、学外授業は、西洋料理のテーブルマナーを実践的に学ぶ機会となった。今後においても、学生のマナー向上を目指し、授業内容を工夫していく。

保育科 第一部

石田 敏和(イシダ トシカズ)

職 名 准教授
授業科目名 ・ 図画工作 ・ 育内容指導法 表現(造形)
(担当科目数 2科目、総履修者延人数 162人)
所属学会 ・ 美術科教育学会 ・ 日本保育学会
各種委員会 ・ 就職対策委員会
クラスアドバイザー 1年Aクラス
オフィスアワー 有

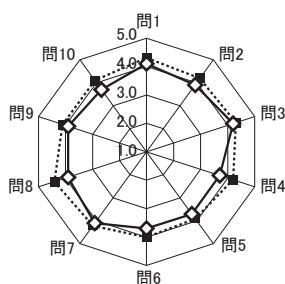
I. 教 育

ありきたりの表現にならないように、美しいとはどういうことなのかを、キャンパスの自然を観察し、新しい視点でものを見るように指導した。アイデアの出し方を様々な例を挙げて考えさせるよう授業を行った。また、就職対策委員として学生の就職活動の方法、支援を行った。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

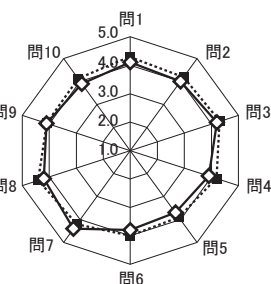
1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年
「図画工作(A)」(必修/演習)
アンケート数：23
〔この授業に関する評価〕



設問平均	3.9
総合評価	3.9

実施科目：保一部1年
「図画工作(B)」(必修/演習)
アンケート数：16
〔この授業に関する評価〕



設問平均	4.0
総合評価	4.4

2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

大部分の学生の美術に関する能力は、8歳(図式期)くらいでとまっていて、苦手意識が強い。美術は楽しい、造形は面白いということを理解させるように授業を行った。保育現場へ行けば週に1回、数週間で1作品などということはない。いまの内にアイデアを沢山ポケットに詰め込んでおくようにと指導した。

保育科第一部

酒井 創(サカイ ハジメ)

職 名 准教授

授業科目名 ・情報機器操作Ⅱ(保育科第一部1年生) ・情報機器操作Ⅳ(保育科第一部2年生)
・情報機器操作Ⅰ(こども学科1年生) ・情報機器操作Ⅱ(こども学科1年生)
(担当科目数 6科目、総履修者延人数 88人)

所属学会 ・情報処理学会 ・コンピュータ利用教育学会 ・日本情報科教育学会

各種委員会 ・学募推進委員会 ・防災対策委員会 ・自己点検・評価委員会

クラスアドバイザー 2年Cクラス

オフィスアワー 有

I. 教 育

「情報活用実践力の育成」を念頭に、担当科目が学
科のカリキュラムにおいてどのような位置づけにあ
るか、他教科目との関連性を考慮し授業計画に臨ん
でいる。まず、コンピュータ活用の基本となるタイ
ピングスキルを重視、タッチタイピングの習得を義
務づけている。使用テキストで学生がつまづきやす
い箇所に注意を払い、必要に応じテキストに記述の
ないスキルも補完する授業進行を心がけている。ま
た、学生が「課題解決体験」を通して、知識、スキ
ルが身につくよう努めている。さらに、授業時間外
での演習指導を実施、学生個々の進捗に対応するた
めの工夫に努めている。

学生に対しては、じっくりと、できる限り時間を
かけて話を聞くとともに、大学生としての自己責任
を自覚させることにより信頼関係を築くよう心がけ

ている。

II. 研 究

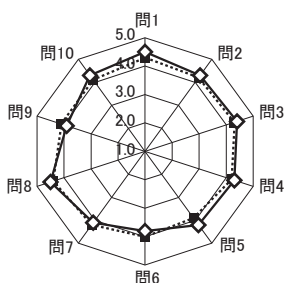
視聴覚教育メディアの活用を中心とした「教育の
情報化」に関わる調査および実践研究(情報処理学会
「コンピュータと教育研究会」、コンピュータ利用教
育学会)

年間を通じて、「コンピュータと教育研究会」を中
心に、ネットワーク上での議論、情報交換等を実施

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

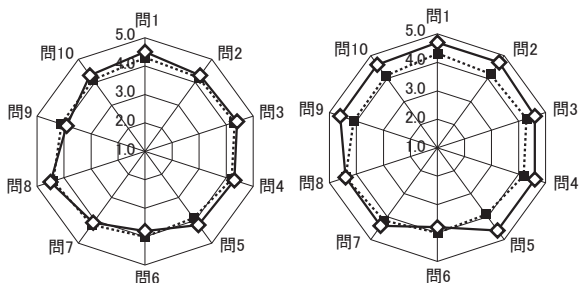
1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年
「情報機器操作Ⅱ(A)」(必修/演習)
アンケート数：12
〔この授業に関する評価〕



設問平均 4.2
総合評価 4.4

実施科目：保一部1年
「情報機器操作Ⅱ(B)」(必修/演習)
アンケート数：14
〔この授業に関する評価〕



設問平均 4.5
総合評価 4.6

2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見 と改善方策

保育科1年生の演習科目において、学生たちが熱
心に演習に取り組んだことが見て取れる。昨年度ま
でついていた実習補助員は授業から外れたが、保育
専門分野にかかわる課題の提示、授業時間外での補
習や演習指導の対応等によるモチベーションの喚起
は、成果を上げているものと考えられる。学生自身に「コ
ンピュータスキルが身についた」という実感と自信
を、あるレベルで持たせることができていると考
える。

一方、昨年度課題として上げた、問6(教員は授
業の中で、発言や質問をするように促したか)の評
価が相対的に低いことへの対応(演習内容への疑問
点・不明点等について、個別に対応するだけでなく、
クラス内での共通理解事項として、注意や気づ
きを喚起する授業展開を図ること)に関しては、更
なる徹底が必要であろう。

保育科第一部

杉浦 広幸(スギウラ ヒロユキ)

職 名 准教授

授業科目名 ・保育内容指導法(環境) ・特別研究(子どもと園芸) ・国際理解論
(担当科目数 3科目、総履修者延人数 286人)

所属学会 ・園芸学会 ・日本放射線安全管理学会 ・人間・植物関係学会 ・日本農業学会

各種委員会 ・就職委員会

クラスアドバイザー 2年Aクラス

クラブ・サークル アウトドアスポーツクラブ

オフィスアワー 有

I. 教 育

学習指導上の問題点と教授法の工夫改善：今年度の1年生は受講意欲にやや不安があった。例年であれば、試験の範囲を説明する際は、学生らが一生懸命記録していたが、今年は関心の低さが伺えた。屋外へ出たがらない学生も多く見られたので、寒い時期は屋外での動植物キャンパスツアーを屋内でのPower Point上映に切り替えた。

生活指導上の着眼点と努力点：学校へ来なくなった学生が生じたため、居住しているメゾンFCへ学生課長と出向いて本人と話すなどした。

II. 研 究

授業を担当している「保育内容指導法(環境)」に関し、自然環境と原発事故対策の問題について取り組み、論文(事例報告)発表と、書籍の発行に至った。平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金

助成金)助成対象の研究課題「福島の子育てにおける放射性セシウム汚染の研究(助成番号15K00548、総額481万円、平成28年度分182万円)」に取り組み、今年度は関連の成果を日本放射線安全管理学会第15回6月シンポジウム(6月16日)で発表した。今年度は、福島の子育て後の状況をシミュレーションするため、ウクライナ共和国へ行ってチェルノブイリ原発事故後の現在の汚染状況を調査した。ウクライナでは、ジトームイル農業生態大学のミカエル・ディードフ先生に種々お世話頂いた。

III. そ の 他

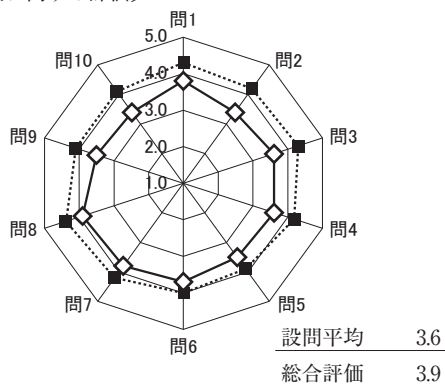
今年も、児童養護施設「青葉学園」での園芸活動やクリスマス会参加、「かぼちゃランタン祭り」や「信夫冬菜プロジェクト収穫祭」のイベントを実施し、保育科第一部の2年生と第二部の3年生を中心に、延べ30人の学生が参加してくれた。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「保育内容指導法 環境」(必修/演習)
アンケート数：44

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

学生の評価を「この授業に関する評価」で全体を見ると、例年とほぼ同じで専任教員全体の評価よりやや低かった。例年と比べ、学生の意欲や試験結果が低い現実があったため、もっと低いと予想していたので意外であった。自由意見では「声大きい」「早口で聞き取りにくい」「字が読みにくい」といった意見があった。次年度は、話し方や板書を工夫したい。花や動物の名前を学習することと、外へ出て自然に触れる学習については、概ね好評だったようである。天気の良い日はなるべく屋外へ出るようにし、自然に触れながら環境を学ぶことに努めたい。

保育科第一部

長久保 和 子(ナガクボ カズコ)

職 名	准教授
授業科目名	・特別研究Ⅱ(保育者の表現遊び) ・音楽演習「ポップスの世界」 ・創作ミュージカル ・教育実習(事前・事後指導、認定こども園基本実習指導) ・認定こども園基本実習(福祉学部こども学科) ・幼児音楽Ⅱ(H28休講) (担当科目数 6科目、総履修者延人数 386人)
所属学会	・日本保育学会
管理職名	保育科第一部学生主任、学院長補佐
各種委員会	・教員養成カリキュラム委員会 ・学生指導委員会 ・教職員と学生間における差別とハラスメント防止委員会 ・学生間における差別とハラスメント対策委員会
クラスアドバイザー	1年Bクラス
クラブ・サークル	ジャギークラブ
オフィスアワー	有

I. 教 育

歌やダンス、製作などの表現活動が中心の演習科目と、実習指導(基本実習など)を担当した。今年度は保育科第一部の学生主任と、こども学科の基本実習指導も加わり、学生とかがかわる機会がさらに増した。こども学科の基本実習では、保育現場でしか味わえない経験を数多く体感できるよう事前準備から認定こども園と連携を図り、こども学科独自の实習カリキュラムとなるよう努めた。学生主任として学友会役員の学科行事における発案・企画・運営のサポートを行い、各役職が職務を全うできるよう適宜助言した。段取り良く進行し、役員の自信や達成感につながる運営となるよう助言のタイミングや言葉のかけ方を工夫し、雰囲気作りや環境構成に努めた。

II. 研 究

保育者が感じる保育のやりがいや困難感、子育て支援に着目して、保育者の視点からみえる保育の専門性について考察することを目的とし、市内で働く現職保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)を対象とし

た質問紙調査を行った。質問紙は「保育困難感」「保護者支援」「保育のやりがい」「働きやすい環境」「上司・部下に求めるもの」「保育の質」「保育の不安」など15項目から構成し、調査・実施を試みた。調査結果を基に考察し、論文としてまとめたが発表するまでには至らなかった。今後は、幼児の身体表現あそびの指導法について研究していきたい。

III. そ の 他

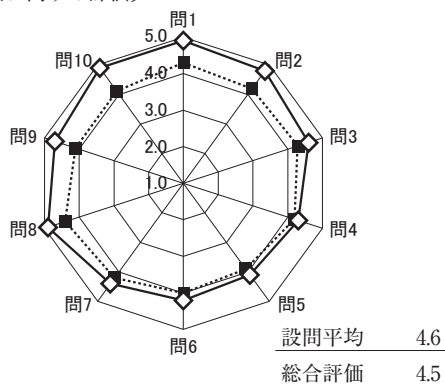
- ◎「プロデューサー兼総監督」また「学院長補佐」として、今年度も「平成28年度入学式及び平成28年度学位授与式」における企画、構成、演出を行った。出演学生の楽曲における歌唱・ハーモニー・振付・構成の指導、外部演奏者との対応、台本作成なども行った。また、自身も生演奏で歌唱・演出を披露した。
- ◎認定こども園にて基本実習指導を4月から12月にかけて行った。5日間(8時30分～17時の実習時間)1班(保育科10名/こども学科12名)とし、保育科第一部1年生(10班編成)、第二部2年生(2班編成)、こども学科2年生(2班編成)の学生136名を対応した。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「創作ミュージカル」(必修/演習)
アンケート数：36

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「保育者になる上で必要な想像力、表現力が身についた」「筋が通った的確なアドバイスで納得できた」「自分が明るくなった。自信につながった」など満足した学生の意見がほとんどであった。少数ではあるが「授業時間を増やしてほしい」「時間外の練習量が多すぎた」といった意見もあり、学生たちの授業に対する熱意が伝わった。授業内での各係の仕事内容をさらに把握し、時間配分の工夫や行程表作成などを提示し、学生たちが思うできる限りの活動が自主的に進められるよう配慮していきたい。

保育科第一部

中野明子(ナカノ アキコ)

職名 講師

授業科目名 ・保育原理 ・乳児保育 ・保育内容総論 ・保育・教職実践演習(幼稚園) ・保育実習
・保育実習指導 ・保育実習Ⅱ ・保育実習指導Ⅱ ・教育実習
(担当科目数 9科目、総履修者延人数 485人)

所属学会 ・日本保育学会 ・日本応用心理学会

各種委員会 ・学募推進委員会 ・全学実習連絡調整委員会 ・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会

クラスアドバイザー 1年C、Dクラス

オフィスアワー 有

I. 教育

授業のなかで、問題提起後グループディスカッションを通して理解を深め、様々な捉え方意見があることを知りあう機会を多く取り入れた。「虐待の背景」「障害受容の難しさ」などのレポートに、幼少期の体験や家族の悩みを打ち明ける学生に対して丁寧にコメントを返し、相談を希望する場合は研究室で傾聴した。相談内容によっては学生カウンセラーにつないで連携し、支援を継続している。また、地域のボランティア活動や研修会への参加をよびかけ、実践を通して授業での学びを深めていけるよう働きかけたことが、実習や就職に生きたと学生からの感想があった。

II. 研究

(株)みらい「保育原理」教科書執筆を通して、担当章「保育者の専門性」について考察を深めた。学生目線に立ち、子どもにとって保育者も大切な環境の一部であること、生活や遊びを通して行う保育に求められる「総合的な指導力」とは何かについて解説。保護者への支援が今後ますます求められる専門性である

と論じた。また子どもの存在そのものを認め、無条件に愛することが、自己肯定感を育むことにも言及した。3月出版の「保育原理」教科書を今後の授業に活用していきたい。また、5/8日本保育学会での自主シンポジウム発表内容「諸外国や日本の現状をふまえながら外国につながる子どもや保護者への支援の実際」についても、保育者の専門性で求められる資質は、国を問わず共通することを認識できた。今後の研究につなげていきたい。

III. その他

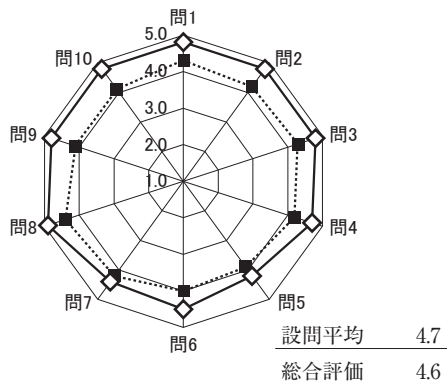
今年度、中野が窓口となって行政、地域から依頼された、学生ボランティア・研修などの参加要請に対して、保育科第一部・第二部・こども学科、のべ60名の学生が参加し、すべての要望に応えることができた。改めて本学学生の熱心に学ぶ姿勢と、真心の実践を心から誇りに思う。学生自身の学びとなり、地域社会への貢献ともなる機会を得られるよう、今後も行政、地域、他大学との連携を図りながら、継続して実施していきたい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「保育原理」(必修/講義)
アンケート数：45

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「先生の体験、経験を通した話が、わかりやすく楽しかった」「すべてが感動だった」との記述が多く、経験を通して話す内容は伝わることを確認できた。「教科書に書かれていないことも学べた」「保育に正解はない、の言葉に勇気ももらえた」等から熱心な受講態度が伝わり、「以前より考え方が変わった」等、多様な視点で捉えることを実感できた意見が印象深い。「私たち学生の意見を真剣に聞いてくれた」「自分の考えや思いを親身に汲み取ってくれる」からは、学生の発言を肯定的に受けとめながら授業を展開したことが学ぶ喜びにつながったことが伺え、「この授業がとても好きでした」「熱心な語りかけは心に響いていました」「先生の授業はとても魅力的でした」「また先生の授業があったらいいのに」につながったと感じる。生きるうえで何が大切か、本気で考察する時間を共有できたこと、そして学生達の豊かで鋭い感性と優しさに感謝したい。

保育科 第一部

高橋 雄二(タカハシ ユウジ)

職 名 講 師

授業科目名 ・社会福祉 ・相談援助 ・特別研究(障害児生活・支援演習) ・社会福祉概論
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 282人)

所属学会 ・介護福祉教育学会

各種委員会 ・就職対策委員会(宮代キャンパス) ・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会

クラスアドバイザー 2年Bクラス

クラブ・サークル ソフトボール部

オフィスアワー 有

I. 教 育

「相談援助」において基本的な知識を学ぶとともに、保育現場に対応できる応用力を身に着けることを目標として具体的な事例を示し演習を行った。DVDを活用して実際の技法を視覚的に理解した後に演習を行うことにより実践力を習得できるよう配慮した。

学生自身が相談者と支援者の立場を体験することにより、様々な課題を抱えた利用者の心を理解することを重視した。

II. 研 究

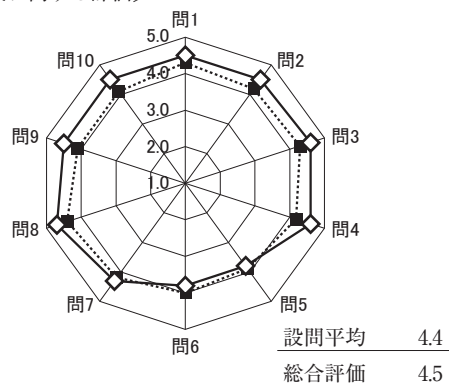
核家族化や少子高齢化の進む中、子どもと高齢者が交流する機会が減少している。すでに高齢者にとって子どもとの交流は「情緒の安定」に効果があるとの研究は進んでいるが、子どもの情緒的な発達への影響についての研究は進んでいない状況がある。そこで、世代間交流を日々の生活の中で積極的に実践している幼老複合施設(特別養護老人ホームと保育所が併設)における園児の行動調査および保育士へのアンケート調査を実施し分析を進めている。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部2年「相談援助」(資格必修/演習)
アンケート数：31

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

「相談援助」についての基本的知識を学ぶとともに、演習を行うことにより実践的技術の修得を目的として講義を進めた。様々な相談援助に関する実際の福祉現場における援助者の取り組みについてのDVDを視聴しながら説明したが、「実際の映像を見ることにより具体的に理解できた」との意見を多く聞くことが出来た。また、教科書を中心に講義を進めたが、板書については「丁寧に書いてほしい」との指摘もあったことから、次年度は丁寧に板書するとともに補足のプリントも作成し配布していきたい。

保育科第一部

鈴木智子(スズキ トモコ)

職名 講師

授業科目名 ・保育内容指導法(人間関係) ・保育内容総論 ・保育実習 ・保育実習指導
・保育実習Ⅱ ・保育実習指導Ⅱ
(担当科目数 6科目、総履修者延人数 685人)

所属学会 ・日本保育学会 ・日本応用心理学会 ・日本小児保健協会

管理職名 こども学科、保育科第一部、保育科第二部実習主任

各種委員会 ・教育・保育実習指導委員会 ・全学実習連絡調整委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

学習指導では、シラバスの内容に忠実に授業を進める事を最重要視し、授業のスタート時には、前回の復習を取り入れることで学生の理解度を上げる意識付けに繋がった。専門知識を単に伝えるのではなく、保育現場での実践に生かせる内容に努力することで学生の学ぶ意欲が高まったと思われる。授業終了時の感想等、出席カードの提出により学生の理解度や疑問点を毎回確認でき、次回の授業に生かすことができた。実習主任として、実習先との渉外等を通して実習指導に生かすこともできた。保育科1年生95名へ基本実習評価伝達時に、次年度の実習への課題を学生一人ひとりと確認する機会となった。実習指導、クラスセミナー等において保育者としての態度や資質等機会を捉えて伝える事に重点をおき指導を重ねた。

II. 研 究

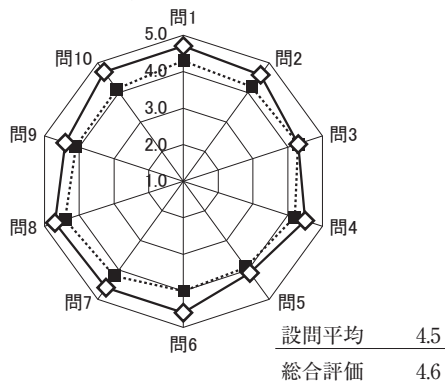
今年度は、昨年度に福島学院大学心理学研究科こども心理専攻の修士論文のテーマであった「福島県のダウン症を持つ保護者の育児意識に関する研究」を第63回日本小児保健協会学術集会において学会発表をした。ダウン症においては出生前診断など新たな課題を踏まえ福島県及び近隣の県との比較検討を行い今後さらに研究を深めることが課題である。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「保育内容総論」(資格必修/演習)
アンケート数：40

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

平成28年度「保育内容総論」保育科第一部1年生40名のアンケートにより、評価の中で、①目的・目標・進め方など、明確にされていたか②教員の熱意は感じられたか③説明や指示は明瞭で聞き取りやすかったかの3項目については、評価の中でも4.7と高い評価を得た。⑤授業時間外予習・復習について範囲の明示については、4.1と低い評価であったため、更なる見直し工夫を図り学生の意識改革に繋げていきたい。自由意見では保育に関する知識が深まった。復習の時間を授業開始時に入れることで理解が深まったとの学生の評価が得られ、前回の授業の理解度に合わせて復習を取り入れることで理解の深化に繋がったと考えられる。

保育科第一部

荒川 守(アラカワ マモル)

職 名 講 師

授業科目名 ・国語表現

(担当科目数 1科目、総履修者延人数 76人)

所属学会 ・全国大学国語教育学会

各種委員会 ・国語表現統一テスト実施委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

①学習指導上の問題点

官代の授業とTV授業とでは学生の授業の受け方が違っていると感じる。大きな要因はカメラ使用のためではないかと考える。緊張感を保つ工夫をしたい。

②教授法の工夫改善事項

学生たちに時宜的なことを知って貰うため、「気になるニュース」を調べて考え方を加える発表をさせたこと。調べる習慣が身につくとともに聴く側の学生の知識ともなったのではないかと思う。

③生活指導等の着眼点と努力点

授業中インターネット利用を認めたことで、調べることが身についてきたと思われる。また考え方に幅ができ、さらに提出物などにそのことが反映してきた。努力面では授業前に極力学生と話すよう心掛けたこと。そのことで学生との間に良い意味でフレンドリー

な空気が出来た。授業内容にも反映し緊張感の中にもリラックスして楽しい雰囲気での授業展開となった。

II. 研 究

幼児の発音しにくい言葉をテーマとしてみた。「ハンバーガー」を「ハンガーバー」、「ヘリコプター」を「ヘリコボター」とは、昔も聞いた言い間違いである。法則性があるのか、体の器官からくることなのかを追求してみたい。

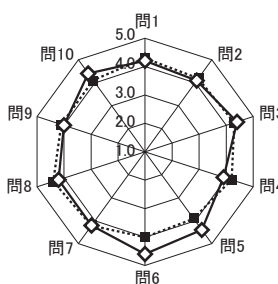
III. そ の 他

アンケートで評価の高かった先生の具体的な授業展開を勉強したい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

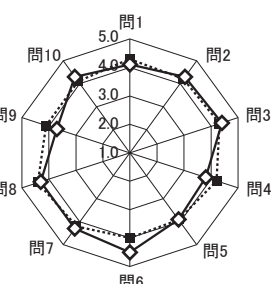
1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：食栄1年
「国語表現」(必修/講義)
アンケート数：25
[この授業に関する評価]



設問平均 4.2
総合評価 4.3

実施科目：保一部1年
「国語表現」(必修/講義)
アンケート数：11
[この授業に関する評価]



設問平均 4.2
総合評価 4.5

2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

アクティブ・ラーニングの内容は、「読む」「書く」「話す」「聞く」を中心に進めた。学生からは、ハガキや送り状、レポートの書き方、言葉遣い、電話応対、発表に自信がついたなどが評価されていたが、テキストに掲載されているものがほとんどである。中教審答申では、アクティブ・ラーニングについて発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどを挙げている。答申を再度検討し、アクティブ・ラーニングに幅を持たさなければならぬと考えた。

二つ目は社会常識の観点から「言葉遣い」「社会に出てから役立つ」などの評価があった。提出物の中から間違いやすい漢字をチェックし徹底して直した。また文章の表現では、文章のねじれや抽象的な表現を具体的に直すことなどもした。時間をもっとかけることで、さらに充実した添削をしていきたい。

保 育 科 第 二 部

神 戸 信 行(コウベ ノブユキ)

職 名 教 授

授業科目名 ・社会的養護 ・社会的養護内容
(担当科目数 2科目、総履修者延人数 159人)

所属学会 ・児童養護実践学会

オフィスアワー 有

I. 教 育

社会的養護は、学生が初めて学ぶ領域であり親しみが無い。そのため、科目関連の基本的な用語や社会的養護における保育士の役割が具体的に理解できるように事例や映像資料を利用しながら授業を進める。なお、児童虐待の問題が取り上げられるので、自分史と重ねてしまう学生の存在にも配慮した授業展開を心がけたい。

II. 研 究

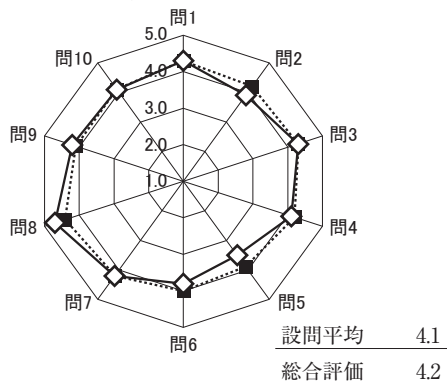
児童福祉法の大改正に伴い、社会的養護のあり方は一層施設の小規模化、地域化が指向される。今後、子育て不安や要養護児童に対する地域における包括支援システムの構築が課題となっており、そのような状況下での施設養護のあり方を研究テーマとした。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「社会的養護」(資格必修/講義)
アンケート数：50

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

社会的養護に関する科目は、多くの学生にとっては初めて学ぶ領域であり難しいというイメージが強いのか、授業の予習、復習に取り組む学生が少ない。そのため、ニュース等で取り上げられる身近な出来事などから、社会的養護への関心を持てるように配慮した。今後も学生の興味関心を高めて、授業に取り組めるように配慮したい。

保 育 科 第 二 部

藤 本 要(フジモト カナメ)

職 名 准教授
 授業科目名 ・サッカーⅠ・Ⅱ ・レクリエーションスポーツⅠ ・バドミントンⅠ ・体育実技Ⅰ
 ・体育講義 ・幼児体育
 (担当科目数 6 科目、総履修者延人数 137人)
 所属学会 ・日本応用心理学会
 管理職名 保育科第二部・保育科第一部計画履修生担当主任
 各種委員会 ・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会 ・学募推進委員会
 クラスアドバイザー 2年 学年アドバイザー
 クラブ・サークル バドミントンクラブ、写真クラブ
 オフィスアワー 有

I. 教 育

「幼児体育」を今年度初めて担当。演習授業の特性を生かしグループ毎に指導者となり実際の保育における運動場面での指導を想定したロールプレイングを中心に授業を展開した。そのため、テーマに沿って各自で調べて指導案を作成、その結果を効果的に伝える方法を各自で工夫するなど授業への参加意欲が高かった。

またアクティブラーニングを取り入れた授業のため、指導者としての口調やテンポ、声の抑揚や大きさ、実技の効果的なデモンストレーション、補助者のポジショニング、決められた時間を有効に使い切る事等を学び、今後の実習等で生かせるようになってもらいたい。

「体育実技」に関しては、生涯スポーツに繋がるような技能や知識の習得はもちろんのこと、楽しさを多く味わえるようゲーム形式を多く取り入れた。担当種目の内「バドミントン」は個人競技種目であったため、同一時間内にコート順位における能力別編成を実施し、学生が意欲的に取り組めるよう配慮した。

II. 研 究

＜テキスト作成＞

「楽しく学ぶ運動遊びのすすめ -ポータルフォリオを活用した保育実践力の探求-」

(編者)柴田卓・石森真由子 発行所：株式会社みらい
 ※第5章担当、現在校正中(4月下旬発行予定)

＜競技歴＞

①第43回 福島県テニス選手権大会 男子55歳以上ダブルス 優勝(5月)

②第69回福島県総合体育大会テニス競技 男子55歳以上ダブルス準優勝(7月)

③東北都市対抗テニス大会出場※チームは3位で全日本都市対抗出場権取得(5月仙台市)

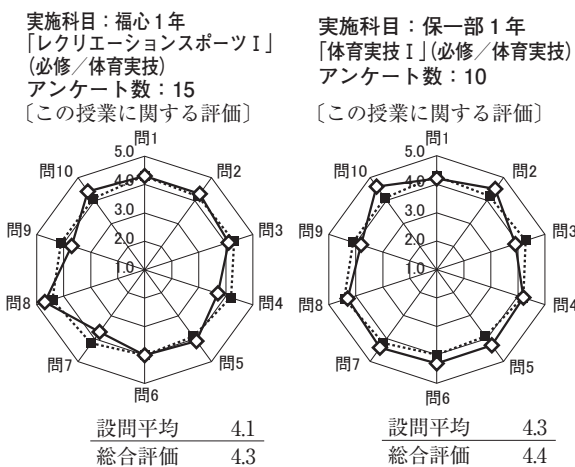
④全日本都市対抗テニス大会出場※コンソレーションマッチ3位(7月松山市)

※平成28年度、福島県ランキング、男子55歳以上ダブルス第2位

※平成28年度11月発表全日本ランキング(男子55歳以上ダブルス)136位

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

授業に対する総合評価は前年度4.1/5.0に対して今年度は4.4/5.0であった。これは昨年度が演習科目であったのに対して今年度が実技科目であったことも影響していると思われる。项目的には問4と問9が全体平均を下回っており、特に問4に関しては初めて行うスポーツ種目の導入時において、その特性やルールに説明を口頭だけではなく資料配布等を行うことで、より授業効果を高められるように改善したい。

保育科 第二部

浅野 洋子(アサノ ヨウコ)

職 名 講 師

授業科目名 ・ピアノ演習 ・音楽演習

(担当科目数 1科目、総履修者延人数 35人)

所属学会 ・日本保育学会

オフィスアワー 有

I. 教 育

演習科目で初心者が多いため、課題の問題点を指摘して練習するように指導している。授業で学習した曲を基に実力をつけて社会に出るように指導し、カナをふらず自分の力で読譜し、拍を取ってどんな曲にも対応できる力を目標としている。

理解能力、授業に対する心構えや努力により差が現れるが、日々の努力により克服可能と指導し、ほとんどの学生が年間目標の曲数を達成することができている。

II. 研 究

ピアノ奏法の研究

独奏 ロマンズ (シベリウス作曲)

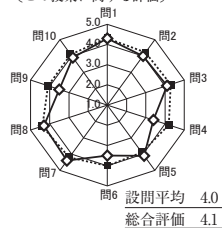
二台のピアノ 剣の舞 (ハチャトゥリアン作曲)

ヴァイオリン伴奏 ヴァイオリンソナタ イ長調 (フランク作曲)

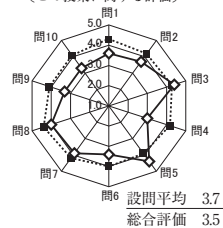
IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

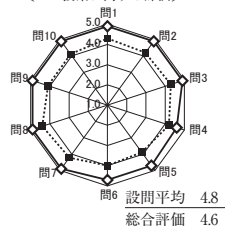
実施科目：保一部1年[ピアノ演習
(初心者レベル)(C)](必修/演習)
アンケート数：8
〔この授業に関する評価〕



実施科目：保一部1年[ピアノ演習
(初心者レベル)(D)](必修/演習)
アンケート数：7
〔この授業に関する評価〕



実施科目：こども1年[ピアノ演習
(初級レベル)](必修/演習)
アンケート数：7
〔この授業に関する評価〕



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

どの学生にも同じように指導しているつもりであるが、個々の学生の受けとめ方に違いが出ている。演習授業であり、出来る出来ないにより授業に対しての感情にも差が出ている。出来ない学生への対応も研究しているが理解されていないこともあると感じた。

食 物 栄 養 科

茂 木 積 雄(モテキ セキオ)

職 名 教 授

授業科目名 ・解剖生理学 ・解剖生理学実習 ・医学一般 ・精神薬理学 ・精神薬理学特論
・職場のメンタルヘルス特論

(担当科目数 6 科目、総履修者延人数 112人)

所属学会 ・日本医師会 ・日本内科学会 ・日本肝臓学会 ・日本リウマチ学会

管理職名 メンタルヘルスセンター長

各種委員会 ・衛生委員会 ・駅前キャンパス運営委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

福祉学部福祉心理学の講義を担当して感じたことは、学力、意欲に問題を抱え欠席、遅刻をする者が存在することである。授業には継続性があるので、1~2回の欠席さえ致命的となることが示唆される。当方の努力には限界があることも事実ではないかと感じており、単なる規定や授業担当教員では解決出来ない問題が背景に存在するものと思われる。責任ある立場の教員を中心とした生活指導や進路指導を効果的に行うとともに健康管理が不可欠と感じる。

II. 研 究

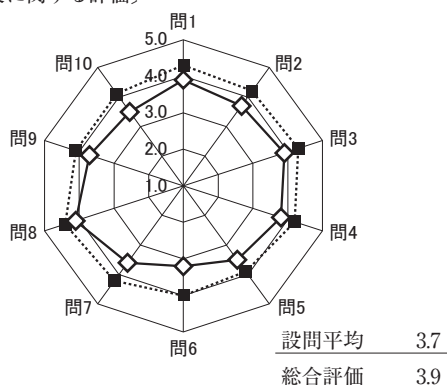
現在の医学(界)は極めて高度に専門、細分化しており、患者情報を安易には収集できず、個人情報保護や倫理面にも最大限の努力を払うことが求められるので厳しい立場に置かれていることを認識している。内科的疾患全般、精神薬理学および職場のメンタルヘルス・ストレスチェック制度の効果的運用、等の産業保健全般に対する知見を深める研究に関わっていきたいと考えている。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「医学一般」(選択/講義)
アンケート数：59

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方針

本学での授業および通年での授業は初めての経験であったので、授業の進め方や教育効果を上げるための工夫や準備が不十分であったことは次年度へ向けての反省と課題とする。また、学生気質や学業に対する姿勢の多様性を十分に見極めた上での授業を心がけたい。

医学的な知識を身に付けるためには一定の基準に達した基礎学力が欠かせないことは否定できない事実であると考えている。また、社会福祉士取得を目指す・等の目的意識が明確でない学生の授業満足度を高めることの難しさを実感している。多種多様な学生が混在している現実の中で授業の達成目標を的確に位置づける努力と対策に着手したいと考えている。自由意見の中には肯定的な意見も少なくない点に関しては一定の教育効果が得られたものと感じている。「声が・・・」に関しては、授業開始当初、マイクを使用しなかった際に学生から指摘を受けた以降は、解決した問題であると認識している。最後列付近に意識的に着席している学生の意見であれば、違和感と矛盾がある。私語が問題となった学生の大半は後方付近の列に着席していることが多いために、常に後方付近の列に着席していた学生にとっては聞き取りにくいことがあった可能性も示唆される。次年度からは真面目に授業に取り組もうとしている学生の学ぶ権利を十分に保証する対策を検討する。

食 物 栄 養 科

橋 本 ヨシイ (ハシモト ヨシイ)

職 名 講 師

授業科目名 ・調理学 ・調理学実習 ・栄養学各論 ・栄養学各論実習 ・食彩演習
(担当科目数 5 科目、総履修者延人数 135人)

所属学会 ・日本栄養食料学会 ・日本調理科学会 ・日本臨床栄養協会 ・日本栄養士会

クラスアドバイザー 食物栄養科 1年

オフィスアワー 有

I. 教 育

2年次の後期「栄養学各論実習」を担当した。パワーポイントと教科書を連動しながら新聞記事やニュースなどで話題になっている食の問題を取り上げるなどして学習意欲を高めることに努力した。また、献立作成の課題に関しては食品サンプル、献立サンプル等を利用しながら料理のレパートリーが少ない学生達になるべく多くの料理法がある事を伝えた。しかしながら学生の中には対象とする喫食者の料理が思い浮かばず、中々適した献立が立てられない者もいたことから、次年度は更に学生が理解しやすいような丁寧な画像作りや資料配布、そして課外に図書館刊行物の利用を推奨することなどを考えている。授業では講義及び献立作成と実習を交互に行ない、実習後はその作成した料理(カメラで写した画像をパワーポイントに取り込んだもの)を班ごと

に全員の前で発表し、各ライフステージのテーマに合っているか否か皆の意見や質問を聞くというアクティブラーニング形式をとったが、これは大変良かったので次年度も行いたいと考えている。

II. 研 究

研究については、今年度は授業が詰まっていたことや、クラスセミナー、個別懇談などで時間が取れず、取り組むことが出来なかったが、次年度は取り組みたいと現在テーマを思案・作成中である。

III. そ の 他

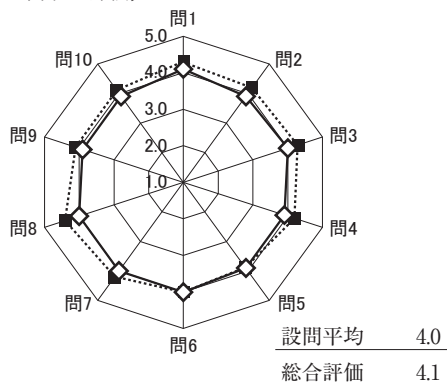
人数が少ない今こそ、少人数ならではのきめ細かい丁寧な指導を行って学力の思わしくない学生の底上げをし、逆に能力のある学生に対しては更なる学力アップへ導くべきと考える。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：食栄2年「栄養学各論実習」(資格必修/実験・実習)
アンケート数：27

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

一生懸命により良い授業のために努力し、準備をして授業に臨んだつもりであったが、よく評価されていないところもあった。いつの時代も学生と教員の関係は、そうであるのかなと考える。しかしながら、反省する箇所も多くあり、更に正しい学問と知識を学生に伝授できるよう研鑽を重ね、より多くの知識と技術を身につけて卒業できるように指導していきたい。レポートや献立提出に関しては毎回丁寧なコメントを書き添え、間違いを細かくチェックするなど多くの時間を要してしまったが、次年度からはもう少し効率的に行えるように工夫する必要がある。特に、毎年思う事であるが、学生を甘やかし過ぎるかな、優し過ぎるかなと反省する部分が多いので、次年度からは意を決し、学生に厳しく臨むことにする。それは学生にとって良い結果となり、学生自身の自己評価の向上に繋がると考えるからである。その他、自分自身(橋本)が大学以外でどのような仕事をしているか(※)を時々伝えることで「食のスペシャリスト」の世界の広さを伝えていけたらと考えている。

(※大学以外の仕事～料理教室主宰、テレビ生番組出演、書籍、食に関わる講演など)

情報ビジネス科

小松由美(コマツ ユミ)

職名 教授

授業科目名 ・ビジネス実務総論 ・ビジネス実務演習Ⅱ ・人間関係論 ・ゼミナール
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 92人)

所属学会 ・日本ビジネス実務学会 ・秘書サービス接遇教育学会 ・国際パフォーマンス学会
・日本労働社会学会

管理職名 学長

各種委員会 ・自己点検・評価委員会 ・研究業績審査委員会 ・特別研究費交付委員会
・FD・SD委員会 ・学募推進委員会 ・図書館情報センター委員会
・国語表現統一テスト実施委員会 ・学生指導委員会 ほか

オフィスアワー 有

I. 教 育

授業ではディスカッションやグループワークを多く設け、個々の積極性を促すよう努めた。また、途中で課題を与え、スマホで調べさせる時間を設けた。学生と接する時間をできるだけ持ちたいと考えていたものの、かなり限られた時間での指導にならざるを得なかったこともあり、レポートにはできるだけコメントを付けて返却した。

毎年開催してきたゼミ卒業生と在學生とのOG会は、学生に企画・運営を任せて28年度も開催した。学生から社会人へのスムーズな移行のためにも、学年を超えた卒業生との交流の場は在學生にとって良いサポートや刺激となっている。また、卒業生にとっても先輩としての自覚ができ、さらなるキャリア形成を考える契機となるようだ。双方にとって大きな学びになっている。

II. 研 究

日本ビジネス実務学会の関東・東北ブロック研究会を本学駅前キャンパスにて開催し、実行委員長を務めた。企画・準備をほぼ1年前から手掛け、日本のパフォーマンス学の第一人者である佐藤綾子氏(日本大学芸術学部教授)を招き、基調講演をしていただき、これまでにない参加者数となり、盛況で活気ある研究会となった。

業績としては、保育者を目指す学生向けの演習形式のテキストとして、『信頼される保育者のためのコミュニケーション・スキル』を共著で執筆した。

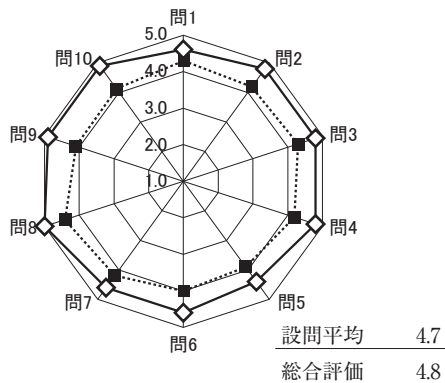
しかしながら、研究活動には十分な時間を割くことができず、葛藤した一年でもある。次年度は研究活動の時間も確保し、長期的な視野に立って研究を積み重ねていきたい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：情ビ2年「人間関係論」(選択/講義)
アンケート数：24

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

講義科目ではあるが、私の職業経験談を事例として時々織り混ぜたり、グループディスカッションを取り入れたりした。普段話さない者同士がコミュニケーションをとり、意見を出し合うことにより、人間関係の構築にはコミュニケーションが不可欠であること、人それぞれ価値観が異なることに学生は気づき、多様性を認め合うことがスタートであると実感したようである。「社会人になった際、必要なことを学べた」「人との関係について知識が深まった」「他者との距離の取り方や接し方についてわかりやすく楽しく学べた」など大変関心を持って受講していたことがうかがえた。

情報ビジネス科

中丸 一 志(ナカマル カズシ)

職 名 教 授

授業科目名 ・建築デザイン演習 ・ゼミナール(インテリアデザイン) ・福祉住環境演習
 ・国際理解演習 ・インターンシップ
 (担当科目数 4科目(インターンシップ含まず)、総履修者延人数 19人)

所属学会 ・建築学会

管理職名 理事長補佐(施設維持管理・企画担当)

各種委員会 ・研究業績審査委員会 ・特別研究費交付委員会 ・就職対策委員会
 ・宮代キャンパス防災・防犯対策委員会 ・再審にかかる特別委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

学生にとり未知の分野である、建築関係授業を選択してくれた学生の好奇心旺盛な期待に応えるべく、映像や視察などを多く取り入れた授業を行った。興味関心を示し、課題制作を楽しみながら取り組んでくれた。また、福祉住環境コーディネーター2級の資格を得た学生が一人出た(3名受験中)。建築CADの操作について、各自マスターし、住宅プラン作成ソフトでのプレゼンもなかなか面白い作品をプレゼンしていた。

II. 研 究

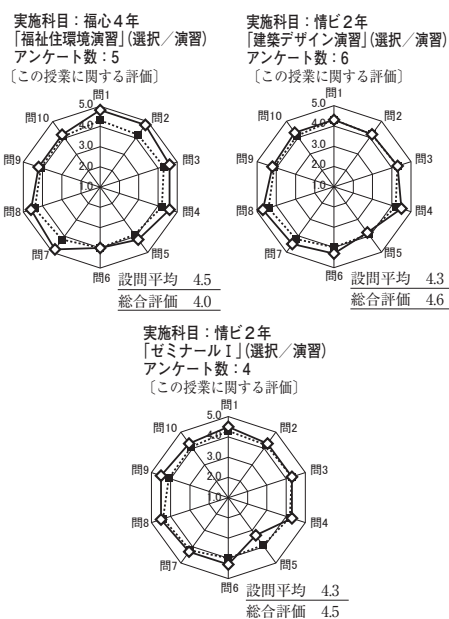
土湯温泉観光協会からの依頼で、土湯温泉観光施設2件のリノベーション計画を行った。

III. そ の 他

ゼミナールで地域連携に取り組んだことが、学生の成功体験となり、自信がついたと思う。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

ゼミナールではインテリアデザインの学習の他、土湯温泉観光施設2件のリノベーション提案を行った。(学生案)課題に積極的に取り組み、若者目線で素晴らしいプレゼンを行ってくれた。

観光協会から、リノベーション実施に向けて、これからも取り組んで欲しいとの要望を頂いた。学生にとって生きた勉強ができ、自信が付いたと思う。インテリアデザインの制作プレゼンも、よく考えをまとめ、相手が理解するように説明する手法を駆使して、頑張ってくれた。

情報ビジネス科

菅田 清正(スガタ キヨマサ)

職 名 教授

授業科目名 ・情報ビジネス科「映像制作」 ・情報ビジネス科「インターンシップⅠ」(時間割外)
・情報ビジネス科「インターンシップⅡ」(時間割外)
・保育科第一部「特別研究(園行事DVD制作演習)」
(担当科目数 4科目、総履修者延人数 65人)

所属学会 ・映像情報メディア学会

管理職名 事務局：入試広報部長

各種委員会 ・学募推進検討委員会 ・入試広報戦略検討委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

授業では撮影体験があるが、カメラ機材の台数に限りがあるため全員が機器に触れる機会が少ない。そのため撮影、演出など役割分担は一応決めるが、全員が体験できるように柔軟に行った。また、生活指導等の面では、就職に対する仕事の考え方、企業内マナー等を学生に指導した。

II. 研 究

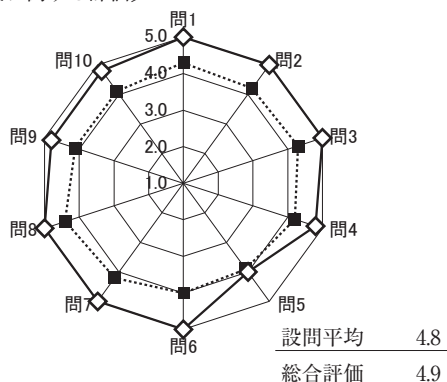
「映像表現」を研究テーマとしているが、最近の学内での撮影は効率化を重視した撮影法で行い、その中でいかに特長ある映像表現が可能かを追求した。特に人物撮影法では、最近流行の人物背景を“ぼかす”手法が多く見られるが、これは被写体とレンズ、アイリスが関係する「被写界深度」の問題であり、この方法を、演出意図を考慮しながら使用している。“ぼかす”具合によりどこに視点をおくことが最も効果的かを考察している。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：保一部1年「特別研究(園行事DVD制作演習)」(選択/演習)
アンケート数：6

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

撮影・編集等は技術的に難しい内容を含んでいたが積極的に参加し、興味を持って取り組んでいた。ただ、専門科目でもあり横文字の専門用語が多数有り、やや理解するのが難しかった面もあるようだ。今後はより噛み砕いて分かりやすい表現で、図解等を多用し、視覚的に理解できるようにしたいと考えている。

情報ビジネス科

佐藤 晴雄(サトウ ハルオ)

職 名 教授

授業科目名 ・国語表現(情報ビジネス科、福祉心理学科) ・国語表現・再(情報ビジネス科、福祉心理学科)
・文章演習 ・時事問題研究 ・ゼミナールⅠ(地域振興)
(担当科目数 5科目、総履修者延人数 181人)

所属学会 ・日本マス・コミュニケーション学会 ・日本ビジネス実務学会

各種委員会 ・国語表現統一テスト実施委員会 ・就職対策委員会 ・研究紀要編集委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

【国語表現】学生のスマートフォン依存が一段と強まっており、書く力の低下が心配されている。授業の中で漢字テストを4回実施し、小論文は5回提出させた。小論文は添削したうえコメントを添えて返却、簡潔で分かりやすい文章の書き方を個別に指導した。

【国語表現・再】漢字は何度も書かないと覚えられないため、前期に統一テストに合格しなかった学生2人を対象に夏休み中に25日間補習を実施した。このうちの1人はまじめに研究室に通い、後期に合格することができた。

【時事問題研究】時事問題に関心を持たせるため、地元紙の福島民報を毎回学生に1部ずつ配布した。授業は月曜1時限のため、日曜午後7時に録画したNHKニュースを15分程度映し、解説した。学生自身に新聞やテレビのニュースに目を向けてもらうため、毎回7、8人に「この1週間で最も関心があっ

たニュース」を発表させたうえ、敷衍(ふえん)して説明した。

II. 研 究

新聞やテレビで時事問題の流れを日々追いかけた。ゼミナールでは「地域振興」をテーマとしているため、人口減少が今後深刻化する福島県のあるべき姿も追い求めた。ただ、論文をまとめるまでには至らなかった。

III. そ の 他

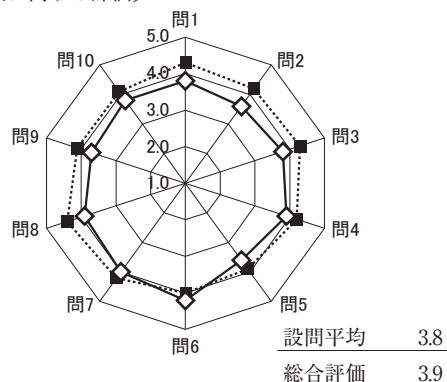
えこひいきしたかのような評価があった。授業で質問をした際に、下を向いている学生は自信がなく分からないのではないかと判断して、思いやりの心から指名しなかった。目線が合った学生は正しく答えることが多く、指名することがあった。もう少しアトラダムに指名することも試みてみたい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：情ビ1年「国語表現」(必修/講義)
アンケート数：31

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

平成27年度の授業評価を受けて、教科書とプリント演習のバランスを取りながら授業を進めた。前年度同様に、教科書を使う授業を評価する学生がいる一方、評価しない学生もいた。ただ、授業の基本となる教科書がなければ、その場しのぎの授業になる恐れがある。教科書もただ読ませるだけでなく、さまざまな具体例な例を挙げて説明してきた。もともと国語表現にほとんど興味を持たない学生が目覚めるような授業の在り方を考えていきたい。

情報ビジネス科

鈴木 忠雄(スズキ タダオ)

職 名 准教授
授業科目名 ・コンピュータ基礎演習Ⅰ ・コンピュータ基礎演習Ⅱ ・情報管理論
・マルチメディア演習 ・シスアド演習 ・ゼミナールⅠ
・インターンシップリテラシー(オムニバス)
(担当科目数 7科目、総履修者延人数 152人)
所属学会 ・日本物理学会 ・日本ディスクロージャー研究学会 ・日本応用心理学会
管理職名 学科主任、学生主任
各種委員会 ・学募推進委員会 ・就職対策委員会 ・駅前キャンパス管理運営委員会
クラスアドバイザー 情報ビジネス科1年
クラブ・サークル 卓球クラブ
オフィスアワー 有

I. 教 育

多くの学生は、卒業後、様々なビジネスの現場において、Word や Excel 等の基本的な情報リテラシーを活用することはできるが、IT、特に、Windows PCが絡む、様々な問題解決に、ITスキルを応用できる学生は少ない。したがって、マルチメディア演習では、高度なITの本質を自ら考える授業を心がけ、出来る限り、各自での考察が必要な演習に取り組んだ。一方、ゼミナールでは共通テーマとして、Excelを用いた統計解析を行い、統計学を理解すると共に、ディスカッションの訓練を行った。その結果、学生は、統計分析の基礎的手法と数理解能力を獲得することができたと考える。常日頃、学生に対し、問題解決能力が身につくような総合的かつ実践的な指導を心がけている。

II. 研 究

社会に重大なインパクトを及ぼす『情報』の定量的かつシステマティックな取り扱いを目指すために、非確率的な要因に依存する『情報』の数理解モデルの構築の可能性を調べた。具体的には、重大情報の適切な『情報開示』に要求される要件の数理解モデル化を構

築するために、非確率的情報の量子力学的取り扱いの可能性を調べた。

一方で、超高齢社会における情報リテラシーの修得や高度化複雑化する家電の高度化インターフェイスの構築における応用心理学からの研究も行った。その結果、高度化されたIT社会とは、高齢者にとってこそ有意義な社会となる可能性を秘めていることを明らかにした。特に、今後は、高度に進化したITによって、「高度化=複雑化」の概念は消失し、心理学的側面からのインターフェイス研究の成果を組み込むことで、よりシンプルに、子どもから高齢者まで誰にでも使いやすい「真に高度化した家電」が出現するだろうと論じた。

III. そ の 他

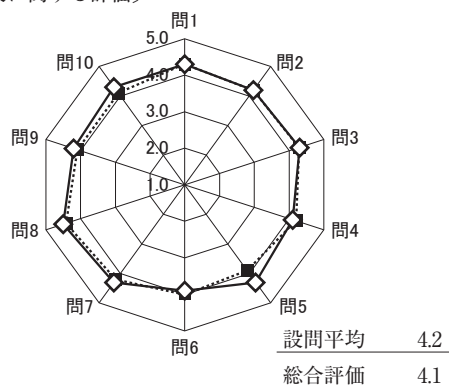
今年度は、福島駅前キャンパスにおけるコンピュータネットワークシステム更新事業(2年計画)において、各種サーバの更新(第1期)が行われ、全面的な技術的サポートと運用設定の指示を行った。また、同時に、コンピュータネットワークシステムのシステム管理、及び、福島学院大学における大学公認メールアドレスのメールサーバの管理を行った。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：情ビ1年「コンピュータ基礎演習Ⅱ」(必修/演習)
アンケート数：37

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

対象科目は「コンピュータ基礎演習Ⅱ」である。学生の自由意見の中の、満足度・改善意見や感想などの意見として「とてもやりがいのある授業でした」「パソコンについて詳しくなってきたと思います」「エクセルやワードについて、とても知識が深まった」「楽しそうに授業を教えてくれるので、楽しく授業を受けることができました」などがあげられる。一方、自由意見のうち、感銘・感動を受けたことで主なものでは、「情熱的な授業でした」「詳しく教えてもらいました」があげられる。常に、学生へ伝える側としてのわかりやすさと熱意を意識しており、その取り組みが成功していることが伺える。今後も、常に熱く、全身全霊で授業を展開する。

情報ビジネス科

呂 学 如(ロ ガクジョ)

職 名 准教授

授業科目名 ・中国語会話 ・ゼミナール ・国際理解論 ・中国語会話Ⅰ ・中国語会話Ⅱ
・インターンシップⅠ ・インターンシップⅡ
(担当科目数 7科目、総履修者延人数 108人)

所属学会 ・日本コミュニケーション学会 ・日本現代中国学会

管理職名 図書館長

各種委員会 ・図書館情報センター委員会 ・研究紀要編集委員会

オフィスアワー 有

I. 教 育

「ファカルティ・ディベロプメント」→「FD」→「授業の内容と方法の改善」という文科省中教審の指針として、もう10数年も前から、教員が求められてきた。さらに近年、「アクティブラーニング」→「学生の能動的な学修」ができるように、教員がその環境づくりや伝える技術の向上が一層求められるようになった。調査学修・発見学習、ディベート、プレゼンテーションなどを取り入れた授業の実施は、いずれも学生の積極性が不可欠であり、学生が興味を持って積極的に参加するという授業の展開を、教員の誰もが願っている。しかし、学生の意欲をいかにして引き出せるかが最大のポイントであり、難しい課題でもある。映像や音声、パワーポイントにプリント、いわゆる立体的な授業の展開に腐心すると同時に、グループ研究・発表、授業の内容に関連する映画の鑑賞、授業時間内の小休憩の配慮などという

方法を取り入れて学生の関心・好奇心をなんとか惹きつけて今年度も取り組んできた。教員の熱意が伝わって効果があがり、学生による授業評価の数値も高くなった。まだまだ改善の途中にあり、次年度もさらに努力し、一層頑張りたいと思う。

II. 研 究

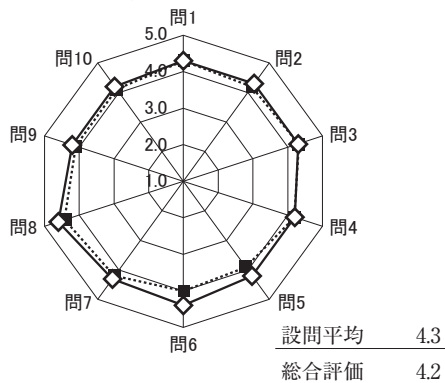
「日中関係の将来の展望」というテーマで研究を続けているが、近年の両国関係の冷え込みに苦悩し、なかなか研究成果を出せずにいる。現状を踏まえ、冷え込みの背景や経済協力のウインウイン関係、観光客の大量訪日や「爆買い」などについて論文の執筆を、と年度初めに計画したが、年度末になってもまとまらず、今年度も研究業績なしで終わった。次年度こそこのテーマの集大成として取り組み、完成を目指して頑張りたい。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：福心1年「中国語会話Ⅰ」(必修/演習)
アンケート数：32

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

この授業に関する学生評価の数値を見ると、10項目のうち、専任教員全体平均値と同点が3項目、あとの7項目はすべて平均値より高くなっている。思わず嬉しくなった。1年間腐心した甲斐があり、努力と工夫が学生たちに通じた、とほっとした瞬間であった。しかし、すぐに冷静に戻った。一喜一憂はすべきではない、まだまだ改善の途中にあるから、と。自由意見欄を読むと、9割以上の記述は評価してくれているものだが、少数ながら厳しい記述もあった。その少数意見を真摯に受け止めて、次年度はさらなる改善に力を入れてよりよい授業にしなければならない、と決意を新たにした。

情報ビジネス科

木村 信 綱(キムラ ノブツナ)

職 名 准教授
授業科目名 ・ウェブデザイン ・ウェブデザイン演習Ⅰ ・ウェブデザイン演習Ⅱ
・グラフィックデザイン演習Ⅱ ・ゼミナール
・インターンシップリテラシー※オムニバス ・インターンシップⅠ※時間割外
・インターンシップⅡ※時間割外
(担当科目数 8科目(オムニバス科目を含む)、総履修者延人数 213人)
所属学会 ・日本ビジネス実務学会
管理職名 情報ビジネス科長、理事長補佐(入試広報戦略担当)
各種委員会 ・入試広報戦略検討委員会 ほか
クラスアドバイザー 情報ビジネス科2年
クラブ・サークル 軽音楽クラブ、手打そばクラブ
オフィスアワー 有

I. 教 育

「教える」から「気付かせ、自ら学ばせる」への転換を目指した一年であった。アクティブラーニングではグループワークの機会を多く取り入れたが、そこで学生一人ひとりが得たものが見える化する工夫としての振り返りシートは有効であった。1つ1つにコメントをつけて返却することができなかつたため、次年度はオンラインで振り返りを実施するなど工夫してみたい。生活指導については、SNSでの情報発信についてマナーやリスクについて授業内で実践的に指導するなど工夫した。地方の企業でも採用時の情報収集にSNS検索を活用することから、就職活動にもつながるような活用方法を提示していきたい。

II. 研 究

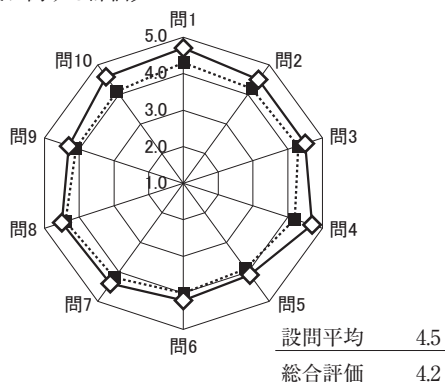
専門であるデザインを軸に、地域連携プロジェクトを通じた教育効果について、実践的な研究を行った。実績として「だてマルシェ」や「若旦那図鑑VOL.5」など。ご当地ラーメンを開発するプロジェクトでは、他学科の学生を巻き込みながら、これまで情報ビジネス科で蓄積した連携のノウハウを外化することに注力した。

IV. 「学生による授業評価」アンケート結果

1. グラフ(レーダーチャート)

実施科目：情ビ1年「ウェブデザイン」(選択/講義)
アンケート数：31

[この授業に関する評価]



2. この授業に関する学生評価・自由意見への所見と改善方策

全項目で教員平均値を上回ることができた。問4(学生の理解を助けるため、分かりやすい授業の工夫が行われていたか)と問10(言葉は明瞭で聞きやすかったか)について平均を0.5ポイント上回っている。特に問4について、まず学生自身で考えさせ、その後学生同士で意見交換を経てから教員が解説を加えるという流れと、それを前提にした配布資料作りが奏功したものと思われる。プレゼンについても都度ごとに講評を加えるなど、アクティブラーニングで重要とされる振り返り部分を意識したことも効果的であったように感じている。

第4章 授業参観結果報告

平成28年度監事(監査役)による授業参観結果

監査役 佐藤資治

【実施概況】

平成27年度までは河田亨監査役が福島駅前キャンパスを、私が宮代キャンパスを担当したが、平成28年度は河田監査役の引退で両キャンパスを担当した。年度初めに小松由美学長との打ち合わせで授業参観は、全20コマのうち13コマを、27年度の学生による授業評価アンケートで総合評価3.7未満(5点満点)の専任教員及び非常勤教員の授業を対象とした。学長室から事前通告(原則2週間前)で実施した。教員授業実施規程(平成28年4月1日改正)に基づいて授業の開始前、授業の開始時、授業の終了時、授業の内容(方法)等について参観した。

実施状況は、以下のとおり5月4コマ、6月5コマ、7月3コマ、10月4コマ、11月4コマ。

平成28年度 授業参観実施状況

	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師	計
福祉心理学科	2	1			2	5
こども学科	2				2	4
保育科第一部		1	3		2	6
保育科第二部					1	1
情報ビジネス科	1				3	4
計	5	2	3		10	20

◆授業の開始前

- ・30分～10分前入室 : 16コマ
- ・3分～定刻 : 4コマ

余裕を持って入室した多くの教員は、授業の準備をしながら学生とコミュニケーションをとり教室内は和やかな雰囲気を醸し出していた。一方、余裕がなく入室した教員は、慌ただしく授業開始を迎えていた。

◆授業の開始時

①定刻開始 → 19コマ

他の1コマは学生全員(少人数)が早くから入室していたことから定刻5分前開始、定刻5分前終了した。

②教員と学生の挨拶

- ・起立挨拶 → 14コマ
- ・着席挨拶 → 2コマ
- ・教員のみ挨拶 → 4コマ：専任教員2コマ、非常勤教員2コマ

教員授業実施規程第11条(授業開始時及び終了時の明示義務)に、教員は授業開始にあたって明確な表現又は方法(例えば起立させるなど)とあるが、起立挨拶はマナーの基本であり、実社会のあらゆる分野で必要である。

着席挨拶は、メリハリに欠けていた。また、教員のための挨拶は、一方通行であり、学生とのコミュニケーションが望まれる。所見で提言した。

③出席の確認

- ・点呼確認 → 16コマ
- ・指定席確認 → 2コマ
- ・確認なし → 2コマ：専任教員1コマ、非常勤教員1コマ

教員授業実施規程第12条(出席の確認方法)に教員は出席確認を最大でも3分以内で終了するよう工夫をするようにとあるが、点呼確認16コマ、指定席確認2コマともに3分以内に終了した。授業開始時に出席確認をしなかった2コマは、授業終了時にコメント・ペーパーを回収したが、規程にそぐわない方法であり、規程に基づいて実施するよう所見で提言した。

◆授業の終了時

①定刻終了 → 14コマ

②少し早めに終了 → 3コマ：専任教員2コマ、非常勤教員1コマ

定刻オーバー → 3コマ：専任教員2コマ、非常勤教員1コマ

定刻より少し早めに授業終了は、5分から2分前に、定刻オーバーは、定刻を2分過ぎてからの終了であった。

教員授業実施規程第6条(授業時間遵守義務)に基づいて授業時間を遵守するよう所見で提言した。

③教員と学生の挨拶

- ・起立挨拶 → 13コマ
- ・教員のみ挨拶 → 7コマ：専任教員3コマ、非常勤教員4コマ

授業を終了する場合も授業開始時と同様、教員授業実施規程第11条に基づいて行うよう所見で提言した。

◆授業の内容(方法)

①授業形態：講義

- ・パワーポイント、スライド、教科書、プリント → 6コマ
- ・教科書、プリント → 5コマ

②授業形態：演習

- ・パワーポイント、DVD、教科書、プリント → 2コマ

- ・教材(画用紙、布、針、糸、食材の写真等) → 3コマ
 - ・課題(楽譜)とピアノ → 1コマ
 - ・プリント → 1コマ
 - ・原稿用紙(課題について作成) → 1コマ
- ③授業形態：講義演習
- ・プリント、教科書 → 1コマ

◆授業内容(方法)の改善について

[学生の居眠りを誘発した授業]

参観した20コマのうち、学生の居眠りが気になった授業が9コマあった。

- ・授業形態：講義 → 5コマ
 - ・授業形態：講義演習 → 1コマ
 - ・授業形態：演習 → 3コマ
- ①授業形態：講義
- ・教科書、プリントと板書による講義 → 3コマ：専任教員1コマ、非常勤教員2コマ
 - ・教科書、プリント、パワーポイントによる講義 → 1コマ：非常勤教員1コマ
 - ・プリントと板書による講義 → 1コマ：非常勤教員1コマ
- ②授業形態：講義演習
- ・教科書、プリントと板書による講義 → 1コマ：専任教員1コマ
- ③授業形態：演習
- ・教科書、プリント、DVDと板書による講義 → 1コマ：専任教員1コマ
 - ・プリントと板書による講義 → 2コマ：専任教員2コマ

教員授業実施規程第14条(魅力ある授業の実施)に教員は、学生に感銘と感動を与え知的好奇心を喚起する教育方針に沿って、アクティブ・ラーニング的教育方法を導入して授業を行うとあるように規程に基づいて授業を行うよう所見で提言した。

[学生の居眠りへの対応]

- ①注意あり → 1コマ
- ②注意なし → 8コマ

教員授業実施規程第21条(授業妨害行為への対処)の第2項には、教員が学生の居眠りを排除するよう定められている。規程に基づいて授業を行うよう所見で提言した。

◆学生を惹きつけた授業

参観した20コマのうち、変化のある授業展開で学生を惹きつけた授業が2コマあった。

- ①課題を基に時間を短めに配分、学生に課題を順次、指名して読ませたあと、その都度、具体例を挙げて簡潔に講義。次いで、演習に入り巡回してアドバイスするなど、効果的な授業展開で学生を惹きつけた → 専任教員
- ②課題を基に簡潔に講義する、ポイントを展示する、ポイントをまとめたプリントを配布する、質問をして理解を深めた後、演習に入る授業展開は、テンポよく教室内を活性化した → 非常勤教員

◆提言 魅力ある授業の実施

①アクティブ・ラーニング的教育方法を導入する。

教員授業実施規程にあるように、一方的に知識を伝達する講義ではなく、目標や課題を設定して学生とのツ－ウェイ方式の授業を行う。

内容にもよるが、講義する、教科書・プリントを読ませる、質問する、感想を聞く、ディスカッション又はディベート等を導入する、グループワークの活用等。

②立体授業

パワーポイント：簡潔に読みやすくする、見やすくする。

DVD・VTR：長い内容を短縮する。10分～15分に。

③応答の明瞭化

着席している学生との応答は、声が籠もり聞き取れない場面が数多くあった。起立して、全体にハッキリと聞こえるようにする。

④講義(話し方)に変化をつける。

◆シラバスの統一について

平成28年度の授業参観は、福祉学部、短期大学部合わせて20コマ実施した。シラバスは作成されているが内容は統一されていなかった。

[シラバス]

1. 福祉心理学科

①授業計画 目次 各学年の授業科目 ページ掲載

②教育課程表

③授業計画 各授業科目の内容

2. こども学科、保育科第一部・第二部、食物栄養科

①教育課程表

②授業計画 目次 各学年の授業科目 ページ掲載

③各授業科目の内容

3. 情報ビジネス科

①教育課程表

②授業計画 各授業科目

[授業概要]

「授業の到達目標」

「評価方法・基準」

内容が短い、長いなど統一されていなかった。

原則を決めて、簡潔な内容とし学生が理解しやすいようにする。

例えば、文字行数、文字数の概要を決める。

(参照)

文部科学省 大学における教育内容等の改革状況調査について(照会)

[各学部・研究科の状況について]回答してください。

①シラバスの記載項目(フォーマット)を統一していますか

1. 全ての授業科目でシラバスを作成し、統一している

2. 全ての授業科目でシラバスを作成しているが、統一していない

3. シラバスを統一していない授業科目がある(理由:)

平成28年度学長・学科長による授業参観結果

学 長 小 松 由 美

対象教員（前年度授業評価アンケート結果の総合評価点3.7未満教員、新任専任教員及び新任非常勤教員）

参観者と対象人数

学 長 ： 2名(食物栄養科2名)

学科長 ： 3名(こども学科1名、保育科第一部1名、情報ビジネス科1名)

参観期間 ： 平成28年5月25日～6月29日

参観結果まとめ

①シラバスにそった授業の実施

当日の授業はシラバス通りに進められており、整合性がとれていた。

②授業開始時及び終了時の明示、出席の確認

授業開始時と終了時に挨拶をすることによって明確にし、出席も数分で取り、スムーズに授業に入っていた。

③当日授業における使用教材との整合性

教科書を補う使用教材として、専任教員、非常勤教員とも手作りの教材や映像資料を活用していた。

④授業の進め方等

パワーポイントを使用して授業を進めた教員の場合、授業展開に差が見られた。学生の反応を見ながら、時折問いかけをして声を出させて進めた教員がいる一方で、パワーポイントを見せて話を進めるだけの教員の授業では学生の反応が薄かった。

[全体講評]

シラバス及び使用教材との整合性はほぼ問題はなく、授業方法と展開を一層工夫する必要がある。教育改革の一つである能動的学修(アクティブ・ラーニング)にはさまざまな手法があるが、従来型の「教える(知識・技能を詰め込む)」ことから、今後は社会の変化に合わせて、学んだ知識・技能を活用して判断、交渉、課題解決に結び付け、活用する力が求められる。毎年のFD研修で科目相互の連関を考えながら、より良い授業の実現に向けて取り組んでいく必要がある。

平成28年度 福島学院大学
自己点検・評価報告書

平成29年8月1日発行

編 集 福島学院大学学長室

発 行 福島学院大学

〒960-0181 福島市宮代乳児池1-1

TEL 024-553-3221

FAX 024-553-3222

印 刷 株式会社日進堂印刷所

〒960-2194 福島市庄野字柿場1-1

TEL 024-594-2211

